

令和 6 年 度

授 業 概 要

作 業 療 法 学 科

学校法人 山口コア学園
山口コ・メディカル学院

Yamaguchi Allied Health College

令和 6 年度

- ◇ 学校行事日程
- ◇ 年次別開講科目一覧
- ◇ 実務経験のある教員等による
授業科目一覧

令和6年度 学校行事日程

4月	日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	4日 入学式
	14	15	16	17	18	19	20	5日 対面式・前期オリ
	21	22	23	24	25	26	27	8日 前期授業開始
	28	29	30					11日 内科検診・レントゲン

5月	日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	2日 自治会総会・春レク
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		

6月	日	月	火	水	木	金	土	
							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	

7月	日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	7/22～8/2 前期定期試験
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

8月	日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	5～9日 前期定期試験予備日(再試)
	11	12	13	14	15	16	17	8/13～9/13 夏季休業
	18	19	20	21	22	23	24	24日 臨床実習指導者会議
	25	26	27	28	29	30	31	

9月	日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	17日 後期オリ・後期授業開始
	29	30						

	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
10月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

18日

自治会総会・秋レク

	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
11月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

2日

学園祭

	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
12月	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

12/23～1/6

冬季休業

	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
1月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

7日

授業再開

1/20～1/31

後期定期試験

	日	月	火	水	木	金	土
							1
2月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	

2/3～2/7

後期定期試験予備日(再試)

	日	月	火	水	木	金	土
							1
3月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

8日

卒業式

春季休業(～3/31)

作業療法学科

1. 基礎科目

科 目	単 位		開 講 時間数	開講期								卒業要件	指 定 規 則 教 育 内 容
				1年		2年		3年		4年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英 語 I (文 献 I)	1		15	15							3単位必修	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	
英 語 II (医 学 英 語)	1		15			15							
英 語 III (英 会 話)	1		15	15									
体 育 理 論	1		30		30						2単位必修	14単位以上	
体 育 実 技	1		30	30									
哲 学 I	1		15	15							14単位以上		
哲 学 II	1		15		15								
心 理 学 I	1		15	15									
心 理 学 II		1	15		15								
法 学 I	1		15		15								
教 育 学 I	1		15		15								
教 育 学 II		1	15		15								
社 会 福 祉 学	2		30		30								
統 計 学	1		15		15								
物 理 学		2	30	30									
生 物 学	2		30	30									
情 報 科 学 I	1		15		15								
情 報 科 学 II	1		15			15							
小 計	17	4	345	150	165	15	15	0	0	0	0		14単位

2. 専門基礎科目

科 目	単 位		開 講 時間数	開講期								卒業要件	指 定 規 則 教 育 内 容
				1年		2年		3年		4年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
解 剖 生 理 学 I	1		30	30							12単位必修	人体の構造と機能 及び心身の発達	
解 剖 生 理 学 II	1		30		30								
解 剖 生 理 学 III	1		30	30									
解 剖 生 理 学 IV	1		30		30								
解 剖 学 I 実 習	1		30	30									
解 剖 学 II 実 習	1		30		30								
生 理 学 実 習	1		30			30							
運 動 学 I	1		30	30									
運 動 学 II	1		30		30								
運 動 学 実 習	1		30			30							
臨 床 心 理 学	1		30	30									
人 間 発 達 学	1		30				30					12単位	
病 理 学	1		30		30						14単位必修	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	
内 科 学 I	1		30			30							
内 科 学 II	1		30				30						
小 児 保 健 学	1		30			30							
神 経 内 科 学	1		30			30							
精 神 医 学	1		30			30							
整 形 外 科 学 I	1		30			30							
整 形 外 科 学 II	1		30				30						
医 学 概 論	1		15	15									
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 医 学	1		15			15							
救 急 医 学	1		15					15					
脳 神 経 外 科 学	1		15					15					
薬 理 学	1		15					15					
栄 養 学	1		15					15				14単位	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 概 論	1		30	30							3単位必修	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	
地 域 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学	1		30				30						
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 工 学	1		30					30					
理 学 療 法 概 論	1		15					15			3単位以上		
言 語 聴 覚 療 法 概 論	1		15					15					
看 護 学 概 論		1	15					15					
ボ ラ ン テ ィ ア 論		1	15		15							4単位	
小 計	31	2	840	195	165	225	120	135	0	0	0		

3. 専門科目

科 目			開講期												卒業要件	指 定 規 則								
			単 位 必 修 選 択		開 講 時間数	1年		2年		3年		4年		教 育 内 容										
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
作 業 療 法 概 論	1		30	30									14単位必修	基礎作業療法学										
基 礎 作 業 学Ⅰ	1		30		30																			
基 礎 作 業 学Ⅱ	1		30			30																		
作 業 療 法 セ ミ ナ ーⅠ	1		15	15																				
作 業 療 法 セ ミ ナ ーⅡ	1		15		15																			
作 業 療 法 セ ミ ナ ーⅢ	1		15			15																		
作 業 療 法 セ ミ ナ ーⅣ	1		15				15																	
作 業 療 法 セ ミ ナ ーⅤ	1		30					30																
作 業 療 法 セ ミ ナ ーⅥ	1		30						30															
作 業 療 法 セ ミ ナ ーⅦ	2		60								60													
作 業 療 法 研 究 法	1		30						30															
臨 床 作 業 療 法 実 践 研 究	2		60								60													
													6単位											
作 業 療 法 管 理 学Ⅰ	1		30					30					2単位必修	作業療法管理学 2単位										
作 業 療 法 管 理 学Ⅱ	1		30								30													
作 業 療 法 評 価 学 総 論	1		30		30								6単位必修	作業療法評価学										
作 業 療 法 評 価 学Ⅰ（身体機能）	1		30		30																			
作 業 療 法 評 価 学Ⅱ（身体機能）	1		30			30																		
作 業 療 法 評 価 学Ⅲ（身体機能）	1		30			30																		
作 業 療 法 評 価 学Ⅳ（精神・認知機能）	1		30				30																	
作 業 療 法 評 価 学 演 習	1		30				30																	
臨 床 作 業 学	1		30					30					22単位必修	作業療法治療学										
作 業 治 療 学 総 論	1		30		30																			
身体機能作業治療学Ⅰ（中枢神経系）	1		30			30																		
身体機能作業治療学Ⅱ（内部障害・筋神経系）	1		30				30																	
身体機能作業治療学Ⅲ（筋・骨格系）	1		30					30																
精神機能作業治療学Ⅰ（基礎）	1		30			30																		
精神機能作業治療学Ⅱ（応用Ⅰ）	1		30				30																	
精神機能作業治療学Ⅲ（応用Ⅱ）	1		30					30																
発 達 過 程 作 業 治 療 学	1		30			30																		
日 常 生 活 活 動 学	1		30		30																			
日 常 生 活 活 動 学 演 習	1		30				30																	
高 次 神 経 機 能 障 害 学	1		30				30																	
義 肢 装 具 学 総 論	1		30				30																	
義 肢 装 具 学 各 論	1		30					30																
作 業 治 療 学 演 習Ⅰ	2		60					60																
作 業 治 療 学 演 習Ⅱ	2		60						60															
作 業 治 療 学 演 習Ⅲ	2		60						60															
作 業 療 法 治 療 学 特 論Ⅰ	1		30					30																
作 業 療 法 治 療 学 特 論Ⅱ	1		30							30														
													19単位											
地 域 作 業 療 法 学	1		30				30						4単位必修	地域作業療法学										
地 域 作 業 療 法 学 演 習	1		30					30																
社 会 福 祉 援 助 技 術 論	1		30						30															
生 活 環 境 論	1		30						30															
臨 床 実 習Ⅰ	1		40			40							25単位必修	臨床実習										
臨 床 実 習Ⅱ	8		320						320															
臨 床 実 習Ⅲ	8		320							320														
臨 床 実 習Ⅳ	8		320								320													
小 計													73	0	2380	45	165	235	255	360	500	670	150	22単位

		単 位		開 講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次	
		必 修	選 択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
合	計	121	6	3565	390	495	475	390	495	500	670	150
					885		865		995		820	

4. 卒業要件単位数

分野	教 育 内 容	科目	単位	卒業要件単位数		
				必修	選択	
基礎 基	科学的思考の基盤,人間と生活,社会の理解	18	21	17	2	
	人体の構造と機能及び心身の発達	12	12	12		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	14	14	14		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	7	7	5	1	
専門	基礎作業療法学	12	14	14		
	作業療法管理学	2	2	2		
	作業療法評価学	6	6	6		
	作業療法治療学	19	22	22		
	地域作業療法学	4	4	4		
	臨床実習	4	25	25		
	合 計	98	127	121	3	124

実務経験のある教員等による授業科目一覧 作業療法学科

科目名	単位数	時 間 数			
		1年次	2年次	3年次	4年次
解剖学Ⅰ実習	1	30			
解剖学Ⅱ実習	1	30			
生理学実習	1		30		
運動学Ⅰ	1	30			
運動学Ⅱ	1	30			
運動学実習	1		30		
リハビリテーション概論	1	30			
地域リハビリテーション学	1		30		
理学療法概論	1			15	
言語聴覚療法概論	1			15	
看護学概論	1			15	
作業療法概論	1	30			
基礎作業学Ⅰ	1	30			
基礎作業学Ⅱ	1		30		
作業療法セミナーⅠ	1	15			
作業療法セミナーⅡ	1	15			
作業療法セミナーⅢ	1		15		
作業療法セミナーⅣ	1		15		
作業療法セミナーⅤ	1		30		
作業療法セミナーⅥ	1		30		
作業療法セミナーⅦ	2				60
作業療法研究法	1			30	
臨床作業療法実践研究	2				60
作業療法管理学Ⅰ	1			30	
作業療法管理学Ⅱ	1				30
作業療法評価学総論	1	30			
作業療法評価学Ⅰ(身体機能)	1	30			
作業療法評価学Ⅱ(身体機能)	1		30		
作業療法評価学Ⅲ(身体機能)	1		30		
作業療法評価学Ⅳ(精神・認知機能)	1		30		
作業療法評価学演習	1		30		
臨床作業学	1			30	
作業治療学総論	1	30			
身体機能作業治療学Ⅰ(中枢神経系)	1		30		
身体機能作業治療学Ⅱ(内部障害・筋神経)	1		30		
身体機能作業治療学Ⅲ(筋・骨格系)	1			30	
精神機能作業治療学Ⅰ(基礎)	1		30		
精神機能作業治療学Ⅱ(応用)	1		30		
精神機能作業治療学Ⅲ(応用)	1			30	
発達過程作業治療学	1		30		
日常生活活動学	1	30			
日常生活活動学演習	1		30		
高次神経機能障害学	1		30		
義肢装具学総論	1		30		
義肢装具学各論	1			30	
作業治療学演習Ⅰ	2			60	
作業治療学演習Ⅱ	2			60	
作業治療学演習Ⅲ	2			60	
作業療法治療学特論Ⅰ	1			30	
作業療法治療学特論Ⅱ	1				30
地域作業療法学	1		30		
地域作業療法学演習	1			30	
社会福祉援助技術論	1			30	
生活環境論	1			30	
臨床実習Ⅰ	1		40		
臨床実習Ⅱ	8			320	
臨床実習Ⅲ	8				320
臨床実習Ⅳ	8				320

基 礎 科 目

作業療法学科

基礎科目 1 年次

◇英語Ⅰ（文献Ⅰ）

◇英語Ⅲ（英会話）

◇体育理論

◇体育実技

◇哲学Ⅰ

◇哲学Ⅱ

◇心理学Ⅰ

◇心理学Ⅱ

◇法学

◇教育学Ⅰ

◇教育学Ⅱ

◇社会福祉学

◇統計学

◇物理学

◇生物学

◇情報科学Ⅰ

作業療法学科

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	英語 I (文献 I)					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	上田 由紀子						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 義務教育・中等教育で学んだ英語の読解力を定着させ、更なる発展をはかるため、精読や英文和訳に限らず、大意把握や速読などさまざまな英語リーディング活動や英語構文把握の練習を行う。医療現場で使われることの多い英語を扱った教材を用いる。					【到達目標】 ・一定の長さの英語文書に対処する読解力と構文理解力と語彙力を養成する。 ・受け身の読解ではなく、アクティブに読む力を付ける。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション & Unit 1 前半 : 手紙文・履歴書の定型、内容把握					段落ごとのテーマを意識して一定量の英語の文章を読み、理解できる。辞書を活用できる。手紙文の形式を理解できる。				
2	Unit 1 後半 : 命令文についての文法問題解釈					段落ごとのテーマを意識して一定量の英語の文章を読み、理解できる。辞書を活用できる。命令文の形式を理解し、命令文を作文できる。				
3	Unit 4 前半 : 身体構造・内臓を説明する語彙と長文内容把握					段落ごとのテーマを意識して一定量の英語の文章を読み、理解できる。辞書を活用できる。脳と聞き手の仕組みを英語で理解できる。				
4	Unit 4 後半 : 疑問詞の応用					段落ごとのテーマを意識して一定量の英語の文章を読み、理解できる。辞書を活用できる。whichを使った疑問文を理解し、作文できる。				
5	Unit 7 前半 : 症状を説明する語彙と長文内容把握					段落ごとのテーマを意識して一定量の英語の文章を読み、理解できる。辞書を活用できる。症状を表す語を英語で理解できる。				
6	Unit 7 後半 : 動名詞についての文法問題演習					段落ごとのテーマを意識して一定量の英語の文章を読み、理解できる。辞書を活用できる。動名詞を使った文を理解できる。				
7	試験									
8	試験返却と解説と本学期の学習のまとめ					試験のポイントを理解し、自身の英語学習に生かすことができる。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	医療と看護の総合英語(三訂版)					笹島 茂(著) 山崎 朝子(著)		三修社		
参考図書等										
成績評価方法	1. 授業参加度(20%) 2. 宿題等(10%) 3. 定期試験(70%)					履修上の注意	・教室内で行うリーディングを中心とした言語活動に積極的に取り組んでください。 ・何らかの英和辞書(冊子か電子辞書あるいはスマホのアプリ)を毎回持参して下さい。			
						実務経験紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	英語Ⅲ(英会話)					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	尊田 望 (Sonda,Nozomu)						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 初級上から中級の下程度の学習者(英検準2級前後、TOEIC400点前後)を対象とし、中級の下から中程度のレベルを目標とする(英検2級程度、TOEIC 500点程度)。中学校程度の英語を復習しながら、様々な状況における実用的な英語会話能力を養成する。正確な発音や文法よりも、コミュニケーション能力の養成を重視する。読む・書く作業も若干含む。					【到達目標】 基本的な自己紹介ができる。日常的なトピックについて簡単な会話ができる。社会的な事柄や問題について自分の意見を簡単な英語で述べることができる。					
授業の主な要素 * Warm-up * Conversation * Vocabulary exercise * Grammar and drill exercise * Graded Readers * Communication game / exercise on a given topic * Summary										
回数	項目			内容				宿題		
1	Getting acquainted & Family 自己紹介・家族			会話演習・語彙ゲーム・Mind game or 家系図				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Travel)		
2	Travel Abroad 海外旅行			会話演習・語彙ゲーム・国名クロスワード・国旗				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Food)		
3	Food & Eating 食べ物と食べること			会話演習・語彙ゲーム・Restaurant game & placing orders				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Movies,TV & Music)		
4	Movies & Music 映画と音楽			会話演習・語彙ゲーム・movie viewing & listening exercise				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Love & Romance)		
5	Love & marriage 恋愛と結婚			会話演習・語彙ゲーム・Romance score game				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Japanese Culture & Geography)		
6	Culture & places in Japan 日本の文化と地理			会話演習・語彙ゲーム・Japanese story game				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Global Coomunity)		
7	Global Community 国際社会			会話演習・語彙ゲーム・"Where is Matt san?" & global community building				試験の準備		
8	Final Exam 期末試験			英語会話						
教科書 参考 図書等	書籍名			著者			出版社			
	English Four Skills and Three Pillars of Meaning, Fluency and Accuracy Second Edition			Nozomu Sonda			One World International			
成績評価 方法	●授業内演習=20% ●宿題=20% ●プレゼンテーション=20% ●期末試験=40%				履修上の 注意	欠席の場合は教官に相談して下さい。 辞書を持参すること。				
					実務経験 紹介					

科目 区分	基礎	履修形態	必修	科目名	体育理論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	杉浦 崇夫						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 本講義では、健康の保持増進のための身体運動の意義を理解するとともに、健康の保持増進のために運動を実践する際に必要な基本的考え方ならびに具体的方法について理解修得することを目的とする。					【到達目標】 1.身体運動時のからだの変化を説明できる。 2.健康の保持増進を目的とした身体運動の効果について説明できる。 3.健康の保持増進を目的とした身体運動を実践するための具体的方策を立案できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	ガイダンス					運動の功罪について、トレーニングがからだに及ぼす変化についてプラス/マイナス両方の影響について理解する。				
2	身体運動時のエネルギー産生					ATPの再合成経路である ATP-CP系、乳酸系、有酸素系の特性ならびに運動との関連について理解する。				
3	呼吸器系と運動					運動時の呼吸器系の変化とトレーニングによる変化について理解する。				
4	循環器系と運動					運動時の循環器系の変化とトレーニングによる変化について理解する。				
5	骨格筋の基本的構造 筋線維タイプの特性と運動					骨格筋の基本的構造、筋線維タイプの特性ならびにトレーニングによってどのように変化するかを理解する。				
6	発揮張力に及ぼす要因ならびに収縮様式と筋力					筋の収縮力に及ぼす生理学的メカニズム、筋の収縮様式ならびにその特性について理解する。				
7	筋萎縮と筋肥大					筋萎縮と筋肥大のメカニズムさらに萎縮の予防策について理解する。				
8	運動時のエネルギー基質					運動時の栄養素についての知識を修得し、 持久的パフォーマンスを高めるためのスポーツ飲料の組成について				
9	エネルギー消費の算出法					RMRとMETsを理解し、エネルギー消費量を算出することができる。				
10	肥満と運動					生活習慣病としての肥満の成因ならびにその予防策について理解する。				
11	骨粗鬆症と運動					生活習慣病としての骨粗鬆症の成因とその予防策について理解する。				
12	動脈硬化と運動					生活習慣病としての動脈硬化の成因とその予防策について理解する。				
13	糖尿病と運動					生活習慣病としての糖尿病の成因とその予防策について理解する。				
14	運動処方(有酸素運動)					健康保持のための有酸素運動の必要性和実施の具体について理解する。				
15	運動処方(無酸素運動)					健康保持のための筋力トレーニングの必要性を理解し実施の具体について理解する。				
16	まとめ									
教科書	書籍名					著者		出版社		
	現代栄養科学シリーズ18「運動生理学」					池上 晴夫(著)		朝倉書店		
参考 図書等										
成績評価 方法	期末試験と授業態度で評価する。					履修上の 注意	欠席が4回以上の者には単位を与えない。			
						実務経験 紹介				

科目 区分	基礎	履修形態	必修	科目名	体育実技					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業・言語	学期	前期	授業形態	実技
担当	兼行 剛士						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 新体力テストの中から室内で実施できる6種目を測定することで個々の運動能力を知り、その後の活動の中で改善と向上を図る。球技(ソフトタッチバレーボール)やパラスポーツを協力しながら行い、「するスポーツ」の楽しさを体感しながら体力の向上と相互理解を深める。「支えるスポーツ」の視点から、リハビリテーションとの関りが強く、またアスレティックトレーナーの分野でもあるストレッチ・各種トレーニング・テーピング等の基本的な実践方法を修得する。					【到達目標】 ・個々の運動能力の現状を知り、実践の中でその改善と向上を図る。 ・他者と協力しながら、個々の運動能力に応じて「するスポーツ」の楽しさを体感し、体力の向上を図り相互理解を深める。 ・「支えるスポーツ」の視点からストレッチ・各種トレーニング・テーピング等の実践方法を修得する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 新体力テスト「反復横跳び 握力 長座位前屈 立ち幅跳び 上体起こし」					体育実技のねらいと内容を理解する 正しい測定方法で正確に測定を行う				
2	20mシャトルラン 測定結果の集計・評価 球技(ソフトタッチバレーボール)					測定の結果を集計・評価し今後の活動に活かす 他者と協力し安全に球技を楽しむ				
3	コーディネーショントレーニング① 球技(ソフトタッチバレーボール)					動きの調整力を高める運動を、その目的を理解しながら体験する				
4	ポッチャ 球技(ソフトタッチバレーボール)					手軽にできるパラスポーツを体験しその楽しさと実施方法を知る				
5	ストレッチボールによるストレッチ 球技(ソフトタッチバレーボール)					用具を使用した柔軟運動のやり方を体験し理解する				
6	チューブトレーニング 球技(ソフトタッチバレーボール)					用具を使用した筋力トレーニングのやり方を体験し理解する				
7	コーディネーショントレーニング② 球技(ソフトタッチバレーボール)					動きの調整力を高める運動を、その目的を理解しながら体験する				
8	ゴールボール 球技(ソフトタッチバレーボール)					手軽にできるパラスポーツを体験しその楽しさと実施方法を知る				
9	スポーツマッサージ 球技(ソフトタッチバレーボール)					マッサージの基本的なやり方を体験・習得する				
10	コアトレーニング・ピラティス 球技(ソフトタッチバレーボール)					体幹トレーニングの効果を理解し、基本的な動きを体験・習得する				
11	テーピング① 球技(ソフトタッチバレーボール)					テーピングの効果を理解し基本的なやり方を体験・習得する				
12	テーピング② 球技(ソフトタッチバレーボール)					テーピングの効果を理解し基本的なやり方を体験・習得する				
13	球技実技 (多種目:学生企画)					集団スポーツに参加し楽しむことで、スポーツ活動の資質や能力を育てることに興味を持つ。				
14	球技実技 (多種目:学生企画)					集団スポーツに参加し楽しむことで、スポーツ活動の資質や能力を育てることに興味を持つ。				
15	球技実技 (多種目:学生企画)					集団スポーツに参加し楽しむことで、スポーツ活動の資質や能力を育てることに興味を持つ。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者				
	特になし									
成績評価 方法	出席状況 授業への興味・関心・意欲・態度 安全への配慮 協力の姿勢					履修上の 注意	運動のできる服装と体育館シューズで参加すること ピアス・ネックレス等は安全上禁止する 爪の長さに配慮すること 水分補給の用意			
						実務経験 紹介				

科目 区分	基礎	履修形態	必修	科目名	哲学Ⅰ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	村瀬 ひろみ						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 近年、科学技術の発展とともに、医療をめぐる技術にも大きな変化がある。また、疾病の構造が変化し、従来の「おまかせ医療」では通用しなくなった。そのような激動の医療現場では、さまざまな利害が衝突し、また、価値を伴う判断を迫られることになる。そのような場合に、判断の根拠となるものが「倫理」である。本講では、生命や医療にまつわる生命倫理学の立場から、さまざまな医療環境における問題を考える力を養う。					【到達目標】 ・医療の歴史が大枠で理解できる。 ・人権、患者の権利について、歴史的な視点から理解できる。 ・生命倫理学の誕生について、理解できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	バイオシックスのあらまし、オリエンテーション (受講上の注意とルール、何を何のために学ぶか)					倫理学とはなにか、今後どのような意識をもって臨めばよいかを理解する				
2	疾患構造の変化とパターンリズム					従来の医療のあり方についてどのようなものかを知り、批判的な検討ができる				
3	患者の権利の誕生 (人権と患者の権利)					患者の人権がどのように誕生し、それをどのように守るかについて、制度やしきみが理解できる				
4	人体実験と生命倫理学 (第2次世界大戦と、医療)					第二次世界大戦における医療の負の歴史について学び、医療者としての責任責務について、十分に理解する				
5	高度先端医療と生命倫理					20世紀以降、高度先端医療が発展したことの功罪について、検討し理解する				
6	コ・メディカルと医療倫理					チーム医療について学び、その重要性について理解できる				
7	総括					今までのまとめをするとともに、疑問点やポイントについて理解し、説明できる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	プリントを配布します。									
参考 図書等	医療倫理学の方法 原則・ナラティブ・手順					宮坂道夫		医学書院		
成績評価 方法	定期試験					履修上の 注意	講義形式ではあるが、積極的な参加を求めます。講義を受けるときの注意事項は第一回で詳述するので、理解して講義に臨むようにしてください。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	哲学Ⅱ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	村瀬 ひろみ						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 哲学Ⅰに引き続き、医療をめぐる倫理的な問題について哲学、倫理学の視点から考える。Ⅰでは主に総論的な視点を学習したが、このⅡでは、実際に医療現場で起こっていることをひとつずつ検証しながら、話を進めていく。生、性、死に関する具体的な倫理学を通して、職業倫理についての基本的要素を養う。					【到達目標】 ・生命誕生における生命倫理学的問題について、理解できる。 ・先端技術の推進派、否定派、様々な立場を理解する。 ・死について、考えることができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	生と性をめぐる生命倫理学・・・人工妊娠中絶（日本の中絶をめぐる制度と法律、優生学）					前期の総論を踏まえて、生殖に関する制度法律の歴史を学び、理解する				
2	生と性をめぐる生命倫理学・・・人工妊娠中絶2（キリスト教世界における中絶と、世界）					人工妊娠中絶について世界の動向や、考え方が理解できる				
3	生と性をめぐる生命倫理学・・・出生前診断					優生学という考え方を批判的に検討し、出生前診断などの技術を理解できる				
4	生と性をめぐる生命倫理学・・・高度生殖医療（高度生殖医療の種類と実際）					高度生殖医療における倫理について理解できる				
5	生と性をめぐる生命倫理学・・・高度生殖医療2（代理母、代理出産の現状と未来）					高度生殖医療をめぐる問題点について、子どもの権利とともに理解できる				
6	高度生殖医療についてのビデオ視聴					実態を理解し、患者やその家族の心情や苦しみに寄り添うことができる				
7	生命倫理学まとめ					生命倫理学の今日的な課題について、積極的に情報集める能力を身につける				
教科書	書籍名					著者				
	プリントを配布します。									
参考図書等	医療倫理学の方法 原則・ナラティブ・手順					宮坂道夫			医学書院	
成績評価方法	定期試験					履修上の注意	講義形式ではあるが、引き続き積極的な参加を求めます。質問シートの活用をしてください。			
						実務経験紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	心理学Ⅰ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	恒吉 徹三						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人のこころを理解する基礎的な視点について学ぶことを目的とする。特に、個人差や社会への適応とかかわる領域を取り扱う。その際、身近な題材も講義の中に取り入れることで、心理学を身近なものとして理解し、臨床現場での対象者の理解に生かせるように学んでいきます。					【到達目標】 ・心理学の基礎的な概念や理論について理解し説明ができる。 ・心理学の中でも特に個人差のかかわる領域に関する概念やその研究方法について理解し説明ができる。 ・臨場的な場や日常的なことに関連付けて心理学的な概念を理解し説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	心理学とは（心理学の特徴、歴史、データの収集方法）：レポート①					心理学の歴史の概要、初期の主要3学派の特徴、基本的な研究方法について理解し説明できる				
2	心の発達① （アタッチメント理論を中心に）					発達の基本的な捉え方、乳児の研究手法、アタッチメントの基本概念と研究方法、個別スタイルの特徴、共同注意、心の理論について理解し説明できる				
3	心の発達② （エリクソンの理論を中心に）：レポート②					エリクソンの個体発達分化の図式（漸成的発達論）について各段階の特徴を理解し説明できる				
4	動機づけ （動機づけの種類とその意味づけ）					動機づけの概念、行動との関連、動機づけと葛藤について理解し説明できる（マズローの欲求階層説、自己決定論も含む）				
5	感情の理論、パーソナリティ理論 （特性論と因子論およびいくつかのパーソナリティ理論）					・感情の生起メカニズムやその理論、及びパーソナリティ理論とそ分類について理解し説明できる（特性論と因子論、ビッグファイブを含む）				
6	知能 （古典的理論と現代的理論）：レポート③					知能の理論と知能の発達段階における特徴について理解し説明できる（ピアジェの発生的認識論、多重知能理論含む）				
7	ストレスとメンタルヘルスケア （基本モデルといくつかの理論的立場からの説明）					ストレスの基本的な概念と援助理論の基本的な理論について理解し説明できる（ストレスの発生メカニズム、防衛機制を含む）				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	はじめて出会う心理学(第3版)					長谷川寿一・東條正城・大島尚 他著		有斐閣アルマ		
参考図書等	アイデンティティの心理学＊					鐘幹 八郎		講談社現代新書		
	＊関心に応じて読んでください。									
成績評価方法	1．授業内レポート(30%) 2．試験(70%)					履修上の注意	授業内レポートを3回実施します。これは、授業で学んだ内容を、自分がどの程度説明できるかを確認するための振り返りレポートです。 (平常点:30点＝10点×3回)			
						実務経験紹介				

科目区分	基礎	履修形態	選択	科目名	心理学Ⅱ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	小野 史典						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人間の心の働きを科学的な視点から概観する。特に人間の知覚的および認知的側面に焦点を当て、我々の生活場面における心的メカニズムを論考する。					【到達目標】 心理学の基礎的な知識と共に、日常生活における様々な心的営みに対して科学的な観点から考察する能力を修得することが目的。					
回数	授業内容					学習目標				
1	効果の確かさ					心理学における心の働きの解明する代表的な研究法について理解する				
2	知覚					人間の知覚における基本的な仕組みを理解する				
3	認知					人間の認知に関する代表的な研究とその知見について理解する				
4	発達					人間の発達に伴う認知の変化について理解する				
5	学習					心理学における学習の基礎とその考え方について理解する				
6	記憶					心理学における記憶の考え方と代表的な知見について理解する				
7	動機					動機づけに関する基本的な考え方とそのメカニズムについて理解する				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	テキストは用いず、講義資料に基づいて授業を行う。									
参考図書等	講義中に紹介する。									
成績評価方法	1. 試験(50%) 2. 出席(50%)					履修上の注意	自分なりの講義ノートを作成し、それを試験に活用されたい。			
						実務経験紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	法学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	小林 友則						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 いかなる仕事においても、また私生活においても、意識するか否かを問わず、法と無関係でいられることはない。そこで法学では、法が社会をどのように規律しているかを学ぶ。 授業では生活・仕事において関わる可能性が高い法制度を素材として、いかなる趣旨の下、どのような規範が定められているかを学ぶとともに、法による規律の結果がどうなるかを考える。					【到達目標】 ・法システムがどのような形で社会を規律しているかを理解する。 ・法システムによる規律の結果がどうなるかを考えられるようになる。 ・生活・仕事において関わる可能性が高い法制度の内容を理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	試験					法がどのような形で社会を規律しているかを理解する 法規範の使い方を理解する				
2	法システム内の法律や権利					法システムがどのような法律や権利を内包しているか理解する				
3	契約制度					社会において人と人との相互の関係を自律的に構築していくための法制度を理解する				
4	代理制度					他人を通じて関係性を構築するための法制度を理解する				
5	瑕疵ある意思表示を規律する制度					望む形とは異なる契約が締結された場合にどのような規律がなされるかを理解する				
6	著作物および個人情報の保護					著作権法および個人情報保護法が社会をどのように規律しているか理解する				
7	不法行為制度					法的な権利・義務関係を時間の経過をもって変更する法制度を理解する				
教科書	書籍名					著者				
	18歳からはじめる民法〔第5版〕					潮見佳男 他編著				
						法律文化社				
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	期末試験の結果で評価する					履修上の注意	2024年度は前期に開講いたします。			
						実務経験紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	教育学Ⅰ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	佐々木 司						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 教育の原理的な面を、教育の意義、人間の発達と教育、学校教育の課題などから広範に理解することにより、教育学の基礎を身につける。					【到達目標】 ・医療・福祉・保健分野における教育の意義を理解する。 ・人間の発達と可能性に及ぼす教育の影響について理解する。 ・学校教育の課題や制度的変容を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	講義についての説明、アイスブレイキングの技法…講義、グループワーク					授業概要、授業における到達目標、授業計画全体を俯瞰したうえで、個別の授業の意味や意図を知ろうとする見方を身につける。				
2	新しい教育課題…講義					変化の激しい時代において、何が現代的な教育課題として生まれ、それに対してどのような改善策、改革案が考えられているのかを知る。				
3	人間の発達と教育…講義、グループワーク					人間の成長・発達とは他の動物とどのように違っているのか、人の成長・発達を支援するとはどのようなことなのかを理解する。				
4	教育推進の基本的方向…講義					医療・福祉・保健分野における教育の意義、求められている方向性、注意すべき諸点について学ぶ。				
5	学校という制度…講義					学校という馴染みのある教育機関について相対化して捉え直すことで、教育の意味や意義、学校の利点と問題点などを考察する。				
6	社会教育のしくみと課題…講義					地域社会で行われている教育、学校と社会との連携・融合について学ぶ。コミュニティ・スクールなど、地域の教育力を活かした取り組みについても理解する。				
7	進路指導と生徒指導…講義、グループワーク					学校の教師が行っている進路指導・生徒指導を、医療関係者に応用しながら、ものの見方、考え方を高める。				
教科書 参考図書等	書籍名					著者				
	やさしく学ぶ教育の原理					佐々木 司・熊井将太 編著				
	適宜紹介					ミネルヴァ書房				
成績評価 方法	1. 提出課題(30%) 2. 試験(70%)					履修上の 注意	・毎回、ノートをしっかり取り、その日のうちに復習すること。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	選択	科目名	教育学Ⅱ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	佐々木 司						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 教育の方法や技能の基礎・基本を、医療現場で働く者にも求められる重要なスキルとして捉え、教育の方法や各種技能を身につける。					【到達目標】 ・医療・福祉・保健分野に応用可能な教育方法の本質と技法を理解する。 ・指導案の作成過程を通して、他者に学習を促す際の要点を理解する。 ・模擬授業を行うことによって、授業者としての課題と改善点を知る。					
回数	授業内容					学習目標				
1	授業についての説明、「教育の方法」を学ぶための心構えと具体的方法・・・講義					医療分野への応用を意識しながら、教育の分野ではどのような教授方法、学習支援方法等が用いられているのかについて、基礎的事項を習得する。				
2	教師の職務と責任・・・講義、グループワーク					教師の職務と責任を理解するとともに、それを医療分野に応用するために、どのような見方、考え方をすればよいのか。また、他者から学習意欲や肯定的な反応を引き出すにはどうすればよいのかを学ぶ。				
3	教育方法の基礎・・・講義					教育には、いくつもの方法、技術が埋め込まれている。そして、それら教育方法は、時代とともに変容してきた。教育の方法には、いかなるものがあるのか、それらは何を意図しているのかについて理解する。				
4	授業の構成要素と発問の組織化・・・講義					これまで学校において数多く受けてきた「授業」を、時間、流れ、構成要素、教師の行為等の面から分析・考察することにより、ものごとの内面、背景、意図を実感できるようになる。				
5	指導案の作成・・・講義、グループワーク					授業の計画書である指導案を作成する過程において、授業を行う者(教師)は何に配慮して授業を計画しているのか、また、それを踏まえて、授業を受ける側(生徒)は、どのような態度で授業に参画すればよいかを学ぶ。				
6	「模擬授業」をやってみる・・・グループワーク					「模擬授業」を実際に行ってみることで、教えること、思考をゆさぶることのおもしろさと難しさを体験する。できるだけ指導案を見ずに授業を行うことで、自分のものにしたうえで授業を行うことを実体験する。				
7	まとめと省察・・・グループワーク					行った「模擬授業」と、そのための準備として計画作成した自身の指導案を見つめ直す。また、他者が行った授業と比較して、どのような改善を加えれば、他者を学び、成長へと向けられるのかを考察する。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	やさしく学ぶ教育の原理					佐々木 司・熊井将太 編著		ミネルヴァ書房		
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	1. 提出課題(30%) 2. 試験(70%)					履修上の注意	・毎回、ノートをしっかりと取り、その日のうちに復習すること。			
						実務経験紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	社会福祉学					
単位数	2	時間数	30	学年/学科	1年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	服部 恭弥						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 「社会福祉の定義」「高齢者の生活と福祉」「障害者の自立と福祉」「社会福祉の法」、以上の項目を中心に、社会福祉士としての立場から講義する。					【到達目標】 医療従事者として必要な社会福祉の基礎知識について習得する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	社会福祉の概念					社会福祉の概念を理解できる				
2	社会福祉を支える原理					社会福祉を支える原理を理解できる				
3	社会保障の仕組					社会保障の仕組				
4	最低保障と生活保護					最低保障と生活保護について理解できる				
5	生活保護の種類					生活保護の種類について理解できる				
6	高齢者の生活と福祉					高齢者の生活と福祉について理解できる				
7	高齢者介護を支える制度					高齢者介護を支える制度について理解できる				
8	介護保険制度の仕組					介護保険制度の仕組について理解できる				
9	高齢者の住まいと介護の提供					高齢者の住まいと介護の提供について理解できる				
10	障害者の自立と福祉					障害者の自立と福祉について理解できる				
11	障害者の生涯保障の理念					障害者の生涯保障の理念について理解できる				
12	自立支援給付と地域支援事業					自立支援給付と地域支援事業について理解できる				
13	少子化の進行と支援政策					少子化の進行と支援政策について理解できる				
14	児童福祉から児童家庭福祉へ					児童福祉から児童家庭福祉について理解できる				
15	地域共生社会への展望					地域共生社会への展望について理解できる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	新・社会福祉とは何か					大久保 秀子 著		中央法規		
	適宜紹介									
成績評価 方法	期末試験(100%)					履修上の 注意	積極的に授業に参加することを望む。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	統計学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	内野 英治						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 看護・福祉・医療の分野においては、データを統計的に解析する機会が非常に多い。本科目では、講義と演習を交互に行い、実際の現場で統計学をすぐに活用できる力を身につけることを目的とする。本科目では、統計学を学習するのに必要な基礎知識と統計学の入り口を学習する。					【到達目標】 統計の基礎用語の概念が説明できる。確率変数、確率密度関数について説明できる。確率分布の意味がわかる。分布表を活用できる。点推定の計算ができる。区間推定の計算ができる。簡単な検定ができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	統計の話、統計の基礎用語 (平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差) 演習					統計の基本用語を理解し、それらがどのような量であるかの説明ができる。				
2	確率の基礎 (事象、確率変数、確率密度関数) 演習					統計学は確率論に基盤を置いているため、統計学を理解するために必要最低限な確率の基礎を理解する。				
3	確率分布 (正規分布、t分布、X2分布、分布表) 演習					様々な確率分布が存在することを理解すると共に、それらの確率分布表が読めるようになる。				
4	点推定、区間推定 演習					サンプルから全体集団(母集団)の平均値や分散の推定ができ、また母集団の平均値の範囲が推定できる。				
5	検定 (帰無仮説、対立仮説、有意水準、平均値の検定) 演習					検定の基本概念である帰無仮説、対立仮説が説明でき、また、有意水準の概念および両側検定、片側検定を理解し、平均値の検定ができる。				
6	検定 (平均値の差の検定) 演習					二つの異なる集団間の平均値に差があるかどうかの検定ができる。				
7	検定 (適合度の検定) 演習					ある現象が正しい確率で生起しているかの検定(適合度の検定)ができる。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	統計データ解析					小野瀬 宏(著)		内田老鶴園		
	PT・OTのための統計学入門					渡邊 宗孝 他		三輪書店		
参考 図書等										
成績評価 方法	試験(100%)					履修上の 注意	特になし。			
						実務経験 紹介				

科目 区分	基礎	履修形態	選択	科目名	物理学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	國安 正志						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 物理学(主に力学)の基本的な内容から医療現場における応用まで、初めて物理を学ぶ学生にも理解できるように講義する。					【到達目標】 ・力学の基礎知識を習得し、具体的な計算方法などを理解する。 ・力学の医療現場における応用例を学習する。 ・物理学を学習することで、理論的な考え方を身に付ける。					
回数	授業内容				学習目標					
1	移動動作に必要な力の加減(1)				物理を学習する上で必要不可欠である数学の復習を行う。特に三角比やベクトルへの理解を深める。					
2	移動動作に必要な力の加減(2)				物理学における「力」の概念を学習する(数学が必須なため、学習状況によりその復習に充てる)。					
3	「力のつりあい」を応用する(1): 牽引				複数の力が働く場合に、それらのつりあいをベクトルに基づいて理解する。					
4	物の量を表すときに欠かせない「単位」の話				物理における「単位」あるいは「次元」の重要性を理解する。					
5	体位変換に役立つトルクの知識(1)				回転動作を引き起こすトルク(あるいはモーメント)の基礎を学ぶ。					
6	体位変換に役立つトルクの知識(2)				回転動作の応用例として人体におけるトルクのはたらきを学習する。					
7	安定・不安定(1)				有限の大きさを持つ物体の物理上における取り扱いを学ぶ。					
8	安定・不安定(2)				様々な形状の物体におけるトルクのはたらき方を理解する。					
9	撃力と骨折				運動量と撃力について学び、物体の破壊動作との関係性を調べる。					
10	「摩擦」は天の邪気?(1)				摩擦の概念や種類を学び、その基礎知識を得る。					
11	「摩擦」は天の邪気?(2)				摩擦がはたらく場合の運動などを調べ、具体的な問題を解けるようにする。					
12	「力のつりあい」を応用する(2): 反対牽引				滑車や張力について学び、その応用として牽引を紹介する。					
13	作用・反作用ってなに?				力学の第三法則である作用・反作用の法則を学ぶ。					
14	力学を人体に適応する(1)				力学の復習および応用として人体における力やトルクのはたらきを計算する。					
15	力学を人体に適応する(2)				14回目に同じ。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	Newベッドサイドを科学する-看護に生かす物理学				平田 雅子(著)		学研メディカル秀潤社			
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 授業評価(15%) 2. 期末試験(85%)				履修上の 注意	初めて物理学を学習する生徒にとっては、難解な授業になる可能性もあるため、事前の予習や授業後の復習などで各自理解を補うこと。自主性をもって学習に取り組むこと。				
					実務経験 紹介					

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	生物学					
単位数	2	時間数	30	学年/学科	1年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	山本 芳実						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 生物学は20世紀後半に非常に大きな展開を見せ、今世紀は生命科学・生物科学の時代といわれるまでになった。食料・医療・環境などをめぐる様々な諸問題を理解し、対処するためには、生物学の基礎知識が必要である。生命誕生以来現在まで絶えることなく続く生物の世界の成り立ちと生命活動を支える精妙な仕組みについて、基本的な事柄を中心に解説し、現代生物学の考え方や基礎知識を習得できるようにする。					【到達目標】 ・現代生物学の概要を理解する。・専門教育に必須な生物学の基礎知識を習得する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	細胞について					細胞の構造と機能について理解する。				
2	代謝とエネルギー代謝					異化と同化、生体におけるエネルギーの流れを理解する。				
3	細胞分裂と生命の連続性					体細胞分裂のメカニズムと多細胞生物の形成について理解する。				
4	減数分裂と遺伝					減数分裂と遺伝のメカニズムを理解する。				
5	遺伝と遺伝子					多様な遺伝現象と遺伝子の役割を理解する。				
6	DNAと遺伝子					二重らせん構造とDNA複製機構を理解する。				
7	タンパク質1					生体物質としてのタンパク質の構造と機能を理解する。				
8	タンパク質2					セントラルドグマ：細胞でタンパク質がつくられるメカニズムを理解する。				
9	組換えDNA技術からゲノム編集まで					人工的にタンパク質をつくる、また細胞を改変する技術を理解する。				
10	ゲノムとは					ゲノムプロジェクトとは何か、また新しいゲノム観を理解する。				
11	発生と分化1					多様な受精と発生現象を理解する。				
12	発生と分化2					発生のしくみを理解する。				
13	進化と系統分類学					種 の概念、進化の実態を理解する。				
14	進化論					ダーウィン進化論と中立説について理解する。				
15	ヒトの進化					ヒトを進化の産物として理解する。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	特に定めない。 (興味があれば、参考図書を一冊選択して下さい。)									
参考 図書等	サイエンスビュー生物総合資料					長野 敬(著) 牛木 辰男(著)		実教出版		
	系統看護学講座 基礎分野 生物学					高畑 雅一 増田隆一 北田一博		医学書院		
成績評価 方法	1. 授業態度(10%) 2. レポート(20%) 3. 確認テスト(70%)					履修上の 注意	高校までの生物学及び化学について復習しておくこと。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	情報科学Ⅰ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	富田 公治						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 コンピュータ初心者进行想定したパソコン入門編。おもにワープロソフト(Word)と表計算ソフト(Excel)の実習を行う。					【到達目標】 ・ファイルやフォルダ(ディレクトリ)の概念を理解し、管理できる。 ・Wordを用いた文書の作成ができる。 ・Excelの基本的機能(書式設定、基本関数、グラフ)を使うことができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	Windowsの操作					ファイルやフォルダ(ディレクトリ)の概念を理解し、管理できる。				
2	Word(文書・表)・課題					Wordで文書や表を作成する。				
3	Word(画像・図・数式)・課題					Word文書に画像・図・数式を挿入する。				
4	Excel(入力)					Excelのワークシートにデータを入力する。				
5	Excel(関数・書式)・課題					Excelで関数と書式設定を使用して表を作成する。				
6	Excel(参照・関数)・課題					表計算ソフトの相対参照と絶対参照を理解する。 基本的な関数を使用する。				
7	Word・Excel課題					WordとExcel課題に関する課題				
8	課題提出					課題の遂行と提出				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	30時間でアカデミック Office2021					杉本くみ子、大澤栄子		実務出版		
成績評価 方法	毎回の授業態度、出席、課題により総合的に評価する。 1. 授業態度、出席(30%) 2. 課題(70%)					履修上の 注意	・USBメモリが必要だが、初回の授業では持参しなくてもよい。			
						実務経験 紹介				

基礎科目 2 年次

◇英語Ⅱ（医学英語）

◇情報科学Ⅱ

作業療法学科

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	英語Ⅱ(医学英語)					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	2年	作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	齋藤 由華						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 通常の英語ではあまりなじみのない医学英語に慣れるため、まず医学英単語について学び、各臓器について解説してある教科書を読む。					【到達目標】 ・医学英単語の基本的な構成要素を理解する。 ・英文の構造を意識しながら、和訳する。 ・英文を通して、テキストの各単元の内容を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	ガイダンス(自己紹介、授業の進め方など) CHAPTER 1 The Human Body					・医学英語とは何かを認識する。 ・英文の構造に触れながら、人体にX20:AT33について理解する。				
2	CHAPTER 2 The Skeletal System					・骨格について理解する。 ・人体について復習し、知識を定着させる。				
3	CHAPTER 3 The Muscular System					・筋肉について理解する。 ・骨格について復習し、知識を定着させる。				
4	CHAPTER 4 The Circulatory System					・循環器について理解する。 ・筋肉について復習し、知識を定着させる。				
5	CHAPTER 7 The Digestive System					・消化器について理解する。 ・循環器について復習し、知識を定着させる。				
6	CHAPTER 8 The Urinary System					・消化器について理解する。 ・循環器について復習し、知識を定着させる。				
7	総復習					・これまでの授業を総復習し、習熟度を確認する。 ・試験に備える。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	医療従事者のための医学英語入門					清水 雅子(著)		講談社		
参考 図書等	ステッドマン医学大辞典							メジカルビュー社		
成績評価 方法	出席点(10点)+期末試験(各90点)=100点					履修上の 注意	・必ず教科書を持参すること。 ・辞書を各自用意すること。 (電子辞書は可、スマートフォンは不可) ・解剖学の知識がある前提で授業を進めるため、 復習を行っておくこと。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	情報科学Ⅱ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	2年	作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	富田 公治						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使い方とスライドのまとめ方について学習する。表計算ソフト(Excel)の機能と応用を学習する。					【到達目標】 ・PowerPointの基本的な機能を使用することができる。 ・Excelの基本的な関数の仕様とその他の有用な機能を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	PowerPoint (1)					PowerPointでプレゼンテーションを作成する方法を学ぶ。 スライド作成、図などの挿入の方法を学ぶ。				
2	PowerPoint (2)					PowerPointでプレゼンテーションを作成する方法を学ぶ。 表、グラフなどの挿入の方法を学ぶ。				
3	PowerPoint (3)					PowerPointでプレゼンテーションを作成する方法を学ぶ。 画面切り替え、アニメーションの方法を学ぶ。				
4	PowerPoint 課題					PowerPointの課題				
5	Exce (論理関数・検索/行列関数)					Excelの論理関数・検索/行列関数の使い方を学ぶ。				
6	Exce (並べ替え・フィルタ・マクロ)					Excelの並べ替え・フィルタ・マクロの使い方を学ぶ。				
7	Excel課題					Excelの課題				
8	課題					課題の遂行と提出				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者			出版社	
	30時間でマスター Office2019 (情報科学Ⅰで使用したテキスト)					実務出版編集部 編			実務出版	
成績評価 方法	毎回の授業態度、出席、課題により総合的に評価する。 1. 授業態度、出席(30%) 2. 課題(70%)					履修上の 注意	・USBメモリを使うので各自準備すること。			
						実務経験 紹介				

專 門 基 礎 科 目

作業療法学科

専門基礎科目 1 年次

- ◇解剖生理学Ⅰ
- ◇解剖生理学Ⅱ
- ◇解剖生理学Ⅲ
- ◇解剖生理学Ⅳ
- ◇解剖学Ⅰ実習
- ◇解剖学Ⅱ実習
- ◇運動学Ⅰ
- ◇運動学Ⅱ
- ◇臨床心理学
- ◇医学概論
- ◇病理学
- ◇リハビリテーション概論
- ◇ボランティア論

作業療法学科

科目 区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖生理学Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	村瀬 ひろみ						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人間の基本的な体の仕組みを学問する「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。					【到達目標】 ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。 ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器に働きを理解する。 ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	基礎知識 その1 形からみた人体					人体を指し示す専門用語、ミクロからマクロまでの概観について理解する				
2	基礎知識 その2 生体の構造と細胞生理					細胞の構造と機能について理解、生体を構成する分子について理解する				
3	消化と吸収の概要					消化器について概要を理解する				
4	口腔内の解剖と機能 嚥下					口腔～咽頭～食道までの構造と機能について理解				
5	胃での消化と吸収					胃の構造を理解し、胃の様々な機能について説明できる				
6	腸での消化と吸収					腸での消化、主に肝臓、膵臓の役割とともに理解し、三大栄養素について消化吸収の説明ができる				
7	消化のまとめ 消化器官と神経支配					消化器について、内分泌、自律神経系の作用をまとめて理解できる				
8	中間試験					簡単な小テスト(理解度テスト)				
9	呼吸器系の構造					呼吸器の概観がわかる				
10	呼吸の生理					呼吸運動の生理がわかる				
11	呼吸運動の調整と病態					呼吸運動と呼吸調節についての生理が理解できる				
12	循環器系の構造 血管循環と心臓					循環器の構造がわかる				
13	心臓の構造と心臓の刺激伝導系					心臓の構造と名称、役割が理解でき、説明できる				
14	心臓の神経支配と心電図					心臓の構造と心電図の意味がわかる				
15	心臓の機能障害 心拍、心音 他					心拍、心音等について、生理学的意義とともに理解できる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①					坂井 建雄 著者代表		医学書院		
参考 図書等	ねじ子とパン太郎のモニター心電図					大上丈彦、森皆ねじ子		インプレス		
	ナーシング・グラフィカ 解剖生理学					武田裕子編		メディカ出版		
成績評価 方法	1. 授業態度 2. 中間試験及び期末試験					履修上の 注意	資料は配るが、自分自身でノートを必ずつくること。資料はそのための補助にすぎないので、まとめは自分です。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖生理学Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	村瀬 ひろみ						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人間の基本的な体の仕組みを学問する「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。					【到達目標】 ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。 ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器に働きを理解する。 ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	全身の血管の概略と血圧					全身の動静脈がわかる。血圧のしくみについて理解する				
2	血液の循環 血圧のつづき					血圧について説明できる				
3	血液の働きと血液成分1 赤血球、白血球 他					血液の指標についてそれぞれを理解し、説明できる				
4	血液の働きと血液成分2 血小板と血液凝固					血液凝固について理解し、説明できる				
5	泌尿器系の概観					泌尿器系の役割と解剖について大まかに理解できる				
6	腎臓の構造と働き					尿生成のしくみについて理解できる				
7	尿の生成と体液量のコントロール					血圧との関連を理解し、説明できる				
8	中間試験									
9	生化学概論					三大栄養素のATP合成				
10	糖代謝、タンパク質代謝、脂質代謝					体内で吸収したものがどのように変換されているか理解				
11	栄養学 タンパク質とアミノ酸					必須アミノ酸と生成物について理解する				
12	栄養学 脂質と必須脂肪酸					体内での脂質の動態について理解する				
13	栄養学 ビタミン					脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの種類と役割について理解する				
14	栄養学 ミネラル					ミネラル欠乏症と過剰症。疾患とのかかわりを理解する				
15	栄養学まとめ					栄養に関する医療者として必要な知識をまとめる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①					坂井 建雄 著者代表		医学書院		
成績評価 方法	1. 授業態度 2. 中間試験及び期末試験					履修上の 注意	資料は配るが、自分自身でノートを必ずつくること。資料はそのための補助にすぎないので、まとめは自分でする。			
						実務経験 紹介				

科目 区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖生理学Ⅲ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	児玉 順子						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人間の基本的な体の仕組みを学問とする「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。 解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病や障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。					【到達目標】 ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。 ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器の働きを理解する。 ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。					
回数	授業内容				学習目標					
1	骨と骨格および関節				骨の解剖学的、組織学的構造について知る 骨の連結(関節)の構造とその障害について学ぶ					
2	体幹の骨格と筋				体幹(椎柱、胸郭)の骨格の解剖学的構造を覚える 背部の筋、胸部の筋、腹部の筋について学ぶ					
3	上肢の骨格と筋				上腕(上肢帯、上腕、前腕、手)の骨格の解剖学的構造を覚える 上肢帯、上腕、前腕の筋群について学ぶ					
4	下肢の骨格と筋				下肢(下肢帯、大腿、下腿、足)の骨格の解剖学的構造を覚える 下肢帯、大腿、下腿の筋群について学ぶ					
5	頭頸部の骨格と筋				頭蓋骨、下顎骨の骨格の解剖学的構造を覚える 頭部、顔面関節及び頸部の筋について学ぶ					
6	上肢の運動、下肢の運動、体幹の運動				肩関節及び肘関節、股関節及び膝関節、呼吸筋の運動について総合的に学ぶ					
7	骨格筋と筋の収縮について				骨格筋の収縮機構について骨格筋収縮の種類と特性について学ぶ					
8	中間試験				1～7回目までの授業範囲について中間試験を行う					
9	神経系と構造と機能				ニューロンの特徴、興奮の伝導と伝達の仕組みについて学ぶ					
10	脊髄と脳と神経				中枢神経の構造(大脳、小脳、脳室等)についてその解剖学的特徴と機能を学ぶ					
11	脊髄と脳と神経				脊髄及び末梢神経(脊髄神経、脳神経)についてその解剖学的特徴と機能を学ぶ					
12	運動神経と下行伝導路・感覚神経と上行伝導路				運動ニューロンの特徴、感覚神経の特徴また脊髄内での伝達について理解する					
13	感覚器(眼)				眼球の解剖学的構造について理解する 視覚についてそのメカニズムを学ぶ					
14	感覚器(耳・嗅覚・味覚)				耳の解剖学的構造について理解する 聴覚および平衡感覚についてについてそのメカニズムを学ぶ 味覚や嗅覚を知る					
15	痛みのメカニズム				痛みの分類、疼痛の発生機序について理解する					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①				坂井 建雄 著者代表		医学書院			
参考 図書等	生理学テキスト 第7版				大地 陸男		文光堂			
	カラスケッチ生理学Ⅱ				永田 豊 監訳		廣川書店			
	ギャノン生理学				岡田 泰伸 監訳		丸善書店			
成績評価 方法	1. 中間試験及び期末試験にて平均60%以上の得点を獲得したものを合格とする。 2. 自宅学習のための課題を数回提示する。およそ5～10%の点数加算とする。				履修上の 注意		・授業は板書を用いての学習となる。授業では口頭で説明する内容を理解し、授業後の復習に板書を書き写したノートと教科書を用いて、理解を深める努力をすること。			
					実務経験 紹介					

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖生理学Ⅳ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	児玉 順子						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人間の基本的な体の仕組みを学問とする「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。 解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病や障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。					【到達目標】 ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。 ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器の働きを理解する。 ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。					
回数	授業内容				学習目標					
1	脳の統合機能				脳の活動と記憶のメカニズムについて学ぶ 本能行動と情動行動の違いを理解する 中枢神経の障害について知る					
2	皮膚の構造と機能				皮膚の構造とその付属品について覚える 皮膚の機能について理解する					
3	生体の防御機能				非特異的防御機構について理解する					
4	免疫による特異的防御機構				免疫について学習する 免疫を用いた様々な医療行為について知る 関連臓器を覚える					
5	体温とその調節				体温調節のメカニズムについて学ぶ 発熱について理解する					
6	自律神経による調節				内臓機能の調節を行う自律神経の働きを理解する					
7	内分泌による調整				内分泌組織とホルモンについて概要を理解する 視床下部の役割を知る					
8	中間試験				1回目から7回目までの範囲で中間試験を行う					
9	全身の内分泌腺と内分泌細胞1				実際のホルモンの働きを理解する(下垂体・甲状腺・副腎)					
10	全身の内分泌腺と内分泌細胞2				実際のホルモンの働きを理解する(膵臓・性腺・その他のホルモン)					
11	ホルモンによる調節の実際				糖代謝、カルシウム代謝、ストレスとの関係などを総合的に理解する					
12	男性生殖器				男性生殖器の解剖と生殖機能について理解する					
13	女性生殖器				女性生殖器の解剖と生殖機能 ホルモン調節による性周期について理解する					
14	受精と胎児の発生				授精卵の発生から胎児の成長について学習する 母体側の変化についても知る 分娩時の特徴についても学ぶ					
15	成長と老化				小児期の成長の特徴と、老化現象について理解する					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①				坂井 建雄 著者代表		医学書院			
参考図書等	生理学テキスト 第7版				大地 陸男		文光堂			
	カラススケッチ生理学Ⅱ				永田 豊 監訳		廣川書店			
	ギャノン生理学				岡田 泰伸 監訳		丸善書店			
成績評価方法	1. 中間試験及び期末試験にて平均60%以上の得点を獲得したものを合格とする。 2. 自宅学習のための課題を数回提示する。およそ5～10%の点数加算とする。				履修上の注意		・授業は板書を用いての学習となる。授業では口頭で説明する内容を理解し、授業後の復習に板書を書き写したノートと教科書を用いて、理解を深める努力をすること。			
					実務経験紹介					

科目 区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖学Ⅰ実習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	前期	授業形態	演習
担当	徳若 雅之						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.解剖生理学で人体の各系統を学習したことを 基盤に、運動に直接関与する骨格系・筋肉系・ 神経系について学ぶ。 2.演習を通して、標本観察や作図、体表より 骨を触診する術を学ぶ。					【到達目標】 1.標本観察や作図を通し、各骨の位置関係を 理解できる。 2.体表より触診できる骨部位について、触診術を 知り、触診の手順を説明でき、触診できる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	骨学 標本観察と作図 椎骨(頸椎、胸椎、腰椎、仙骨)				椎骨について骨標本で確認後、作図する。また、骨部位を教科書を使用し理解する。					
2	骨学 標本観察と作図 胸骨、肋骨、鎖骨、肩甲骨				胸骨、肋骨、鎖骨、肩甲骨について骨標本で確認後、作図する。また、骨部位を教科書を使用し理解する。					
3	骨学 標本観察と作図 上腕骨、橈骨、尺骨、手				上腕骨、橈骨、尺骨、手について骨標本で確認後、作図する。また、骨部位を教科書を使用し理解する。					
4	骨学 標本観察と作図 寛骨、大腿骨				寛骨、大腿骨について骨標本で確認後、作図する。また、骨部位を教科書を使用し理解する。					
5	骨学 標本観察と作図 脛骨、腓骨、膝蓋骨、足				脛骨、腓骨、膝蓋骨、足について骨標本で確認後、作図する。また、骨部位を教科書を使用し理解する。					
6	骨学 標本観察と作図 頭蓋骨				頭蓋骨について骨標本で確認後、作図する。また、骨部位を教科書を使用し理解する。					
7	骨学 触察 椎骨(頸椎、胸椎、腰椎、仙骨)				椎骨について骨標本で確認後、触察法について理解する。					
8	骨学 触察 胸骨、肋骨				胸骨、肋骨について骨標本で確認後、触察法について理解する。					
9	骨学 触察 鎖骨、肩甲骨				鎖骨、肩甲骨について骨標本で確認後、触察法について理解する。					
10	骨学 触察 上腕骨、橈骨、尺骨				上腕骨、橈骨、尺骨について骨標本で確認後、触察法について理解する。					
11	骨学 触察 手				手について骨標本で確認後、触察法について理解する。					
12	骨学 触察 寛骨、大腿骨				寛骨、大腿骨について骨標本で確認後、触察法について理解する。					
13	骨学 触察 大腿骨				大腿骨について骨標本で確認後、触察法について理解する。					
14	骨学 触察 脛骨、腓骨、膝蓋骨、足				脛骨、腓骨、膝蓋骨、足について骨標本で確認後、触察法について理解する。					
15	骨学 触察 頭蓋骨				頭蓋骨について骨標本で確認後、触察法について理解する。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢)				編 野村 巖 監 青木隆明		医学書院 メジカルビュー			
参考 図書等										
成績評価 方法	1.スケッチ課題(20%) 2.試験(筆記30%、実技50%) ※定期試験で既定の点数に満たない場合は 定期試験に再試験を実施する。				履修上の 注意		・身だしなみを整えて授業に臨むように努めること。 ・授業準備・片づけは全員で協力して実施すること。 ・定期試験(筆記1回、実技1回)の合格基準はそれぞれ6割以上とする。			
					実務経験 紹介		作業療法士として整形外科領域で16年の実務経験。当 学院入職後もクリニック、スポーツ現場で臨床継続。			

科目 区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖学Ⅱ実習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	前期	授業形態	演習
担当	徳若 雅之						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.解剖生理学で人体の各系統を学習したことを 基盤に、運動に直接関与する骨格系・筋肉系・ 神経系について学ぶ。 2.演習を通して、体表より筋を触診する術を学ぶ。					【到達目標】 1. 体表より触診できる筋について、触診術を 知り、触診の手順を説明でき、触診できる。 2. 体表より触診できる筋について、起始・ 停止・作用・神経支配を説明できる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	筋学 触診 (頸部)				頸部の筋における触察法について理解する。					
2	筋学 触診 (肩～肘)				肩から肘の筋における触察法について理解する。					
3	筋学 触診 (肩～肘)				肩から肘の筋における触察法について理解する。					
4	筋学 触診 (手～手指)				手から手指の筋における触察法について理解する。					
5	筋学 触診 (手～手指)				手から手指の筋における触察法について理解する。					
6	筋学 触診 (手～手指)				手から手指の筋における触察法について理解する。					
7	復習 (1～6について)				頸部・肩・肘・手・手指の筋における触察法について復習を する。そして触察法の手技について理解を深める。					
8	復習 (1～6について)				頸部・肩・肘・手・手指の筋における触察法について復習を する。そして触察法の手技について理解を深める。					
9	筋学 触診 (臀部)				臀部の筋における触察法について理解する。					
10	筋学 触診 (臀部)				臀部の筋における触察法について理解する。					
11	筋学 触診 (大腿～下腿)				大腿から下腿の筋における触察法について理解する。					
12	筋学 触診 (大腿～下腿)				大腿かた下腿の筋における触察法について理解する。					
13	復習 (9～12について)				臀部・大腿・下腿の筋における触察法について復習をする。 そして触察法の手技について理解を深める。					
14	復習 (9～12について)				臀部・大腿・下腿の筋における触察法について復習をする。 そして触察法の手技について理解を深める。					
15	復習 (1～12について)				全範囲における触察法について復習をする。そして触察法 の手技について理解を深める。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術(下肢・体幹)				編 野村 嶺 監 青木隆明		医学書院 メジカルビュー			
参考 図書等										
成績評価 方法	2.確認試験(10%) 3.定期試験(筆記40%、実技50%)				履修上の 注意		・身だしなみを整えて授業に臨むように努めること。 ・授業準備・片づけは全員で協力して実施すること。 ・定期試験(筆記1回、実技1回)の合格基準はそれぞ れ6割以上とする。			
					実務経験 紹介		作業療法士として整形外科領域で16年の実務経験。当 学院入職後もクリニック、スポーツ現場で臨床継続。			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	運動学 I					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	徳若 雅之						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.人間の身体がどう機能し、動くかに焦点をあて、普段何気なく動かしている自分たちの身体について運動方向やその運動のおこる軸や面など基本的な動きの捉え方を学ぶ。 2.運動を起こす力源である筋肉の走行や位置について学習する。 3.上肢帯、上肢の運動を学習する。					【到達目標】 1.動作における運動面と軸について知る。 2.関節運動をテコの原理により説明でき、力をベクトルとして説明できる。 3.骨、筋腱、関節構造など運動器の基本的な知識を知る。 4.上肢帯と上肢の解剖、運動に伴う筋を知る。					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション 運動学の定義と領域について				全15回の講義内容とその学習目標を理解する。 運動学の定義と領域についての理解する。					
2	身体運動の面と軸および関節運動の名称について				身体運動の基礎となる運動面および軸について理解する。 身体の大まかな関節における運動方向について理解する。					
3	運動学に必要な生体力学の基礎について①				生体力学の基礎について理解する。 (観測表の読み取り、変位、速度、加速度について)					
4	運動学に必要な生体力学の基礎について②				生体力学の基礎について理解する。 (円運動、モーメントについて)					
5	骨・軟骨の構造と機能について				骨・軟骨の構造と機能について理解する。 (分類、基本構造、機能、構成成分、リモデリング)					
6	関節の構造と機能について				関節の構造と機能について理解する。 (分類、基本構造、機能)					
7	筋・腱・靱帯の構造と機能について				筋・腱・靱帯の構造と機能について理解する。 (基本構造、機能、筋収縮の様態、作用、筋張力と筋長)					
8	上肢帯・上肢の構造と運動について① (肩甲帯・肩関節の構造と運動)				肩甲帯・肩関節の構造と運動について理解する。					
9	上肢帯・上肢の構造と運動について② (肩甲帯・肩関節の構造と運動)				肩甲帯・肩関節の構造と運動について理解する。					
10	上肢帯・上肢の構造と運動について③ (肘関節・前腕の構造と運動)				肘関節・前腕の構造と運動について理解する。					
11	上肢帯・上肢の構造と運動について④ (肘関節・前腕の構造と運動)				肘関節・前腕の構造と運動について理解する。					
12	上肢帯・上肢の構造と運動について⑤ (手関節の運動)				手関節の運動について理解する。					
13	上肢帯・上肢の構造と運動について⑥ (手関節の構造)				手関節の構造について理解する。					
14	上肢帯・上肢の構造と運動について⑦ (手指の構造と運動)				手指の構造と運動について理解する。					
15	上肢帯・上肢の構造と運動について⑧ (手指の構造と運動)				手指の構造と運動について理解する。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	基礎運動学 第6版				中村隆一・斎藤宏		医歯薬出版			
参考図書等										
成績評価方法	1.定期試験 中間試験50%(授業計画1~7に対して) 期末試験50%(授業計画8~15に対して) 2.小テスト:加点対象 平均80点以上5点・70点以上4点・60点以上3点 50点以上2点・40点以上1点 3.事前課題:加点対象 提出ごとに1点				履修上の注意		・身体を動かしながらの学習もあるため、協調性を持ち、積極的に活動に参加すること。 ・定期試験(中間・期末)の合格基準はそれぞれ6割以上とする。			
					実務経験紹介		作業療法士として整形外科領域で16年の実務経験。当学院入職後もクリニック、スポーツ現場で臨床継続。			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	運動学Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	徳若 雅之						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1. 脊柱、体幹の運動を学習する。 2. 下肢帯と下肢の運動を学習する。 3. 姿勢、歩行・走行について学習する。					【到達目標】 1. 脊柱、体幹の解剖、運動に伴う筋を知る。 2. 呼吸の仕組み、作用する筋について知る。 3. 下肢帯と下肢の解剖、運動に伴う筋を知る。 4. 姿勢と重心の関係について知る。 5. 歩行周期、歩行・走行に伴う筋活動について知る。					
回数	授業内容				学習目標					
1	脊柱と体幹の構造について① (構造と役割)				脊柱と体幹の構造、役割について理解する。					
2	脊柱と体幹の構造と運動について② (頭部の構造と運動)				頭部の構造と運動について理解する。					
3	脊柱と体幹の構造と運動について③ (胸部の構造と運動)				胸椎、胸郭の構造と運動について理解する。					
4	脊柱と体幹の構造と運動について④ (腰部の構造と運動)				腰部、骨盤の構造と運動について理解する。					
5	呼吸の仕組みと作用する筋について				呼吸の仕組み、呼気・吸気に作用する筋について理解する。					
6	下肢帯と下肢の構造と運動について① (股関節の構造)				股関節の構造について理解する。					
7	下肢帯と下肢の構造と運動について② (股関節の運動)				股関節の運動について理解する。					
8	下肢帯と下肢の構造と運動について③ (膝関節の構造)				膝関節の構造について理解する。					
9	下肢帯と下肢の構造と運動について④ (膝関節の運動)				膝関節の運動について理解する。					
10	下肢帯と下肢の構造と運動について⑤ (足関節と足趾の構造と運動)				足関節と足趾の構造と運動について理解する。					
11	下肢帯と下肢の構造と運動について⑥ (足関節と足趾の構造と運動)				足関節と足趾の構造と運動について理解する。					
12	姿勢について(重心と重心線、立位姿勢について)				重力環境下で姿勢を保持するために必要な一要素となる重心と重心線理解する。					
13	正常歩行について① (歩行周期、距離因子、時間因子)				正常歩行における歩行周期、距離因子、時間因子について理解する。					
14	正常歩行について② (歩行と筋活動、歩行と走行)				歩行時の下肢筋活動について理解する。また、歩行と走行の違いについて理解する。					
15	異常歩行について (観察の視点、疾患別異常歩行)				異常歩行についての観察の視点、歩行パターンについて理解する。					
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	基礎運動学 第6版				中村隆一・斎藤宏		医歯薬出版			
成績評価 方法	1. 定期試験 中間試験50%(授業計画1~7に対して) 期末試験50%(授業計画8~15に対して) 2. 小テスト: 加点対象 平均80点以上5点・70点以上4点・60点以上3点 50点以上2点・40点以上1点 3. 事前課題: 加点対象 提出ごとに1点				履修上の 注意		・身体を動かしながらの学習もあるため、協調性を持ち、積極的に活動に参加すること。 ・定期試験(中間・期末)の合格基準はそれぞれ6割以上とする。			
					実務経験 紹介		作業療法士として整形外科領域で16年の実務経験。当学院入職後もクリニック、スポーツ現場で臨床継続。			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	臨床心理学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	桑原 郁子						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 臨床心理学とは何かを教科書で学び、病者や家族の心理・援助の実際についてビデオや資料を用いて学ぶ。					【到達目標】 ・人間の精神世界について知り、人間の行動の背景にある思いへの理解を深める。 ・患者、家族の闘病生活の一部を知ることにより、実際の接し方についての理解を深める。 ・テーマごとの資料から他者の考えに触れることにより、物事を多面的に捉える力を身につける。 ・自分の考えをまとめ、他者に伝える力を育てる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	臨床心理学とは					臨床心理学の概要・定義について理解する				
2	ビデオ・資料：病気を持つ子ども達の心理について					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
3	心理援助の基礎を学ぶ-人格理論					人格理論について理解する				
4	ビデオ・資料：出生前診断について					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
5	心理援助の基礎を学ぶ-発達理論					発達理論について理解する				
6	ビデオ・資料：児童虐待について					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
7	対象を理解する-心理アセスメント：知能検査・発達検査					知能検査や発達検査等のそれぞれの目的や概要について理解する				
8	ビデオ・資料：発達障害について					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
9	対象を理解する-心理アセスメント：人格検査・その他の心理検査					人格検査等の目的や概要について理解する				
10	ビデオ・資料：ALS患者と家族の実際					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
11	心理援助の方法を知る-心理療法Ⅰ					心理療法について理解を深める				
12	ビデオ・資料：認知症介護の実際					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
13	心理援助の方法を知る-心理療法Ⅱ					心理療法について理解を深める				
14	ビデオ・講義：がん看護の実際					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
15	講義・ビデオ・資料：終末期訪問医療の実際					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
教科書	書籍名					著者				
	心とかかわる臨床心理 第3版					ナカニシヤ出版				
参考図書等	ビデオ感想文のまとめ資料とテーマごとの新聞資料									
成績評価方法	1. 授業態度・ビデオ視聴感想文(40%) 2. 確認テスト(60%)					履修上の注意	・1コマ目は教科書に沿った授業を行い、2コマ目はビデオを視聴した後、感想文を書く ・感想文が評価の対象となるので必ず提出すること ・毎日出される感想文のまとめ、新聞資料には目を通しておくこと			
						実務経験紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	医学概論					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師(百溪 江、西本 新)、小林 誠						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 医療を実践する上で、重要な概念である、コミュニケーション、他職種連携、レポートの記載、倫理観などの基本について概説する。倫理観については、単に日本国内にとどまらず、国際的な視野に立った倫理観について学説する。					【到達目標】 ・リハビリテーション医学における、コミュニケーションとレポートの記載、他職種連携の実践方法について理解する。 ・国際的な視野に立った倫理観を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション									
2	コミュニケーション					コミュニケーションの方法やその重要性を理解する。				
3	レポートの書き方・読みやすい文章の書き方					レポートの書き方・読みやすい文章の書き方を学び、実践して今後のレポート作成に活かす。				
4	多職種連携					医療分野における多職種連携の内容やその重要性を理解する。				
5	日本の現状と欧米型倫理観					倫理観・倫理基準は文化や時代、社会背景により変化するものである。なぜ、そのような倫理観が求められているのか、また、相対的に非倫理的な行動に出る人がいるのかの理解を深めるために、日本及び海外、特に欧米の文化社会的背景について学ぶ。				
6	日本の研究不正の現状と背景					第一回「日本の現状と欧米型倫理観」の後半から引き続き、医学分野における日本の研究不正の現状の紹介と研究不正が横行する理由についての考察行う。				
7	医療従事者にはなぜ高い倫理観が求められるのか					第二回「日本の研究不正の現状と背景」を入口に、医療従事者にはなぜ高い倫理観が求められるのかについて考え、利益相反の観点から議論を行う。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	必要な資料は、適宜配布する。									
成績評価 方法	1. 授業態度・参加度(30%) 2. 最終レポート(70%)					履修上の 注意	積極的に授業に参加すること。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	病理学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	森本 宏志						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・病理学は、医学・医療において「基礎」と「臨床」の境界領域に位置する学問であり、疾病に関する「何(what)」と「なぜ(why)」を追及する学問であり、科学としての医学・医療(≡EBM)の基盤となる学問である。 この講義では、疾病一般に関する捉え方の基本としての「病理学総論」を中心に説明し、疾病現象を理解するために必要な基本概念や基本用語を体系的に説明するとともに、common diseaseについての基本的知識についての学習の機会を提供する。 リハビリテーションは障害を軽減させ、残存能力を高め、社会への再適応を促進する目的で展開されるものであり、疾病の「三次予防」として位置づけられる。					これを適時・的確に行うには、正常状態での構造や機能(解剖・生理)の知識の基盤の上に、障害発生に関連する疾病について体系的に理解し、基本事項を身につけておくことは必要であると同時に有用なものであるからである。 【到達目標】 ・病理学総論に関連して、疾病に共通する現象や疾病に関する基本概念・基本用語について体系的に理解し、記憶し、説明できる。 ・病理学各論に関して、代表的な疾患(副読本で取り上げている約50の疾患についての基本事項を病理総論と関連づけながら体系的に理解し、記憶し、簡潔に説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション(講義の進め方と目標、課題について、単位認定試験について等)。病理学の体系について					この病理学講義の目標や講義の進め方、評価方法について理解できる。各自が病理学を学ぶことの意義について確認できる。				
2	病とは何か。医学・医療における病理学の位置づけ。病因論とEBM・・・科学としての医学・医療、研究法と倫理的制約・限界					疾病と健康の定義と関係について説明できる。病理学の医学体系上の位置づけ、病理学の体系(総論各論)について説明できる。				
3	病因分類、疾病の基本分類と病理総論体系					EBMと病理学の関係について説明できる。病因分類および疾病の基本分類と病理総論体系を生命の定義に関連づけて説明できる。				
4	疾病の基本プロセス(侵害刺激と生体の基本的反応)(1) :萎縮と肥大、化生と変性					侵害刺激の例として酸素の欠乏と過剰への生体の反応を説明できる。侵害刺激に対する反応の全体構造を説明できる。				
5	疾病の基本プロセス(侵害刺激と生体の基本的反応)(2) :壊死、組織の修復と再生、治癒					疾病と病変の区別、基本病変である萎縮、肥大、変性、壊死と関連病変、および組織の修復・再生治癒について説明できる。				
6	循環障害(1):局所の循環障害(1)					循環障害の体系上の位置づけを説明できる。循環系の略図が描ける。充血、うっ血、出血、血栓症、塞栓症について説明できる。				
7	循環障害(2):局所の循環障害(2)、全身性循環障害					虚血、梗塞、側副循環の障害について説明できる。血栓症の原因とDICの関連が説明できる。ショックについて説明できる。				
8	炎症と免疫(1) :炎症と免疫の関係、炎症の基本過程と炎症の形態的分類					生体防御反応としての炎症と免疫の関係を説明できる。炎症の基本過程と炎症の形態的分類を関連づけて説明できる。				
9	炎症と免疫(2) :免疫と免疫の異常(免疫不全、アレルギー、自己免疫疾患)					免疫の基本的性質と疾患の関係について説明できる。免疫の異常としての免疫不全、アレルギーとその分類について説明できる。				
10	炎症と免疫(3) :移植、再生医療					移植と再生医療とその課題について、免疫の基本的性質と関連づけて説明できる。				
11	代謝障害					代謝障害の体系上の位置づけを説明できる。代謝障害に該当する基本疾患の例を挙げることができる。				
12	先天異常と遺伝子の異常(1) :先天異常と遺伝子異常の関係					先天異常と遺伝子異常の関係を説明できる。個体発生と先天異常の分類、及び催奇形因子の影響程度の違いを説明できる。				
13	先天異常と遺伝子の異常(2)					遺伝子の異常について、保因者頻度、顕性と潜性、優性と優生の違い、遺伝子多様性保護の意義等について説明できる。				
14	腫瘍(1)					腫瘍の定義について説明できる。腫瘍の本質と遺伝子異常の関係について説明できる。腫瘍の性質と分類について説明できる。				
15	腫瘍(2)、腫瘍と感染症の関係					腫瘍のライフサイクルについて説明できる。腫瘍の診断と治療について概要を説明できる。腫瘍を感染症と比較して説明できる。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	【主】 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 第6版					大橋 健一 / 矢澤 徹 / 藤原 正親 / 柴原 純二 (著)		医学書院		
	【副】 学生のための疾病論 人間が病気になるということ(第2版)					井上 泰 (著)		医学書院		
	人体の構造と機能(第4版)					エレイン N. マリーブ (著)				
成績評価 方法	1. 期末試験(100%) 2. 出席(期末試験受験資格としてのみ評価) 3. 各回課題(0%:各回の出席の証拠として評価するが、最終成績の点数へは反映させない(形成的評価))。					履修上の 注意	・毎回の授業開始後5分、終了前5分で小テスト、振り返りアンケートを行いその提出で出席確認とする。			
						実務経験 紹介	医療機関で病理診断経験約10年、病理学教育担当経験約25年			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	リハビリテーション概論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	楫野 允也						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 生活の中で疾病や加齢の影響など、生活に制限を有することは、誰しも可能性のあることです。リハビリテーションはその制限(障害)に対して身体的機能を回復するための支援をするだけでなく、人間らしく生きる権利を回復することに寄与する役割を担います。本科目では、リハビリテーションの基本概念や歴史、リハビリテーションが関わる領域などについて学習します。さらに、法的制度や多職種連携といった役割を担うために必要な知識も学ぶことを目的とします。					【到達目標】 ・リハビリテーションに関連する用語を理解し、説明できる。 ・保健医療福祉とリハビリテーションについて理解し、説明できる。 ・リハビリテーション専門職として、対象者に接する心を身に着けることができる。 ・専門職として多職種との連携について、チーム医療の概念について説明することができる。 ・自らの専門職としての業務、職域などを理解し、説明することができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 日本の現状					講義の進め方について理解できる。日本の状況、法律等について理解できる。				
2	リハビリテーションの概念・理念・定義					リハビリテーションの概念やノーマライゼーションの考え方について理解できる。				
3	健康と疾病とICF・ICIDH					障害分類について理解し、説明できる。				
4	障害者の心理と障害受容					障害受容の過程を理解し、考えることができる。				
5	事例に基づいた障害像の理解(演習)					ディスカッションを通じて、障害分類やリハビリテーションについて考えることができる。				
6	インフォームド・コンセントと障害受容					インフォームド・コンセントの概念を理解し、障害受容について考えることができる。				
7	リハビリテーションの諸段階					医学的・職業的・社会的・教育的のリハビリテーションの段階について理解できる。				
8	リハビリテーションに関わる専門職種					リハビリテーション専門職のそれぞれの役割について理解できる。				
9	医療の中での多職種の連携(演習)					チーム医療、多職種連携などについて理解できる。				
10	ADL、QOLの概念と評価					ADL、QOLに関して知り、評価も含めて説明することができる。				
11	在宅医療と在宅福祉 社会参加とリハビリテーション					地域リハビリテーションについて理解することができる。				
12	少子高齢化社会とリハビリテーション					高齢者施策、少子化対策、健康増進について理解することができる。				
13	生活を支える仕組み 社会保障制度					社会福祉、医療保健制度について理解できる。				
14	関連法規について					医療法、理学療法士及び作業療法士法等の法規について理解できる。				
15	関連法規について 概論まとめ					関連法規について復習するとともに、概論全体を通してまとめ、理解を深める。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	リハビリテーション概論 改定第4版					田島 文博		永井書店		
参考 図書等										
成績評価 方法	・講義への参加内容・課題(40%) : 講義中の発言やアクティブラーニングへの取り組み、課題の評価など ・定期試験(60%) : 試験結果 定期試験で6割を満たさない場合は再試の可能性がります					履修上の 注意	・事前学習として講義内容に該当する教科書の部分に関して予習することを望む ・講義は3学科共通で行うため、積極的な参加、共同が行えることを望む			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。			

科目区分	専門基礎	履修形態	選択	科目名	ボランティア論					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	大田 茂臣(非常勤講師)						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1. ボランティアとは何かについて学ぶとともに、障がいを持たれた方々や被災された方々の思いに耳を傾け、一人の人間として何ができるかということについて考え行動する姿勢を養う 2. 地域における、様々なボランティア活動の現状を知る					【到達目標】 1. ボランティアとは何かについて理解する 2. 様々な障がいを持たれた方々や被災者の生活に伴う困難さと必要な支援について理解する 3. ボランティアとして行動する際に必要な心構えや姿勢について学ぶ 4. 地域で実際にどのようなボランティア活動が行われているかについて知る					
回数	授業内容					学習目標				
1	ボランティアとは					ボランティアにおける意義と目的について理解する。				
2	傾聴ボランティアについて①					傾聴ボランティアにおける意義と目的について理解する。				
3	傾聴ボランティアについて②					傾聴ボランティアの演習において、その活動の理解を深める。				
4	聴覚の障害とボランティアについて①					要約筆記における意義と目的について理解する。				
5	聴覚の障害とボランティアについて②					手話における意義と目的について理解する。				
6	災害のボランティアについて①					災害ボランティアにおける意義と目的について理解する。				
7	災害のボランティアについて②					災害ボランティアの演習において、その活動の理解を深める。				
8	視覚の障害とボランティアについて①					視覚障害者のにおける支援の意義と目的について理解する。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 課題レポート(100%)					履修上の 注意	・合格基準は、5課題の課題レポートが全て期日までに提出できること ・指定された様式を満たした課題レポートであること			
						実務経験 紹介	それぞれの講師がその実務が10年以上である。			

専門基礎科目 2 年次

- ◇生理学実習
- ◇運動学実習
- ◇人間発達学
- ◇内科学Ⅰ
- ◇内科学Ⅱ
- ◇小児保健学
- ◇神経内科学
- ◇精神医学
- ◇整形外科Ⅰ
- ◇整形外科Ⅱ
- ◇リハビリテーション医学
- ◇地域リハビリテーション学

作業療法学科

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	生理学実習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	前期	授業形態	演習
担当	吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 教科書や講義から得られた基礎的な知識について演習を通して体験し、生きた知識として身に付ける					【到達目標】 ・演習を通して、臨床現場のどのような場面で必要となるのかを説明できる ・測定者と被験者の体験を通して、正確に測定機器を操作できる ・測定機器の使用について相手にわかりやすく説明できる ・グループ内で演習や実験を行った結果をまとめる作業で、今までに学習してきた専門用語を使用しながら考察しレポートを作成できる					
回数	授業内容					学習目標				
1	フィジカルアセスメント①					フィジカルアセスメント(問診・視診・触診・聴診・打診)について、意義・目的を理解し、説明することができる				
2	フィジカルアセスメント②					フィジカルアセスメント(問診・視診・触診・聴診・打診)の方法を説明し、実施することができる				
3	フィジカルアセスメント③					フィジカルアセスメント(問診・視診・触診・聴診・打診)の方法を説明し、実施することができる				
4	バイタルサイン①					バイタルサイン(体温、血圧、脈拍、呼吸)について意義・目的を理解し、説明することができる				
5	バイタルサイン②					バイタルサイン(体温、血圧、脈拍、呼吸)を測定する方法を説明し、実施することができる				
6	バイタルサイン③					バイタルサインを測定して得られた結果を分析し、説明することができる				
7	呼吸機能検査①					呼吸機能検査(スパイロメータ)について理解し、説明することができる				
8	呼吸機能検査②					呼吸機能検査(スパイロメータ)の測定方法を説明し、実施することができる				
9	呼吸機能検査③					呼吸機能検査(スパイロメータ)で得られた結果を分析し、説明することができる				
10	心電図検査①					心電図検査について意義・目的を理解し、説明することができる				
11	心電図検査②					心電図検査の測定方法を説明し、実施することができる				
12	心電図検査③					心電図検査から得られた結果を分析し、説明することができる				
13	血糖値①					血糖値測定について、意義・目的を理解し、説明することができる				
14	血糖値②					血糖値を分析して説明することができる				
15	筋電図検査					筋電図検査について意義・目的を理解し、実施することができる 得られた結果を分析し、説明することができる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学					著者代表:坂井 建雄		医学書院		
	看護がみえる vol. 3 フィジカルアセスメント第1版					発行者:岡庭 豊		メディックメディア		
	理学療法士・作業療法士 基礎から学ぶ生理学ノート					中島 雅美		医歯薬出版		
成績評価 方法	1. レポート課題 50% 2. 筆記試験 50%					履修上の 注意	・グループ演習中心となるため協調性をもって臨むこと ・医療機器を使用する際は細心の注意を払い丁寧に扱うこと			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関で10年間の実務経験あり			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	運動学実習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	前期	授業形態	演習
担当	徳若 雅之						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.1年次における運動学Ⅰ・運動学Ⅱにより獲得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を分析するといった実習を行うことで、作業療法の臨床場面に必要な人体の運動のしくみについて理解を深める。					【到達目標】 1.肩関節運動における肩甲骨上腕リズムについて理解する。 2.身体重心と静止立位姿勢のアライメント、姿勢制御について理解する。 3.観察を中心とした基本動作の分析を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション(実習課題の説明と提出方法) 上肢帯および上肢の関節運動(肩甲骨上腕リズムの理					受講にあたっての注意点について理解する。 肩甲骨上腕リズムについて演習を通して考察・理解する。				
2	上肢帯および上肢の関節運動(肩甲骨上腕リズムの理解)					肩甲骨上腕リズムについて、自重時と重錘による荷重時との運動パターンの変化を観察し、違いについて考察・理解する。				
3	姿勢制御のバイオメカニクス (合成重心の算出)					身体重心の求め方として間接法・直接法について考察・理解する。				
4	姿勢制御のバイオメカニクス (静止立位姿勢の観察)					静止立位姿勢のアライメントについて観察し、骨アライメントや姿勢筋の作用、バランスについて考察・理解する。				
5	姿勢制御のバイオメカニクス (姿勢に変化に伴う身体重心位置と支持基底面の関					姿勢変化に伴う身体重心位置と支持基底面の関係について演習を通して考察・理解する。				
6	姿勢制御のバイオメカニクス (姿勢に変化に伴う身体重心位置と支持基底面の関					姿勢変化に伴う身体重心位置と支持基底面の関係について演習を通して考察・理解する。				
7	観察による姿勢変換 (基本動作の分析 寝返り動作)					寝返り動作について観察し、動作の運動パターンの普遍的特性を知り、動作のバイオメカニクスについて理解する。				
8	観察による姿勢変換 (基本動作の分析 寝返り動作)					寝返り動作について観察し、動作の運動パターンの普遍的特性を知り、動作のバイオメカニクスについて理解する。				
9	観察による姿勢変換 (基本動作の分析 起き上がり動作)					起き上がり動作について観察し、動作の運動パターンの普遍的特性を知り、動作のバイオメカニクスについて理解する。				
10	観察による姿勢変換 (基本動作の分析 起き上がり動作)					起き上がり動作について観察し、動作の運動パターンの普遍的特性を知り、動作のバイオメカニクスについて理解する。				
11	観察による姿勢変換 (基本動作の分析 起立・着座動作)					起立・着座動作について観察し、動作の運動パターンの普遍的特性を知り、動作のバイオメカニクスについて理解する。				
12	観察による姿勢変換 (基本動作の分析 起立・着座動作)					起立・着座動作について観察し、動作の運動パターンの普遍的特性を知り、動作のバイオメカニクスについて理解する。				
13	観察による姿勢変換 (基本動作の分析 歩行動作)					歩行動作について観察し、動作の運動パターンの普遍的特性を知り、動作のバイオメカニクスについて理解する。				
14	観察による姿勢変換 (基本動作の分析 歩行動作)					歩行動作について観察し、動作の運動パターンの普遍的特性を知り、動作のバイオメカニクスについて理解する。				
15	筋電図を使用した筋活動の理解 (筋活動量と発揮筋力の違い、肢位による筋活動の変					筋電図を使用し、主に上肢における筋活動量と発揮筋力の違い、肢位による筋活動の変化について演習を通して理解する。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	適宜資料配布									
成績評価 方法	1.課題レポート(100%) 各演習ごとに課題レポート作成し、提出されたレポートの合計の平均点を課題点とする。					履修上の 注意	・身だしなみを整えて授業に臨むように努めて下さい。 ・演習を通して自身の考えを出力していくことを求めます。積極的に意見交換し、課題レポートに反映させてください。			
						実務経験 紹介	作業療法士として整形外科領域で16年の実務経験。当学院入職後もクリニック、スポーツ現場で臨床継続。			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	人間発達学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	福田 みのり						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 発達段階ごとに講師が発達特徴を概説する。受講者は講義内容や教科書を踏まえて各自が問題意識を持ち、その中から2～3つのテーマについてグループで深めて発表を行う。これにより、学習した内容を自分たちの生活と結びつけて考えていく視点を養う。					【到達目標】 ・将来的に向かい合うクライアントの発達段階の特徴を理解し、彼らを支援するのに必要な知識と社会的スキルの獲得を目指す。 ・複雑で厄介な問題に出くわしたとき、どのような課題解決への道を見つけ出していくのか、問い、考え、実践するための基礎的な力を涵養する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション、生涯発達心理学					生涯発達心理学の考え方について理解する				
2	発達の原則と理論					発達の原則について理解し、発達の様々な理論について説明することができる				
3	発達とは、人口問題と発達（演習）					発達とはどのようなものかについて説明でき、少子高齢化社会における発達の諸課題について気づく				
4	胎児期と乳児期の特徴					胎児期と乳児期の発達の特徴について理解する				
5	子育て・乳幼児・愛着をめぐる課題（演習）					乳幼児の特徴とそれを支援するおとなの在り方について自分なりに考えることができる				
6	幼児期の特徴 -視点の獲得					幼児期の特徴、特に認知発達における特徴について理解する				
7	幼児期における遊び・自己認識・他者認識（演習）					幼児期の特徴とそれを支援するおとなの在り方について自分なりに考えることができる				
8	児童期の特徴 -リテラシーと社会性					児童期の特徴、社会性の発達について理解する				
9	教育・ジェンダー・発達障害をめぐる課題（演習）					児童期の特徴と児童をとりまく社会環境について自分なりに考えることができる				
10	青年期の特徴 -アイデンティティの獲得					青年期の特徴について理解し、アイデンティティについて説明できる				
11	知能・アイデンティティをめぐる課題（演習）					知的発達について理解し、自己形成におけるアイデンティティ獲得の意味について自分なりに考えることができる				
12	成人期の特徴 -次世代を育てる					成人期の特徴と中年期のストレスについて理解する				
13	親になることをめぐる課題（演習）					女性のアイデンティティと育児不安といった現代の社会環境について自分なりに考えることができる				
14	老年期の特徴					老年期の特徴について理解する				
15	老年期の課題、時間と発達（演習）					老年期の特徴とそれを支援する専門職の在り方について自分なりに考えることができる				
16	まとめ、テスト					目指す国家資格との関連性において、人間発達学を学んだ意義について説明できる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	子どもも育つ おとなも育つ 発達の心理学					柏木 恵子（著）		萌文書林		
参考図書等	リハビリテーション医学講座2 人間発達学 生涯発達心理学のすすめ					上田 礼子 子安 増生		医歯薬出版 有斐閣選書		
成績評価方法	演習発表、グループワーク成果(30%) レポート形式テスト(70%)					履修上の注意	講義者の講義比重を軽く、受講者の思考、発言、発表スキルの発展を促す、アクティブラーニング形式の講義形態であるので、真摯且つ積極的な受講態度を期待する。			
						実務経験紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	内科学Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	前後期	授業形態	講義
担当	日高 勲 白上 巧作 村木 和彦						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 高齢化に伴う慢性疾患の増加と疾病構造の変化は、リハビリテーションニーズに直結し、多くの方々が私たちの専門職とかわりを持つことになる。この領域における疾病の特徴・病態・内科的治療を理解することは重要である。 その一方で高血圧、糖尿病、心疾患などの生活習慣病の予防は、医療費等の高騰を防ぐためにも優先されるべきものと位置づけられており、生活習慣の改善も専門職の興味を持つべく領域である。					【到達目標】 ・高齢者が罹患しやすい疾病についての理解を深める。 ・生活習慣病の予防対策を述べることができる。					
回数	授業内容					学習目標				
消化管疾患全 5回 筆記試験 1回					・消化管疾患の症候を理解する。 ・消化管疾患の病態生理を理解する。 ・消化管疾患の各論を理解する。					
腎・泌尿器疾患全 5回 筆記試験 1回					・腎疾患の症候を理解する。 ・腎疾患の病態生理を理解する。 ・腎・泌尿器疾患各論を理解する。					
血液疾患・内分泌疾患全 5回 筆記試験 1回					・血液疾患・内分泌の症候を理解する。 ・血液疾患・内分泌の病態を理解する。 ・血液疾患・内分泌の各論を理解する。					
* 「内科学Ⅰ」前期開講の科目ですが、今年度は前後期で開講されます。										
* 個々の領域において、筆記試験が実施されます。(全て60点以上で合格)										
教科書 参考 図書等	書籍名				著者			出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学				編集 前田 眞治			医学書院		
成績評価 方法	1.授業態度(20%) 2.筆記試験の総点(80%)				履修上の 注意	前期開講科目ですが、前後期で開講します。 1年時の生理学復習をしながら、授業に臨むこと。教科書にて授業内容を振り返ること。				
					実務経験 紹介					

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	内科学Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	國近 英樹 岩本 節子						教員の 実務経験		企業等 との連携	
【授業の概要】 内科疾患の中でも、循環器系の障害のリハビリテーション分野に占める割合は大きい。特に、心疾患や呼吸器疾患の病態を理解することは重要である。また健康寿命の延長に伴って高齢者の健康管理も予防という観点から重要視され、強いては健康寿命の延伸へ直結する分野でもある。 後半は、「高齢者の健康」に焦点をあて、内科疾患への理解を深める。					【到達目標】 ・循環器系の疾患についての理解を深める。 ・「高齢者の健康増進」についてキーワードを述べることができる。					
回数	授業内容					学習目標				
循環器疾患 全7回 解剖 心電図 心不全 高血圧 弁 その他 まとめ 筆記試験 1回					循環器疾患の症候を理解する。 循環器疾患の病態生理を理解する。 循環器疾患の各論を理解する。					
老年期医学 全7回 老年医学 老年医学 循環器 老年医学 呼吸器 老年医学 消化器1 老年医学 消化器2 老年医学 腎・生活習慣病 老年医学 代謝・血液・内分泌 筆記試験 1回					老年医学 疾患の症候を理解する。 老年医学 疾病の病態生理を理解する。 老年医学 各論を理解する。					
＊ 個々の領域において、筆記試験が実施されます。(全て60点以上で合格)										
教科書	書籍名					著者		出版社		
	標準理学療法学作業療法学 内科学					編集 前田 眞治		医学書院		
参考 図書等										
成績評価 方法	1.授業態度(20%) 2.筆記試験の総点(80%)					履修上の 注意	1年時の生理学復習をしながら、授業に臨むこと。「高齢者の健康」についてイメージできるようになる。			
						実務経験 紹介				

科目 区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	小児保健学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	田原卓浩 他						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 成長・発達過程における子どもの特性をふまえ、小児疾患についての理解を深める。また、心身の問題だけでなく小児を取り巻く環境(母子家庭、社会情勢等)にも目を向け、健全な発達が保証されるよう医療人としての意識を養い育てる。					【到達目標】 ・自分の子どもの育つ道筋を客観的に捉えられるような専門職としての力量を備える ・子どもの障害の概要を理解する ・障害児の特性の理解とその対応が考えられる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	子どもの病気(含 感染症の予防)					基本的な小児疾患の種類や特性について理解する				
2	子どもの病気とホームケア					病気に対してのホームケアのポイントを理解する				
3	子どもと家族を取り巻く環境の変化					成長と共に児童の環境が変化するが、その変化のポイントを理解する				
4	大事にしたい子育て術 他					子育てにおける重要なポイントを理解する				
5	子供の成長と発達 新生児～乳幼児 1					新生児～乳幼児の特徴的な正常発達を理解する				
6	子供の成長と発達 新生児～乳幼児 2					新生児～乳幼児の特徴的な正常発達を理解する				
7	子どもの発達 運動・社会性の発達 1					基本的な運動・社会性の正常発達を理解する				
8	子どもの発達 運動・社会性の発達 2					基本的な運動・社会性の正常発達を理解する				
9	乳幼児健診とそのフォロー:遠城寺式乳幼児分析的検査の応用					乳幼児健診の内容とその後のフォローを理解する				
10	障害児学:子どもの障害の特徴を知る その1 発達障害					発達障害の特性を理解する				
11	障害児学:子どもの障害の特徴を知る その2 肢体不自由児					肢体不自由児の特性を理解する				
12	障害のある子の子育て(療育)					障害のある子の子育ての実情を理解する				
13	発達障害児の支援制度について					発達障害児への支援制度の概要を理解する				
14	障がいのある児童や発達に特性のある児童のための福祉サービス ～児童発達支援～					児童発達支援の制度や概要を理解する				
15	障がいのある児童や発達に特性のある児童のための福祉サービス ～放課後等デイサービス～					放課後等デイサービスの制度や概要を理解する				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
成績評価 方法	試験 100%					履修上の 注意	正常発達を理解するという姿勢を求める			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	神経内科学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	村重 武美 , 濱本 尊博 , 正司 真規						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 リハビリテーションに携わる専門職として、神経症候学及び診断学の理解は必須です。 病院施設で治療・関係する患者や利用者の病態なくして、専門職としての技術の展開・発展はない。機能解剖学をベースにして、臨床的な病態・症状について講義する					【到達目標】 ・1年次の『解剖学・生理学』を臨床的(病態・症状)に理解する ・脳血管障害・神経筋疾患等のリハビリテーションに必要な知識を習得する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション(神経症候学とは)					神経症候学とは何か説明できる				
2	神経放射線学					神経疾患の脳・脊髄・神経CT・MRI画像から、疾患名が導き出せる				
3	神経電気生理学					神経、脳、筋肉、心臓やその他の組織または細胞の電気的性質と生理機能との関係を大まかに理解する				
4	てんかん、脳炎					てんかん、脳炎の代表的な種類や症状が説明できる				
5	パーキンソン病					医師から見た基本的なパーキンソン病の病態と特徴を理解する				
6	運動ニューロン疾患					医師から見た基本的な運動ニューロン疾患(ALSなど)の病態と特徴を理解する				
7	トピックス					近年話題となっている神経疾患を取り上げ、必要事項を理解する				
8	脳の機能・解剖					基本的な脳の機能と解剖を理解する				
9	運動と感覚(錐体路・皮質脊髄路等)					運動と感覚の種類や経路を理解し、判別できる				
10	神経学的検査					基本的な神経学的検査の内容を理解する				
11	神経変性疾患(パーキンソン病関連)					セラピストから見て必要な神経変性疾患の病態や特徴を理解する				
12	筋肉疾患					セラピストから見て必要な筋肉疾患の病態や特徴を理解する				
13	脱髄疾患					セラピストから見て必要な脱髄疾患の病態や特徴を理解する				
14	脳血管障害					セラピストから見て必要な脳血管疾患の病態や特徴を理解する				
15	認知症関連					セラピストから見て必要な認知症関連疾患の病態や特徴を理解する				
教科書 参考図書等	書籍名					著者		出版社		
	『病気がみえる Vol. 7 脳・神経』							MEDIC MEDIA		
成績評価方法	試験 村重50% 濱本・正司50%					履修上の注意				
						実務経験紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	精神医学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 リハビリテーションに携わる者の実践に役立つ精神医学の基本知識として、精神疾患の症状、経過、診断、治療の基礎を学ぶ。また、現代社会における精神科領域の諸問題について知り、メンタルヘルスの重要性や精神医療の果たす役割などについて学習する。					【到達目標】 主要な精神疾患の症状について理解する 精神疾患に対する薬物療法をはじめとする治療について理解する メンタルヘルスの重要性・精神医療の果たす役割を理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	精神医学の概要 (精神医学とは、歴史、精神医学を学ぶ意義など)					精神医学の定義、歴史、精神医学を学ぶ意義などについて理解できる				
2	精神障害の成因と分類、精神機能の障害と精神症状					精神障害の成因と分類について理解できる 精神機能の障害と精神症状について理解できる				
3	統合失調症について①					統合失調症について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
4	統合失調症について②									
5	気分障害について					気分障害について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
6	アルコール依存症について①					アルコール依存症について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
7	アルコール依存症について②									
8	思春期・青年期の精神障害①					思春期・青年期の精神障害について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
9	思春期・青年期の精神障害②									
10	思春期・青年期の精神障害③									
11	思春期・青年期の精神障害④									
12	老年期の精神障害(認知症を中心に)					認知症を中心に老年期の精神障害について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
13	パーソナリティ障害について					パーソナリティ障害について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
14	神経症性障害について					神経症性障害について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
15	リエゾン精神医学					リエゾン精神医学について理解し説明できる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増強版					編集: 上野 武治		医学書院		
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	筆記試験 100%					履修上の 注意	資料を配布する場合もあるが、毎回テキストを持参すること			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	整形外科学Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.1年次に学習した解剖生理学、運動学を基盤に整形外科の基礎科学について学ぶ。 2.整形外科の運動器疾患の診断に必要な検査について学ぶ。 3.整形外科で対象とする主な外傷について学ぶ。					【到達目標】 1.整形外科の基礎科学について説明できる。 2.整形外科の検査について分類でき、各検査の目的を説明できる。 3.整形外科の外傷(軟部組織損傷、骨折・脱臼、脊椎・脊髄損傷)の概要について説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	整形外科の基礎科学① 骨の構造、生理、生化学					運動器疾患の治療に必要な骨の構造、生理、生化学について理解を深める。				
2	整形外科の基礎科学② 骨の発生、成長、維持					運動器疾患の治療に必要な骨の発生、成長、維持について理解を深める。				
3	整形外科の基礎科学③ 骨の病態、病理					運動器疾患の治療に必要な骨の病態、病理について理解を深める。				
4	整形外科の基礎科学④ 骨の修復と再生					運動器疾患の治療に必要な骨の修復と再生について理解を深める。				
5	整形外科の基礎科学⑤ 関節の構造、生理、生化学					運動器疾患の治療に必要な関節の構造、生理、生化学について理解を深める。				
6	整形外科の基礎科学⑥ 関節の病態、病理					運動器疾患の治療に必要な関節の病態、病理について理解を深める。				
7	整形外科の基礎科学⑦ 関節軟骨の修復と再生、筋・神経の構造、生理、生化学					運動器疾患の治療に必要な関節軟骨の修復と再生、筋・神経の構造、生理、生化学について理解を深める。				
8	整形外科の基礎科学⑧ 痛みの基礎科学と臨床					痛みの定義、分類、生理学、評価法、運動器の痛みに対する治療について理解する。				
9	整形外科診断総論 検査					整形外科の診断に必要な検査(画像診断、検体検査、生体検査)について理解する。				
10	整形外科治療総論① 保存療法					整形外科における保存療法(非観血的治療)について理解する。				
11	整形外科治療総論② 手術療法					整形外科における手術療法(観血的治療)について理解する。				
12	整形外科外傷学① 外傷総論					整形外科で扱う外傷について、定義、分類について理解する。				
13	整形外科外傷学② 軟部組織損傷					整形外科で扱う軟部組織損傷について理解する。				
14	整形外科外傷学③ 骨折・脱臼					整形外科で扱う骨折・脱臼について理解する。				
15	整形外科外傷学④ 脊椎・脊髄損傷					整形外科で扱う脊椎・脊髄損傷について理解する。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	標準整形外科 第15版					監修 井樋栄二・津村弘		医学書院		
	適宜資料配布									
成績評価 方法	1.定期試験 中間試験50%(授業計画1～8に対して) 期末試験50%(授業計画9～15に対して) 2.小テスト:加点対象 平均80点以上5点・70点以上4点・60点以上3点 50点以上2点・40点以上1点					履修上の 注意	・受講内容をより深く理解する為に解剖生理学、運動学の内容を復習しておくことが望ましい。 ・定期試験(中間・期末)の合格基準はそれぞれ6割以上とする。			
						実務経験 紹介	それぞれ長年にわたり整形外科領域での実務経験あり。			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	整形外科Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	非常勤講師						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.1年次に学習した解剖生理学、運動学を基盤に各部位のより詳細な機能解剖について学ぶ。 2.各部位における運動器疾患の診断、検査、疾患について学ぶ。					【到達目標】 1.各部位の機能解剖について理解を深める。 2.各部位における運動器疾患の診断、検査、疾患の繋がりを理解出来る。					
回数	授業内容					学習目標				
1	整形外科外傷学⑥ 末梢神経損傷					整形外科で扱う末梢神経損傷について理解する。				
2	整形外科疾患各論① 肩関節(機能解剖)					肩関節のより詳細な機能解剖を理解する。				
3	整形外科疾患各論② 肩関節(診察と検査法、疾患)					運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。 (肩関節)				
4	整形外科疾患各論③ 肘関節(機能解剖)					肘関節のより詳細な機能解剖を理解する。				
5	整形外科疾患各論④ 肘関節(診察と検査法、疾患)					運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。 (肘関節)				
6	整形外科疾患各論⑤ 手関節と手(機能解剖)					手関節と手のより詳細な機能解剖を理解する。				
7	整形外科疾患各論⑥ 手関節と手(診察と検査法、疾患)					運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。 (手関節と手)				
8	整形外科疾患各論⑦ 脊椎(機能解剖)					脊椎のより詳細な機能解剖を理解する。				
9	整形外科疾患各論⑧ 脊椎(診察と検査法、疾患)					運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。 (脊椎)				
10	整形外科疾患各論⑨ 股関節(機能解剖)					股関節のより詳細な機能解剖を理解する。				
11	整形外科疾患各論⑩ 股関節(診察と検査法、疾患)					運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。 (股関節)				
12	整形外科疾患各論⑪ 膝関節(機能解剖)					膝関節のより詳細な機能解剖を理解する。				
13	整形外科疾患各論⑫ 膝関節(診察と検査法、疾患)					運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。 (膝関節)				
14	整形外科疾患各論⑬ 足関節と足(機能解剖)					足関節と足のより詳細な機能解剖を理解する。				
15	整形外科疾患各論⑭ 足関節と足(診察と検査法、疾患)					運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。 (足関節と足)				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	標準整形外科学 第15版					監修 井樋栄二・津村弘		医学書院		
	適宜資料配布									
成績評価 方法	1.定期試験 中間試験50%(授業計画1～8に対して) 期末試験50%(授業計画9～15に対して) 2.小テスト:加点対象 平均80点以上5点・70点以上:4点・60点以上:3点 50点以上2点・40点以上:1点					履修上の 注意		・受講内容をより深く理解する為に解剖生理学、運動学の内容を復習しておくことが望ましい。 ・定期試験(中間・期末)の合格基準はそれぞれ6割以上とする。		
						実務経験 紹介		それぞれ長年にわたり整形外科領域での実務経験あり。		

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	リハビリテーション医学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	小林 誠						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 リハビリテーションという言葉は、“障害を受けた者を回復させる”という意味があり、「リハビリテーション医学」の中でも中心的役割を担う循環器系に焦点をあてて、調節機構の原理とそれらが破綻した歳の病態生理について解説する。					【到達目標】 ・循環器系の生理的調節機構を理解し、さらにそれらが破綻して病気や障害を発生させるメカニズムを理解する。次に、病気や障害を回復させる治療法について理解する。					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション 循環器の基礎の基礎				循環器の基本的特性、病態生理について理解する					
2	筋収縮のメカニズムと調節機構				筋収縮のメカニズムと調節機構を理解する					
3	心臓の機械的特性				心臓の機械的特性と調節機構、病態生理を理解する					
4	心機図				心機図の成り立ち、病態生理を理解する					
5	心臓の電気的特性と心電図				心臓の電気的特性と心電図の基本、およびその病態生理を理解する。					
6	循環調節機構1				人体の循環調節機構の調節メカニズムと病態生理を理解する					
7	循環調節機構2				人体の循環調節機構の調節メカニズムと病態生理を理解する					
教科書 参考図書等	書籍名				著者		出版社			
	必要な資料は、適宜配布する。									
成績評価方法	1. 授業態度・参加度(30%) 2. 確認試験(70%)				履修上の注意					
					実務経験紹介					

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	地域リハビリテーション学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	非常勤講師						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 地域で生活されている障害者（児）や高齢者を対象に展開されているリハビリテーションについて講義する。特に、授業では、専門職（理学・作業・言語）以外の支援内容を重要視した。 また、リハビリテーションに関わる専門職の具体的な講義を受けることで、自らの専門職としての役割性を明確にする。					【到達目標】 ・高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状を理解する ・2040年問題について理解し、日本社会の進むべき道について述べるができる ・介護保険制度の理解と障害者総合支援制度を説明できる ・地域リハビリテーションにおける専門職の役割を理解し、説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション					地域リハビリテーションの概要を理解する				
2	介護保険法と障害者総合支援法					介護保険と障害者総合支援法の重要事項を理解する				
3	地域支援と専門職 作業療法士					地域での作業療法士の役割を理解する				
4	社会生活と地域包括ケアシステム					地域包括ケアシステムの概要を理解する				
5	地域支援と専門職 介護支援専門員					地域での介護支援専門員（ケアマネジャー）の役割を理解する				
6	地域支援と専門職 理学療法士					地域での理学療法士の役割を理解する				
7	地域支援と専門職 言語聴覚士					地域での言語聴覚士の役割を理解する				
8	地域支援 NPOの役割					地域でのNPOの役割を理解する				
9	地域支援と専門職 医師 在宅医療					地域での在宅医療の役割を理解する				
10	地域支援と専門職 訪問看護					地域での看護師の役割を理解する				
11	障害児教育の現状と課題					障害児の教育内容と課題を理解する				
12	地域支援と専門職 施設支援					施設支援の役割を理解する				
13	就労支援 精神科領域					精神科領域の就労支援を理解する				
14	就労支援 高次脳機能障害					高次脳機能障害領域の就労支援を理解する				
15	まとめ 地域で働く専門職					地域で働く専門職の役割を述べるができる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	特に定めない									
成績評価 方法	試験 100%					履修上の 注意	多数の非常勤講師により授業が運営されていきます。受講態度には留意してください。			
						実務経験 紹介				

専門基礎科目 3 年次

◇救急医学

◇脳神経外科学

◇薬理学

◇栄養学

◇リハビリテーション工学

◇理学療法概論

◇言語聴覚療法概論

◇看護学概論

作業療法学科

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	救急医学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師 山口市消防本部						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 私たちは、常に生死の境目で仕事を行っている医療職である。特に、リハビリテーション医療では、急性期・回復期・生活期のどの場面においてもリスク管理は重要であり、「救命救急」は必然である。保健医療福祉に携わる専門職として、常に基本的な救急時の判断・対処法(処置)について熟知し、対応できる能力を周囲から求められている。「命」を守る医療専門職として最低限の知識技術の習得を目的とする。					【到達目標】 救命処置が必要になった時、素早く行動できる知識技術を持つ。医療の専門家として対応しなければならない、という意識を常日頃より持つ(緊急事態の際、逃げない、第3者にならない)。					
回数	授業内容					学習目標				
非常勤講師 5回 救急総論 頻度の高い症状の診断と対処 救急医療 緊急を要する病態とその初期治療(1) 緊急を要する病態とその初期治療(2) 期末試験 1回 山口市消防本部 2回 普通救命救急講習Ⅰ 成人を対象とした心肺蘇生法を理解し体験する。 AEDの使用方法を理解し体験する 止血法などを学習し体験する。 ※修了者は普通救命講習Ⅰ修了証が交付されます。										
教科書 参考 図書等	書籍名					著者			出版社	
成績評価 方法	1. 授業態度・参加度(30%) 2. 筆記試験(70%)					履修上の 注意	授業・実習など、常に緊張感をもって授業に臨むこと。「緊急事態」になった時、個々で対応できる能力は「経験が一番」と心得ること。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	脳神経外科学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学・作業・言語	学期	前後期	授業形態	講義
担当	梶原 浩司 柳原 博之 濱田 康弘 学内教員						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 脳血管障害はリハビリテーション分野で最も関わる障害であり、その病態を知ることはリハビリテーション専門職の必須の要件である。近年、中枢神経障害に対する治療技術の発展はめざましく、外科的な手術をはじめ、予防的な治療として脳血管内科という分野も確立している。リハビリテーションに携わるものとして、最新の知識・技術を学ぶことは、より効果的な治療を行う上で大切な要素である。脳神経外科専門医の立場から、脳血管障害の原因、病態症状、合併症、治療と予後、リハビリテーションについて最新情報を得る。					【到達目標】 中枢神経系の機能局在を理解する。 脳血管障害の病態と症状を理解する。 脳腫瘍の病態と症状を理解する。 脳神経外科学の手術と適応について理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1～2回 中枢神経系の解剖生理と機能局在 神経学的主要症候と画像(CT, MRI 他) 3回～7回 宇部西リハビリテーション病院 山口日赤病院 脳神経外科医が担当 脳血管障害等について(病巣と障害) 脳梗塞 脳出血 クモ膜下出血 脳腫瘍 他 予防と脳神経外科的治療(内科的治療を含む) 合併症、脳神経外科医からみた予後 リハビリテーションとリスク管理										
中枢神経系の機能局在、その画像を理解する										
脳血管障害の病態と症状を理解する。 脳腫瘍の病態と症状を理解する。 脳神経外科学の手術と適応、リスク管理、 リハビリテーションについて理解する。										
教科書 参考 図書等	書籍名		著者		出版社					
	病気がみえる vol.7 脳・神経				MEDIC MEDIA					
	目で見える神経内科学		平井 俊策		医歯薬出版					
成績評価 方法	試験(100%)		履修上の 注意	前期開講ですが、前後期で開講します。						
			実務経験 紹介							

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	薬理学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	田村 和文						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 薬物がヒトの身体にどのように作用して疾病の治療に寄与するか、また、ヒトの身体が薬物にどのように反応するか、また薬物を使用して起きることが予測される副作用について学習し、「科学的根拠に基づいた治療」が理解できるように薬理学を学ぶ。限られた時間内で全てを網羅できないが、必要最小限のことを講義する。					【到達目標】 ・リハビリテーションの領域で用いられる薬についての知識を持つ。 ・薬の効能と副作用についての知識を持つ。					
回数	授業内容					学習目標				
1	薬理学総論					薬物と生体との相互作用の結果起こる現象を探究する科学である薬理学全般を理解する。すなわち薬物を薬物作用と薬物動態の両面から学習する。特に薬物作用機序と受容体を学ぶ。				
2	末梢神経系、中枢神経系作用薬					交感・副交感神経作用薬の作用機序、交感・副交感神経刺激薬と交感・副交感神経遮断薬の臨床応用および副作用を学ぶ。中枢神経作用薬の多様な中枢性、末梢性副作用とそれに対する対処法を学ぶ。				
3	心臓病血管作用薬					高血圧の病態生理と薬物治療の基本(薬理作用、副作用)を学ぶ。				
4	抗炎症薬、呼吸器系作用薬					生体防御機能としての炎症反応および免疫応答を理解し炎症性疾患に対する抗炎症薬、および免疫疾患に対する治療薬の基本について学ぶ。呼吸の生理と呼吸を障害する疾患の発生機序を学ぶ。				
5	消化器系、ホルモン系、生殖器系作用薬					消化器疾患の病態生理と薬物療法の基本を学ぶ。各種ホルモンの作用、役割を理解し、内分泌器官の障害、異常に由来する疾患の治療薬について学ぶ。				
6	抗感染症薬、抗悪性腫瘍薬					各種感染症の病原体(微生物)と抗感染症薬の基本(薬理作用、副作用)について学ぶ。悪性腫瘍の特性と抗悪性腫瘍薬の基本(薬理作用、副作用)について学ぶ。				
7	漢方薬総論					漢方薬の特徴と西洋医薬の相違を学ぶ。漢方医学の診断と治療目標の概略を学ぶ。漢方薬の適用疾患について学ぶ。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	わかりやすい薬理学					安原 一 小口 勝司		広川書店		
参考図書等										
成績評価方法	1. 授業態度(30%) 2. 確認試験(70%)					履修上の注意	臨床実習直前の授業です。興味をもって望んでくれることを期待します。			
						実務経験紹介				

科目 区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	栄養学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	松村 史樹						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 栄養問題は、かつての食料不足による単純な欠乏症に代わって、生活環境やライフスタイルの変遷に伴って新たな問題を発生させている。新たな栄養問題は、体力低下や病気の回復力の低下、さらにはQOLの低下など、リハビリテーションの観点からも問題となる。 栄養とは生物が活動、成長、増殖していくために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象であることを学び、リハビリテーションの専門職としても栄養のもたらす効果や不利益について理解することを到達目標とする。					【到達目標】 ・栄養素の種類と働きについて理解する。 ・栄養状態の評価・判定を理解する。 ・リハビリテーションと栄養との関連性を理解する。 ・各病態における栄養管理を理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	栄養学の必要性					リハビリテーションに栄養管理が必要であることを理解できる				
2	生化学と栄養学					栄養素の成り立ちについて理解できる				
3	栄養素について					3大栄養素と微量栄養素の役割を理解できる				
4	エネルギー代謝と運動および代謝異常					エネルギーを生み出す仕組みについて理解できる				
5	栄養評価と栄養補給法					栄養状態を評価するための方法と補給方法を理解できる				
6	低栄養・過栄養の栄養管理と病態栄養管理					各病態に応じた栄養療法を理解できる				
7	栄養管理と他職との連携					多職種間で栄養管理を行うことの必要性を理解できる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者			出版社	
	リハビリテーションテキスト 栄養学・生化学					吉村芳弘			メジカルビュー社	
成績評価 方法	1. 授業態度(20%) 2. 筆記試験(80%)					履修上の 注意	・1年次の生理学の復習をしながら、授業に臨むこと。 ・教科書にて授業内容を振り返ること。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	リハビリテーション工学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ADL・社会生活行為の支援活動のひとつである福祉用具、補装具について体験を通じ学ぶ。 障害者や高齢者が自立生活を営むために必要な福祉用具、補装具、生活環境のあり方について学び、リハビリテーション専門職種としての役割、多職種との連携について理解を深める。					【到達目標】 ・福祉用具・補装具支援の理念、制度を理解する ・姿勢保持の基礎と快適な姿勢保持の条件を理解する ・姿勢保持のための支援方法とその目的を理解する ・コミュニケーション支援と生活環境との関係、支援用具の操作方法を理解する ・コミュニケーション支援の自助具の製作方法を習得する ・住環境整備についての基本と支援方法について理解する ・移乗・移動に関する用具と生活環境整備について理解する ・福祉用具・補装具支援における理学療法士・作業療法士の役割、多職種との連携について理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	テクノエイド論					テクノエイドについて理解する				
2	姿勢保持の基礎					姿勢保持の基礎を理解する				
3	クッション製作実習①					クッション製作を通じて、姿勢保持のための支援方法とその目的、および快適な姿勢保持の条件を理解する				
4	クッション製作実習②									
5	コミュニケーション論①					コミュニケーション支援と生活環境との関係、支援用具の操作方法を理解する コミュニケーション支援のための自助具の製作方法を習得する				
6	コミュニケーション論②									
7	ITを利用した生活支援①									
8	ITを利用した生活支援②					住環境整備についての基本と支援方法について理解する				
9	生活環境整備について①									
10	生活環境整備について②									
11	生活環境整備について③									
12	生活環境整備について④									
13	移乗・移動に関する用具と環境調整①					移乗・移動に関する用具と生活環境整備について理解する				
14	移乗・移動に関する用具と環境調整②									
15	移乗・移動に関する用具と環境調整③									
16	移乗・移動に関する用具と環境調整④									
教科書	書籍名					著者		出版社		
	配布資料									
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	課題レポート 100%					履修上の注意				
						実務経験紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	理学療法概論					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	吉富 智江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 生活に関わるリハビリテーション専門職として、関係職種の仕事を理解することが重要である。特にリハビリテーションにおける理学療法・作業療法・言語聴覚療法の目的、手段を明確にした上で、各職種間の関わり方を学習する。					【到達目標】 ・リハビリテーションと理学療法の違いを説明できる。 ・理学療法の対象、目的、手段について説明できる。 ・理学療法技術(特に動作介助技術)が模倣できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	リハビリテーションにおける理学療法の位置づけと目的					リハビリテーションにおける理学療法について説明できる				
2	多職種との連携					多職種、特に理学療法士との連携について理解する				
3	理学療法の実践① 理学療法におけるリスク管理(演習)					実技を交えながらリスク管理の重要性を理解する				
4	理学療法の実践② 運動療法と物理療法(演習)					実技を交えながら、運動療法、物理療法を理解する				
5	日常生活の中での理学療法技術(寝返り・起き上がり・移乗)(演習)					学生間での基本的動作介助が実施できる				
6	日常生活の中での理学療法技術(歩行・階段昇降)(演習)					学生間での基本的動作介助が実施できる				
7	日常生活の中での理学療法技術(補装具療法)(演習)					基本的動作を支援する補装具療法の重要性を理解する				
教科書 参考図書等	書籍名					著者		出版社		
	適宜紹介									
成績評価方法	1. 演習課題(20%) 2. 確認試験(80%)					履修上の注意		実技も含めながら理学療法の業務を学習するため、積極的に参加すること。		
						実務経験紹介		理学療法士として医療機関で6年間、非常勤として20年間の実務経験あり。		

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	言語聴覚療法概論					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	正司 真規						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 言語聴覚療法の対象と内容を知り、言語聴覚障害および言語聴覚士についての理解を深める					【到達目標】 ・言語聴覚療法の基本概念について理解できる ・言語聴覚士の対象者と業務内容について理解できる					
回数	授業内容				学習目標					
1	言語聴覚療法・言語聴覚士とは				言語聴覚士の役割を説明できる					
2	摂食・嚥下障害				摂食嚥下障害の概要を理解する					
3	成人領域の言語・認知 障害について				言語・認知障害の概要を知り、言語障害者との会話の注意点を説明できる					
4	発声・発語障害について				発声発語障害の種類を説明できる					
5	小児領域の言語・認知について				言語・認知障害の概要を知り、言語障害児との関わりの方の注意点を説明できる					
6	聴覚障害について				聴覚障害の種類を知り、聴覚障害者との会話の注意点を説明できる					
7	まとめ				言語障害について大まかに理解し、種類や症状を説明できる					
教科書 参考図書等	書籍名				著者		出版社			
	特に定めない									
成績評価方法	試験100%				履修上の注意		グループワークを行います。			
					実務経験紹介		本領域の実務経験あり			

科目区分	専門基礎	履修形態	選択	科目名	看護学概論					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	佐藤 美幸						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 チーム医療の中で協働する、看護および看護職について理解するために、看護の定義や役割、機能について概説する。また、医療現場や多職種連携の場面において看護職の果たす役割を理解し、チーム医療における自らの立場と看護職との連携について理解を深める。					【到達目標】 1)看護とはなにか、看護職の対象の捉え方について知る。 2)看護の提供のしくみや教育からその役割について知る。 3)看護の機能と役割を理解し、チーム医療におけるそれぞれの立場と看護職との連携のあり方について考察できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 看護とは					看護師とはどのような人なのかを説明できる 看護とは何か、看護実践とは何かを説明できる 看護の継続性とPT,OTとの連携を説明できる				
2	看護の対象の理解					看護はどのような人を対象にするのかが説明できる 看護の対象者(人)の特徴を説明できる 生活者である人間に対して看護が果たす役割を理解できる				
3	国民の健康・生活の全体像の把握					健康とは何か、障害とは何かを看護の視点で把握できる				
4	看護の提供者					看護職の資格と養成、継続教育の概要を理解する				
5	看護における倫理(講義・演習)					倫理とは何かを考える 医療・看護をめぐる倫理的問題や倫理的ジレンマについて考える				
6	看護の提供のしくみ					チーム医療における看護の役割を理解する 看護サービスがどのように提供されているのかを理解する				
7	広がる看護の活動領域					国際看護、災害看護など特殊な状況での看護活動の現状を知る				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学総論 第17版					茂野 香おる 他著		医学書院		
	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 授業態度・参加度(10%) 2. 演習課題(20%) 3. 最終試験(70%)					履修上の 注意	・コ・メディカルスタッフの一員としての看護職者について学ぶことから、それぞれ立場との連携をとっていく上での他職種との連携を考えていただければと思います。 ・授業に集中するため、私語厳禁、携帯電話の使用等は禁止させていただきます。			
						実務経験 紹介				

専 門 科 目

作業療法学科

専門科目 1 年次

- ◇作業療法概論
- ◇基礎作業学Ⅰ
- ◇作業療法セミナーⅠ
- ◇作業療法セミナーⅡ
- ◇作業療法評価学総論
- ◇作業治療評価学Ⅰ（身体機能）
- ◇作業治療学総論
- ◇日常生活活動学

作業療法学科

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法概論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	濱本 尊博						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 作業療法を学ぶ上で基本となる、作業療法の歴史とその定義、作業療法の展開とその過程、専門職種としての職業倫理を理解する。					【到達目標】 ・リハビリテーションの歴史、OTの役割を説明できる。 ・日本の医療・介護保険制度について説明できる。 ・作業療法の定義、歴史について説明できる。 ・作業療法の領域と対象、その過程について説明できる。 ・作業療法における評価の意義について説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	リハビリテーションとは					国内外のリハビリテーションの歴史や分類を理解し説明できる。リハビリテーション専門職を理解し、役割や必要な能力を説明できる。				
2	人の生活と作業					作業の意味、範囲、分類を説明できる。生活の中での作業を分析できる。作業の理論的背景、生活分析や作業評価を理解できる。				
3	作業療法に関連する医療・介護保険制度					日本の保険制度を理解できる。諸外国と比較し、日本の特徴を理解できる。保険制度の中で、OTの果たす役割を理解できる。				
4	社会構造と作業療法					ICIDHがICFに移行した理由と両者の違いを理解できる。少子高齢化がもたらす危機について説明できる。				
5	障害者の生活と自立					障害者の自立生活運動と障害学について理解できる。障害者の自立生活の実際や法制度を理解し、そこから導かれるOTの役割を説明できる。				
6	作業療法の基本的な枠組み					OTの役割について説明できる。リハ専門職の定義を理解し、説明できる。作業療法の目的、構成要素、ICFの関係性について説明できる。				
7	作業療法の対象領域と疾患					作業療法の対象、病期、対象領域、主な疾患、実践する場所、他部門との協働、チーム医療、他職種連携について理解できる。				
8	作業療法の歴史と理論					作業療法の歴史と様々な理論体系の概略を理解できる。作業療法の歴史的な出来事、全体を説明する主な理論を説明できる。				
9	作業療法の実際(1)急性期・回復期					急性期・回復期における対象疾患を理解できる。急性期・回復期における作業療法の目的と内容を理解できる。				
10	作業療法の実際(2)維持期・在宅					維持期・在宅における対象者の特徴を理解できる。維持期・在宅における作業療法士の役割を理解できる。				
11	作業療法の実際(3)福祉施設					リハビリテーションと作業療法における医療と福祉の連携を理解できる。多職種連携の重要性を理解できる。				
12	作業療法の実際(4)介護予防					地域包括ケアシステムの目的および地域ケア会議、介護予防におけるOTの役割を理解できる。				
13	作業療法における評価の意義(1)からだ編					からだの評価の意義、信頼性、妥当性を理解できる。からだの評価項目を理解できる。				
14	作業療法における評価の意義(2)こころ編					精神科領域の作業療法における評価の流れ、ポイント、手段、注意点について理解できる。				
15	求められる作業療法士とは					作業療法を行う際のリーズニングについて理解し説明できる。OT養成校のカリキュラムを理解し、科目間の連携について説明できる。				
教科書	書籍名					著者				
	作業療法テキスト 作業療法概論					石川 朗、種村 留美(総編集)				
						出版社				
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	筆記試験(100%)					履修上の注意	・資料を配布する場合もあるが、毎回テキストを持参すること。			
						実務経験紹介	作業療法士として医療機関での実務経験あり。			

科目 区分	専門	履修形態	必修	科目名	基礎作業学Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	大田茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 作業療法場面で用いる活動の一部として「狭義のアクティビティ」を中心に実技を通して、自ら体験し、作業固有の特性やひとと作業の基本的な関連を包括的に捉え、作業を選択し用いる感性を養う。					【到達目標】 1. 作業工程や素材、道具の使用法、作業の特性といった知識や技術を学習する。 2. 体験した作業の包括的作業分析ができる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	作業療法総論① (作業学概論)				作業学における意義と目的について理解する。					
2	作業療法総論② (作業療法における作業活動の歴史)				作業学における意義と目的について理解する。					
3	作業療法総論③ (作業の主観的意味と作業バランス)				作業学における意義と目的について理解する。					
4	作業療法総論④ (作業の文脈を理解すること)				作業学における意義と目的について理解する。					
5	作業療法総論⑤ (自己の作業歴をまとめる)				作業学における自己の作業歴について深める。					
6	作業療法総論⑥ (他者の作業歴を傾聴する)				作業学における自己の作業歴と他者の作業歴について比較し、評価の意義と目的を理解する。					
7	作業療法総論⑦ (作業分析とは①限定的作業分析と包括的作業分析)				作業学における包括的作業分析を理解する。					
8	作業療法総論⑧ (作業分析とは②限定的作業分析と包括的作業分析)				作業学における包括的作業分析を理解する。					
9	作業体験① (革細工)				作業体験を通して、包括的作業分析を理解する。					
10	作業体験② (革細工)				作業体験を通して、包括的作業分析を理解する。					
11	作業体験③ (革細工)				作業体験を通して、包括的作業分析を理解する。					
12	包括的作業分析① (革細工)				作業体験を通して、包括的作業分析を理解する。作業分析シートに記入することができる。					
13	作業体験④ (マクラメ)				作業体験を通して、包括的作業分析を理解する。					
14	作業体験⑤ (マクラメ)				作業体験を通して、包括的作業分析を理解する。					
15	作業体験⑥ (マクラメ)				作業体験を通して、包括的作業分析を理解する。作業分析シートに記入することができる。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学				濱口 豊太		医学書院			
	ひとと作業・作業活動 新版				山根 寛		三輪書店			
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	1. 筆記試験(50%) 2. レポート課題(50%)				履修上の注意		作品づくりの時は、汚れても良い衣服で受講すること。			
					実務経験紹介		作業療法士として医療機関で10年間の実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法セミナーⅠ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	濱本 尊博						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・学校生活や履修に関するガイダンスを受け、4年間の学校生活の中で体験し習得すべきことについて理解する。 ・相談や協力をし合える仲間との関係づくり・学習方法の習得など学校生活が円滑に行えるための学習環境を整える。 ・作業療法士の実践に触れ、作業療法士の仕事に対する興味・関心を育てる。					【到達目標】 ・学生同士の交流を深め、協力し合える関係を作ることができる。 ・学科教員を知ることができる。 ・自己にとって最適な学習方法を検討し実践することができる。 ・作業療法の実践について見学し、作業療法士の仕事への具体的なイメージをもつことができる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション				講義の概要を理解できる。					
2	学科教員による授業				学科教員の臨床経験を知ることができる。					
3	お互いに学び合える仲間づくり				学生同士の交流を深め、協力し合える関係を作ることができる。					
4	学習支援プログラム				自己にとって最適な学習方法を検討し実践することができる。					
5	地域セミナー①				他学年と協力して地域セミナープログラム活動を経験し、経験したことを整理して、わかりやすく発表することができる。					
6	地域セミナー②									
7	地域セミナー③									
8	地域セミナー④									
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	適宜資料を配布する									
	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 授業態度(40%) 2. レポート課題(60%)				履修上の 注意	・他科目の学習に対する支援を実践する場合があるため事前に提示されたテキストやノート、資料を必ず持参すること。 ・講義順序や内容は、状況によって変化する可能性がある。 ・授業の内容の詳細や提出物についてはオリエンテーションにて説明する。				
					実務経験 紹介	作業療法士としての臨床経験を有し、医療機関で実習生の指導経験あり。日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法セミナーⅡ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	濱本 尊博						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・障害を持たれた方の話を聴き、リハビリテーションに携わる者としての感性を磨く。 ・作業療法士の実践に触れ、作業療法士の仕事に対する興味・感心を育てる。 ・施設見学を通じて作業療法士の業務を学ぶ。 ・地域セミナーを通じて地域のことを学ぶ。 ・感染対策の基礎的知識を学ぶ。					【到達目標】 ・障がいを持たれた方やそのご家族に出会い、様々な体験を実際に見聞きすることを通して、リハビリテーションに携わるものとして障がいに対する見方、捉え方の基礎を養うことができる。 ・作業療法士の実践について講義を聴き、作業療法士の仕事への具体的なイメージを持つ。 ・地域をセミナー通じて地域の知見を広げ、自らの考察を深めることができる。 ・感染対策の基礎的知識を理解することができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	障がいを持たれた当事者のお話を聴く①					作業療法士を目指すものとして、障がいに対する見方、捉え方の基礎を養うことができる。				
2	障がいを持たれた当事者のお話を聴く②					作業療法士を目指すものとして、障がいに対する見方、捉え方の基礎を養うことができる。				
3	地域セミナー①					地域をセミナー通じて地域の知見を広げ、自らの考察を深めることができる。				
4	地域セミナー②									
5	地域セミナー③									
6	施設見学実習に向けたオリエンテーション・準備					施設見学実習に向けた準備を行うことができる。				
7	感染対策					感染対策の基礎的知識を理解することができる。				
8	施設見学実習					作業療法の実践について見学し、作業療法士の仕事への具体的なイメージをもつことができる。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	適宜資料を配布する									
	適宜紹介									
成績評価 方法	1. レポート課題(60%) 2. 施設見学報告発表会(40%)					履修上の 注意	・他科目の学習に対する支援を実践する場合があるため事前に提示されたテキストやノート、資料を必ず持参すること。 ・講義順序や内容は、状況によって変化する可能性がある。 ・授業の内容の詳細や提出物についてはオリエンテーションにて説明する。			
						実務経験 紹介	作業療法士としての臨床経験を有し、医療機関で実習生の指導経験あり。日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法評価学総論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	徳若雅之						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.各領域の評価概論の基礎固めとして、作業療法における評価の位置づけについて学び、全領域で使用されている評価と評価法に関する知識および技法の概要を学ぶ。					【到達目標】 1.評価の意義と目的について説明できる。 2.作業療法評価の対象と過程について説明できる。 3.評価に対する心得について説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	評価学の基礎① (評価の意義と目的)					作業療法における評価の意義と目的について理解する。				
2	評価学の基礎② (評価項目、手順と手段)					作業療法における評価項目、手順と手段について理解する。				
3	評価学の基礎③ (評価実施上の注意点)					作業療法における評価実施上の留意点について理解する。				
4	評価学の基礎④ (評価のまとめと問題点の抽出)					作業療法における評価のまとめと問題点の抽出について理解する。				
5	領域共通の評価法① (面接法)					面接法について理解できる。				
6	領域共通の評価法② (観察法)					観察法について理解できる。				
7	領域共通の評価法③ (面接法・観察法)					面接法、観察法について体験を通して理解を深める。				
8	領域共通の評価法④ (形態測定)					形態測定の目的、方法、結果の解釈について理解する。				
9	領域共通の評価法⑤ (関節可動域測定)					関節可動域測定(ROM:range of motion)の意義と目的、測定方法について理解する。				
10	領域共通の評価法⑥ (関節可動域測定)					関節可動域測定(ROM:range of motion)の結果の解釈について理解する。				
11	領域共通の評価法⑦ (徒手筋力検査)					徒手筋力検査(MMT:manual muscle testing)の意義と目的、方法、判定基準について理解する。				
12	記録と報告 (SOAP形式)					SOAP形式を使った記録と報告について理解する。				
13	模擬評価体験① 事前情報からの言葉調べ					当事者の事前情報から分からない言葉について調べ、面接の準備性を高める。				
14	模擬評価体験② 面接準備					当事者の事前情報から面接する際の質問事項について考える等、面接の準備性を高める。				
15	模擬評価体験③ 当事者との模擬面接					当事者との面接体験を通して、面接法や観察法の視点の持ち方、相手の想いに目を向けることの大切さについて学ぶ。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 改訂第2版					編集 岩崎テル子 他		医学書院		
参考図書等										
成績評価方法	2.課題レポート(10%) 3.定期試験(90%)					履修上の 注意	・グループ活動、演習は積極的に協調性を持って参加する。 ・定期試験の合格基準は6割以上とする。			
							実務経験 紹介	作業療法士として整形外科領域で16年の実務経験。当学院入職後もクリニック、スポーツ現場で臨床継続。		

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法評価学Ⅰ(身体機能)					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 身体障害領域における作業療法評価で用いる検査・測定にはどのようなものがあるかを知り、評価の目的や対象・方法を、実技を通して学ぶ					【到達目標】 ・評価の目的・技術の基礎を修得し、専門用語を正しく理解し記載できる ・作業療法で用いる検査・測定の目的や対象、方法が理解できる ・作業療法で用いる検査・測定を正しい方法で実施できる ・作業療法で用いる検査・測定を正しい方法で判断し、正確に記載できる					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション 粗大筋力①				講義の目的や意義、流れ、ルールについて理解できる					
2	粗大筋力②				粗大筋力評価の目的を理解し説明することができる 粗大筋力測定を正しい方法で実施し、正確に記載できる					
3	形態測定①				形態測定の目的を理解し説明することができる 形態測定を正しい方法で実施し、正確に記載できる					
4	形態測定②									
5	関節可動域測定①				関節可動域測定の目的を理解し説明することができる 関節可動域測定を正しい方法で実施し、正確に記載できる					
6	関節可動域測定②									
7	関節可動域測定③									
8	関節可動域測定④									
9	関節可動域測定⑤									
10	関節可動域測定⑥									
11	関節可動域測定⑦									
12	関節可動域測定⑧									
13	関節可動域測定⑨									
14	関節可動域測定⑩									
15	復習、質問									
教科書	書籍名				著者		出版社			
	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版				岩崎 テル子		医学書院			
	臨床ROM 測定からエクササイズまで 第2版				隈元 庸夫		ヒューマン・プレス			
参考 図書等										
成績評価 方法	実技試験 70% 筆記試験 30% ※合格基準は、実技試験、筆記試験それぞれが6割以上とする。				履修上の 注意	身だしなみ(実習着・白靴下・白シューズ着用、爪、髪型や髪色、化粧)は臨床実習時の基準と同様とする グループでの実技演習となるため、自己判断での行動や私語は慎み、協調性をもって取り組むこと				
					実務経験 紹介	作業療法士として医療機関で10年以上の実務経験あり				

科目 区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業治療学総論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	濱本 尊博						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 作業療法における治療方法選択の基礎となる推論、 種々の疾患に共通し使用することのできる治療原理、 実践の基盤となる考え方について理解する。					【到達目標】 ・作業療法の過程について説明できる。 ・国際生活機能分類を理解し、治療との対応について 説明できる。 ・治療選択を決定する臨床的推論について説明でき る。 ・各領域における基礎理論および治療援助について理 解する。					
	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション・作業療法の仕組み・・・講義					作業療法の過程について説明できる。				
2	評価と問題点の抽出・・・講義・演習					国際生活機能分類を理解し、治療との対応について説明で きる。				
3	治療目標・目標設定									
4	治療プログラムの立案(トップダウンとボトムアップ)					治療プログラムの立案について説明できる。				
5	クリニカルリーズニング					治療選択を決定する臨床的推論について説明できる。				
6	作業療法の実践現場					各領域における基礎理論および治療援助について理解す る。				
7	作業療法の実践現場									
8	身体障害領域における基礎理論									
9	身体障害領域における基礎理論									
10	精神障害領域における基礎理論									
11	精神障害領域における基礎理論									
12	発達障害領域における基礎理論									
13	発達障害領域における基礎理論									
14	臨床現場における作業療法について									
15	臨床現場における作業療法について									
教科書	書籍名					著者		出版社		
	作業療法学 第3版 ゴールドマスタートテキスト 作業学					浅沼辰志		メジカルビュー社		
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	筆記試験(100%)					履修上の 注意	講義順序や講義内容について一部変更する可能 性があります。			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関での実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	日常生活活動学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	濱本 尊博						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 生活機能と障害を捉える理念を理解し、日常生活活動の基本理念とその評価方法、プログラムを学習する。					【到達目標】 ・日常生活活動の定義を説明できる。 ・日常生活活動の評価の目的や方法の基礎を理解できる。 ・住環境整備に関する法規を述べることができる。 ・ユニバーサルデザインの基本概念を説明できる。 ・日常生活活動に対する作業療法士の支援技術の基本概念を説明できる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	日常生活活動(ADL)とは				日常生活活動の定義を説明できる。					
2	ADL別の問題点と援助の視点①食事・・・講義・演習				ADL別の問題点と援助の視点を理解できる。					
3	ADL別の問題点と援助の視点②更衣・・・講義・演習									
4	ADL別の問題点と援助の視点③排泄・・・講義・演習									
5	ADL別の問題点と援助の視点④入浴・・・講義・演習									
6	ADL別の問題点と援助の視点⑤コミュニケーション・・・講義・演習									
7	ADL別の問題点と援助の視点⑥移動・・・講義・演習									
8	ADL評価概論・・・講義				日常生活活動の評価の目的や方法の基礎を理解できる。					
9	ADL評価(評価法の紹介)・・・講義									
10	ADL評価(FIM:基礎)・・・講義・演習									
11	ADL評価(FIM:運動①)・・・講義・演習									
12	ADL評価(FIM:運動②)・・・講義・演習									
13	ADL評価(FIM:認知)・・・講義・演習									
14	福祉用具と作業療法				ユニバーサルデザインの基本概念を説明できる。日常生活活動に対する作業療法士の支援技術の基本概念を説明できる。					
15	関連制度				住環境整備に関する法規を述べることができる					
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	作業療法学 ゴールドマスターテキスト 日常生活活動(ADL)				木之瀬 隆(編集)		メジカルビュー社			
	適宜紹介									
成績評価 方法	筆記試験(100%)				履修上の 注意	課題提出の形式・日時を厳守すること				
					実務経験 紹介	作業療法士として医療機関での実務経験あり。市介護給付適正員会の委員。				

専門科目 2年次

- ◇基礎作業学Ⅱ
- ◇作業療法セミナーⅢ
- ◇作業療法セミナーⅣ
- ◇作業療法評価学Ⅱ（身体機能）
- ◇作業療法評価学Ⅲ（身体機能）
- ◇作業療法評価学Ⅳ（精神・認知機能）
- ◇作業療法評価学演習
- ◇身体機能作業治療学Ⅰ（中枢神経系）
- ◇身体機能作業治療学Ⅱ（内部障害・筋神経系）
- ◇精神機能作業治療学Ⅰ（基礎）
- ◇精神機能作業治療学Ⅱ（応用Ⅰ）
- ◇発達過程作業治療学
- ◇日常生活活動学演習
- ◇高次神経機能障害学
- ◇義肢装具学総論
- ◇地域作業療法学
- ◇臨床実習Ⅰ

作業療法学科

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	基礎作業学Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	吉木 奈王子、岡村 吉永						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 作業療法場面で用いる活動の一部として「狭義のアクティビティ」を中心に、実技を通じて自らが体験し、作業固有の特性やひとと作業の基本的な関連を包括的に捉え、作業を選択し用いる感性を養う。					【到達目標】 ・作業の特性やひとへの与える影響を理解するために作業分析を行い、作業を治療手段として適切に選択できる視点を養う ・作業工程や素材、道具の使用方法、作業の特性といった知識・技術を学習する					
回数	授業内容					学習目標				
1	作業分析について					「作業」の必要性と意義、作業分析について理解することができる				
2	木工①					木工の道具・手順・特性・リスクなどを理解することができる				
3	木工②					木工を体験し、木工の特性やひとへの与える影響を理解することができる				
4	木工③					木工を体験し、木工の特性やひとへの与える影響を理解することができる				
5	木工④					木工の作業分析を行い、木工作業を治療手段として適切に選択できる視点を養う				
6	タイルモザイク①					タイルモザイクの道具・手順・特性・リスクなどを理解することができる				
7	タイルモザイク②					タイルモザイクを体験し、タイルモザイクの特性やひとへの与える影響を理解することができる				
8	タイルモザイク③					タイルモザイクを体験し、タイルモザイクの特性やひとへの与える影響を理解することができる				
9	タイルモザイク④					タイルモザイクの作業分析を行い、タイルモザイク作業を治療手段として適切に選択できる視点を養う				
10	籐細工①					籐細工の道具・手順・特性・リスクなどを理解することができる				
11	籐細工②					籐細工を体験し、籐細工の特性やひとへの与える影響を理解することができる				
12	籐細工③					籐細工の作業分析を行い、籐細工作業を治療手段として適切に選択できる視点を養う				
13	私の大切な作業(提示・準備)					自己を振り返り、日ごろ自分が大切にしている作業がどのような影響を与えているかを考えることができる				
14	私の大切な作業(提示・準備)					発表に向けて、資料の準備をすることができる				
15	私の大切な作業(発表)					自身が伝えたいことをひとに伝えるように発表することができる この発表会を通じて、作業について深く考えることができる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業学 第3版					監修:長崎 重信		メジカルビュー社		
	ひとと作業・作業活動 新版					山根 寛		三輪書店		
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	1. 作品及び作業分析レポート課題 2. 「私の大切な作業」発表 上記項目を総合的に判断する					履修上の 注意	・課題の提出日時・提出場所・形式を厳守のこと			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関での実務経験あり(吉木) 大学の教育学部教授(岡村)			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法セミナーⅢ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	2年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	大田 茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・自分の学習状況や作業療法士に向かう意識等について確認し、2年次の学習及び臨床実習Ⅰに向けて意欲的に取り組むための自己の体制を整える。 ・作業療法士について理解を深め、知識・技術・コミュニケーションなど基礎的な技術を身に付けることの重要性について理解を深める。 ・地域について実際に調査し、まとめていく。					【到達目標】 ・作業療法士に対して、1年次よりさらに具体的なイメージを持つ。 ・学内の生活面から医療人としての意識を持ち、臨床実習Ⅰにおいて必要となる接遇マナーや基本的なコミュニケーション能力を身につける。 ・解剖見学実習を通じて今まで学んだ知識の裏付けができる。 ・地域について、作業療法士の可能性を列挙できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	解剖見学実習に向けての心構えについて					解剖見学実習の目的や意義について理解する。				
2	上肢の解剖について復習する①					解剖見学実習時に実際の筋肉や神経が分かる。				
3	解剖見学実習①					解剖見学実習時に学んだ知識と実際の筋肉、神経などが一致する。				
4	地域セミナー①					地域のことを深く理解し、作業療法士として必要な知識が列挙できる。				
5	地域セミナー②					地域のことを深く理解し、作業療法士として必要な知識が列挙できる。				
6	臨床実習Ⅰに向けた準備①					実習の手引きを熟読し、実習に必要な準備ができる。				
7	臨床実習Ⅰに向けた準備①					実習の手引きを熟読し、実習に必要な準備ができる。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	適宜資料を配布する。									
成績評価 方法	1. レポート課題(100%)					履修上の 注意	解剖見学実習の準備をしっかりとすること。 実習の手引きを熟読しておくこと。			
						実務経験 紹介	医療現場で作業療法士経験が15年以上ある。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法セミナーⅣ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	2年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	大田 茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・臨床実習Ⅰを振り返る ・臨床実習Ⅰで足りなかったところを再学習していく。 ・地域の環境や人について調べる。					【到達目標】 ・臨床実習Ⅰでできたこと・できなかったことを客観的に分析し、振り返り、再学習ができる。 ・作業療法士について理解を深め、知識・技術・コミュニケーションなど基礎的な技術を身に付けることの重要性について理解を深める。 ・2年次の学習に意欲的に取り組んでいくために、自分にあった学習方法やクラス内で協力して学び合う体制を整える。 ・地域の中で興味があることが列挙できる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	臨床実習の振り返り①				臨床実習Ⅰについて振り返り、できたこと・できなかったことをまとめる。					
2	臨床実習の振り返り②				臨床実習Ⅰについて振り返り、他者と共有する。					
3	地域セミナー①				地域について興味があることに列挙できる。					
4	地域セミナー②				地域について興味があることに列挙できる。					
5	地域セミナー③				地域について興味があることに列挙し、グループでまとめる。					
6	地域セミナー④				地域について、次年度調べたいことを計画できる。					
7	学習支援プログラム①				3年次の長期実習に向けての準備ができる。					
教科書 参考 図書等	書籍名				著者			出版社		
	適宜紹介していく。									
成績評価 方法	1. レポート課題(100%)				履修上の 注意	特になし。				
					実務経験 紹介	医療現場で作業療法士経験が15年以上ある。				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法評価学Ⅱ(身体機能)					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・主に身体障害領域の作業療法で用いられる検査・測定・評価法(MMT、感覚検査、腱反射等)について、その目的及び概要について学習する。					【到達目標】 ・作業療法における評価の位置づけについて理解する。 ・各評価法の意義目的について説明できる。 ・各評価について模擬的に行うことができる。 ・評価を実施し、その結果を説明できる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	徒手筋力検査法①概要				徒手筋力検査法の目的や意義を説明できる。					
2	徒手筋力検査法②肩甲帯・肩				徒手筋力検査法の肩甲帯・肩が模倣できる。					
3	徒手筋力検査法③肘・前腕・手指				徒手筋力検査法の肘・前腕・手指が模倣できる。					
4	徒手筋力検査法④肘・前腕・手指				徒手筋力検査法の肘・前腕・手指が模倣できる。					
5	徒手筋力検査法⑤下肢				徒手筋力検査法の下肢が模倣できる。					
6	徒手筋力検査法⑥下肢				徒手筋力検査法の下肢が模倣できる。					
7	徒手筋力検査法⑦頸部・体幹				徒手筋力検査法の頸部・体幹が模倣できる。					
8	徒手筋力検査法⑧頸部・体幹				徒手筋力検査法の頸部・体幹が模倣できる。					
9	徒手筋力検査法⑨まとめ				徒手筋力検査法的全評価が模倣できる。					
10	感覚検査①概要				感覚検査の目的や意義について説明ができる。					
11	感覚検査②表在感覚				表在感覚の検査を理解し、検査が模倣できる。					
12	感覚検査②深部感覚				深部感覚の検査を理解し、検査が模倣できる。					
13	反射検査①				腱反射、表在反射、病的反射を理解し、検査が模倣できる。					
14	反射検査②				腱反射、表在反射、病的反射を理解し、検査が模倣できる。					
15	反射検査③				腱反射、表在反射、病的反射を理解し、検査が模倣できる。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	新・徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版社						協同医書出版社			
	ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版						南山堂			
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	2. 実技試験(60%) 3. 筆記試験(40%)				履修上の注意		・3・4年次の臨床実習に向けた講義であるため、身だしなみ(実習着・白靴下・白シューズ着用、爪は短く、髪型・色、化粧など)は臨床実習時の基準と同様とする。 ・実技試験、筆記試験それぞれ6割以上取ることが最低条件となる。 ・講義順序や講義数に関しては変更となる可能性がある。日程表は講義内で配布予定。			
					実務経験紹介		臨床実習指導者講習会を終了した指導者にあたる。また、学科教員も同講習会を終了した者が担当。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法評価学Ⅲ(身体機能)					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	吉木 奈王子、大田 茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 身体障害領域の作業療法で用いられる検査・測定法の基礎的な技術を学び、事例検討を通してどのような評価を選択するのか、どのような手技が必要となるのかを考え学ぶ。					【到達目標】 ・身体障害領域で行われる検査・測定・評価法の目的や意義を説明できる。 ・各検査、評価について基本となる検査方法で実施できる。 ・事例を通して、必要な評価項目を知る。 ・事例を通して、必要な評価を選択し模擬的に実施できる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション 姿勢反射検査①				講義の目的や意義、流れ、ルールを理解する 姿勢反射検査の概要を説明できる					
2	姿勢反射検査②				連合反応、共同運動、立ち直り反応、平衡反応の定義や種類、機能的意義を説明できる					
3	姿勢反射検査③				クラスメイトに立ち直り反応検査および平衡反応検査を実施できる 姿勢反射障害がみられるときの生活上の影響を説明できる					
4	筋緊張検査①				筋緊張検査の概要を説明できる					
5	筋緊張検査②				クラスメイトに筋緊張検査を実施し、その結果を記録できる 筋緊張の異常がみられるときの生活上の影響を説明できる					
6	協調性検査①				協調性検査の概要を説明できる					
7	協調性検査②				クラスメイトにそれぞれの協調性検査を実施し、その結果を記録できる					
8	協調性検査③				協調性が障害されたときの生活上の影響を説明できる					
9	脳神経検査①				脳神経検査の概要を説明できる					
10	脳神経検査②				クラスメイトにそれぞれの脳神経検査を実施し、その結果を記録できる					
11	脳神経検査③				それぞれの脳神経が障害されたときの生活上の影響を説明できる					
12	上肢機能検査①				上肢機能の概要を説明できる 一般的な上肢機能検査を列挙できる					
13	上肢機能検査②				クラスメイトに簡易上肢機能検査を実施し、その結果を記録できる 上肢機能が障害された時の生活上の影響を説明できる					
14	事例を通しての評価実践①				事例を通して、必要な評価項目を知る					
15	事例を通しての評価実践②				事例を通して、必要な評価を選択し模擬的に実施できる					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	作業療法ゴールドマスターテキスト 作業療法評価学 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版				長崎 重信 岩崎 テル子		メディカルビュー社 医学書院			
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 実技試験 70% 2. 筆記試験 30% ※定期試験(上記1、2)の合格基準は、それぞれが6割以上とする。				履修上の 注意		・3・4年次の臨床実習Ⅰ・Ⅱにつながる講義でもあるため、身だしなみ(実習着、爪、髪型や色、薄化粧、白靴下、既定の実習靴着用)は臨床実習時の基準とする。 ・グループでの実施となるため、自己判断での行動や私語は慎み、協調性をもって取り組むようにすること。			
					実務経験 紹介		作業療法士として医療機関で10年以上の実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法評価学Ⅳ(精神・認知機能)					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	大田 茂臣・吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・精神・認知機能の評価の基本的な視点・方法を習得する。 ・各疾患の特性を理解し、対象者の心身機能・活動・参加の各レベルにおける評価の視点とそれら进行评估するための方法を学ぶ。					【到達目標】 ・精神・認知機能の基本的な評価を習得する。 ・精神・認知機能に関する様々な検査について学習し、臨床で用いられることの多い検査について学ぶ。					
回数	授業内容					学習目標				
1	精神領域に関する作業療法評価について①					精神領域に関する作業療法評価について説明できる。				
2	精神領域に関する作業療法評価について② 調べ学習					精神領域に関する作業療法評価について説明できる。				
3										
4										
5										
6	認知症に関する評価体験					認知症に関する評価について説明することができる。				
7										
8										
9										
10										
11	WAIS-Ⅳ評価体験					WAIS-Ⅳについて説明することができる。				
12										
13	模擬評価・まとめ					模擬評価について理解することができる。				
14	精神・心理検査 体験					精神・心理検査について理解することができる。				
15										
教科書 参考図書等	書籍名		著者			出版社				
	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版		岩崎 テル子 編			医学書院				
	精神障害と作業療法 新版		山根 寛			三輪書店				
	精神障害作業療法		香山 明美 編			医歯薬出版株式会社				
	高齢者のための知的機能検査の手引き 適宜紹介		大塚俊男			ワールドプランニング				
成績評価 方法	1. 課題レポート(20%) 2. 筆記試験(80%)				履修上の 注意	指定されたテキストを持参すること。				
					実務経験 紹介	作業療法士として医療現場で15年経験あり。				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法評価学演習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	後期	授業形態	演習
担当	徳若 雅之、吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 作業療法評価学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ評価手技について実際に評価意義や評価目的、また画像所見からの障害予測や検査測定の基本的な実施方法、手順の理論的根拠を学び、模擬事例に対する作業療法過程を通した確に行えるよう技術を身につける。					【到達目標】 ・評価学で学んだ検査手技についてクラスメイトを対象に確実に行えるようになる ・事例を想定し、評価学で学んだ各評価法を使い、評価を組み立てることができる ・事例を想定した作業療法過程の中で一連の流れについて理解を深める					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 作業療法の流れについて、臨床像の提示					講義の目的や意義、流れ、ルールについて理解できる 作業療法の流れについて説明できる				
2	作業療法過程(言葉調べ)					事例において、わからない言葉を調べて理解し、説明することができる				
3	作業療法過程(言葉調べ)					事例において、わからない言葉を調べて理解し、説明することができる				
4	作業療法過程(他部門からの情報収集の準備、面接準備)					情報収集や面接のための準備を、グループ内で協力して行うことができる				
5	作業療法過程(模擬評価体験: 模擬事例との面接・他部門からの情報収集)					グループ内で協力して、模擬事例との面接および他職種からの情報収集を行うことができる				
6	作業療法過程(面接後の情報整理)					模擬面接・他部門からの情報収集で得た情報を整理することができる				
7	作業療法過程(面接後の情報整理)					模擬面接・他部門からの情報収集で得た情報を整理することができる				
8	作業療法過程(評価項目列挙)					脳卒中患者に対する評価項目を列挙することができる				
9	作業療法過程(評価計画立案)					模擬事例に沿った評価を列挙し、評価の目的・意義、順序、留意点、実施方法を理解し、評価計画を立案できる				
10	作業療法過程(評価計画立案)					模擬事例に沿った評価を列挙し、評価の目的・意義、順序、留意点、実施方法を理解し、評価計画を立案できる				
11	作業療法過程(評価計画立案)					模擬事例に沿った評価を列挙し、評価の目的・意義、順序、留意点、実施方法を理解し、評価計画を立案できる				
12	作業療法過程(評価結果の整理、ICFシート作成)					模擬事例の評価結果を整理し、ICFシートを作成することができる				
13	作業療法過程(評価結果の整理、ICFシート作成)					模擬事例のICFシートを作成し、模擬事例の全体像を把握することができる				
14	到達度試験要綱提示 到達度試験に向けての評価手技確認					評価学で学んだ検査手技について、クラスメイトを模擬事例と見立てて確実に行えるようにする				
15	到達度試験に向けての評価手技確認					評価学で学んだ検査手技について、クラスメイトを模擬事例と見立てて確実に行えるようにする				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	作業療法ゴールドマスターテキスト 作業療法評価学 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版					長崎 重信 岩崎 テル子		メディカルビュー社 医学書院		
	作業療法評価学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける配布資料									
成績評価 方法	1. レポート課題(言葉調べ、情報収集・面接、評価項目列挙) 30% 2. 到達度試験(評価実技試験、ICFシート作成) 70%					履修上の 注意	・グループ活動、演習は積極的に協調性を持って参加する ・評価学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ各評価手技の意義・目的・手技について十分練習し授業に臨むこと			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関で10年以上の実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	身体機能作業治療学Ⅰ(中枢神経系)					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	大田 茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・脳血管障害(脊髄損傷も含む)を中心に、中枢神経系障害の発生機序と障害像について理解する。 ・急性期、回復期から生活期(維持期)までの各病期において、病態の把握や回復段階の理解、適切な作業療法評価、目標設定、治療アプローチまでの流れを学習する。					【到達目標】 ・身体障害領域における作業療法の役割を理解する。 ・脳血管疾患・脊髄損傷の評価、治療、リスクについて理解する。 ・脳血管疾患・脊髄損傷の病態像を理解する。 ・脳血管疾患・脊髄損傷の病態像より、必要な作業療法評価項目選択から治療までの流れを理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	身体障害領域における作業療法について					身体障害領域における作業療法の概念や役割について説明ができる。				
2	脳卒中血管障害について①概要					脳血管障害における作業療法の概要について説明ができる。				
3	脳卒中血管障害について②作業療法評価					脳血管障害における作業療法評価について説明ができる。				
4	脳卒中血管障害について③作業療法の目標					脳血管障害における作業療法目標について説明ができる。				
5	脳卒中血管障害について④作業療法プログラム					脳血管障害における作業療法プログラムについて説明ができる。				
6	脳卒中血管障害について⑤退院後の生活における地域連携					脳血管障害における退院後の生活における地域連携について説明ができる。				
7	リハビリテーションにおける予後予測とは①					リハビリテーションにおける作業療法の予後予測について理解する。				
8	リハビリテーションにおける予後予測とは②					脳血管障害における作業療法の予後予測について理解する。				
9	Brunnstrom Recovery Stage(BRS)について①					Brunnstrom Recovery Stage(BRS)について説明ができる。				
10	Brunnstrom Recovery Stage(BRS)について②					Brunnstrom Recovery Stage(BRS)について評価ができる。				
11	上田式12段階片麻痺運動機能評価					上田式12段階片麻痺運動機能評価について説明ができる。				
12	Fugle Mayer Assessment(FMA)について					Fugle Mayer Assessment(FMA)について説明ができる。				
13	脊髄損傷について①					脊髄損傷における作業療法について概念や役割について説明ができる。				
14	脊髄損傷について②					脊髄損傷における作業療法について概念や役割について説明ができる。				
15	まとめ					授業のまとめができる。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	標準 身体機能作業療法学 第3版					山口 昇		医学書院		
	PT・OT・STのための 臨床5年目までに知っておきたい予後予測の考えかた					竹林 崇 編		医学書院		
成績評価 方法	1. 筆記試験(100%)					履修上の 注意	特になし。			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関での実務経験が15年間あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	身体機能作業治療学Ⅱ(内部障害・筋神経系)					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 身体障害領域で作業療法士が関わる疾患について、各疾患の病態から必要な評価項目、アプローチについて学習し、作業療法を行うまでの一連の流れについて学習する。					【到達目標】 ・各疾患の病態像から治療までの概要を理解する ・各疾患の病態特性を捉え、必要となる評価や作業療法アプローチの体験を通して作業療法について理解できる ・作業療法の臨床場面でのリスク管理について理解する 身体障害領域における作業療法士の役割について説明できる					
回数	授業内容				学習目標					
1	パーキンソン病に対する作業療法				・各疾患の病態像から治療までの概要を理解する ・各疾患の病態特性を捉え、必要となる評価や作業療法アプローチについて説明できる ・各疾患の作業療法場面でのリスク管理について理解し説明できる					
2	ギラン・バレー症候群に対する作業療法									
3	脊髄小脳変性症に対する作業療法									
4	多発性硬化症に対する作業療法									
5	多発性筋炎・皮膚筋炎に対する作業療法									
6	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法									
7	筋ジストロフィーに対する作業療法									
8	復習				前半に学んだ内容について、整理・理解し、説明ができる					
9	がんに対する作業療法(乳がん、消化器術後)				・各疾患の病態像から治療までの概要を理解する ・各疾患の病態特性を捉え、必要となる評価や作業療法アプローチについて説明できる ・各疾患の作業療法場面でのリスク管理について理解し説明できる					
10	がんに対する作業療法(ターミナルケア)									
11	関節リウマチに対する作業療法									
12	心疾患に対する作業療法									
13	呼吸器疾患に対する作業療法									
14	糖尿病に対する作業療法									
15	復習				後半に学んだ内容について、整理・理解し、説明ができる					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版				山口 昇、玉垣 努		医学書院			
参考図書等	適宜配布									
成績評価方法	中間試験 50% 期末試験 50% ※中間・期末試験は各回とも6割以上取ることが合格条件となる				履修上の注意	作業療法士として医療機関に10年以上勤務した経験あり				
					実務経験紹介					

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	精神機能作業治療学Ⅰ(基礎)					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	飯野 弓子、濱本 尊博						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 「精神障害」について、これまで自身が抱えてきたイメージを見直し、当事者の立場から体験される精神病・精神障害とはどのようなものかに重点をおきながら、精神障害について理解を深める。精神医療の歴史や最近の動向を踏まえ、作業療法士の役割について知る。					【到達目標】 - 精神科医療についての全体像を理解する - 対象者理解の手法および治療法に関連した各種理論、捉え方について理解する - 精神科作業療法における治療構造について理解する - 精神障害領域における作業療法の目的と役割について理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	自分のイメージの中の「精神障害とは」					「精神障害」について自身が抱えてきたイメージを見直すことができる				
2	精神科医療状況概論					精神医療の現状を理解し説明できる				
3	精神科領域での基礎理論①					精神科領域での基礎理論について理解し説明できる				
4	精神科領域での基礎理論②									
5	精神科領域での基礎概念①					精神科領域での基礎概念について理解し説明できる				
6	精神科領域での基礎概念②									
7	治療構造① 治療過程と治療構造					精神科領域での治療構造について理解し説明できる				
8	治療構造② 治療的態度と関わり方									
9	治療構造③ 活動と治療的集団									
10	治療・援助の場①					精神科領域の治療と援助の場について理解し説明できる				
11	治療・援助の場②									
12	認知症の作業療法①					認知症に対する作業療法について、目的や作業療法過程、治療構造、作業療法の役割について理解し説明できる				
13	認知症の作業療法②									
14	認知症の作業療法③									
15	認知症の作業療法④									
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	精神障害と作業療法 新版				山根 寛		三輪書店			
	標準作業療法学 精神機能作業療法学 第3版				編集:新宮 尚人		医学書院			
	作業療法技術ガイド				古川 宏 他		文光堂			
成績評価 方法	筆記試験 100%					履修上の 注意				
						実務経験 紹介	作業療法士として臨床場面で実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	精神機能作業治療学Ⅱ（応用Ⅰ）					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	非常勤講師、吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 精神機能領域における作業療法の基本的視点、作業療法士が関わる疾患の病態、作業療法を行うまでの一連の流れについて学習する					【到達目標】 ・各疾患の病態像を理解する ・各疾患における作業療法の一連の流れを理解する ・精神機能領域における作業療法士の役割を理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	脳器質性精神障害に対する作業療法①					脳器質性障害の症状や生活障害について考え、作業療法の流れや関わり方を理解する				
2	脳器質性精神障害に対する作業療法②									
3	脳器質性精神障害に対する作業療法③									
4	脳器質性精神障害に対する作業療法④									
5	統合失調症に対する作業療法①					統合失調症の症状や生活障害について考え、作業療法の流れや関わり方を理解する				
6	統合失調症に対する作業療法②									
7	うつ病に対する作業療法①					うつ病の症状や生活障害について考え、作業療法の流れや関わり方を理解する				
8	うつ病に対する作業療法②									
9	うつ病に対する作業療法③									
10	依存症に対する作業療法①					依存症の症状や生活障害について考え、作業療法の流れや関わり方を理解する				
11	依存症に対する作業療法②									
12	神経症性障害に対する作業療法①					神経性障害の症状や生活障害について考え、作業療法の流れや関わり方を理解する				
13	神経症性障害に対する作業療法②									
14	摂食障害に対する作業療法					摂食障害の症状や生活障害について考え、作業療法の流れや関わり方を理解する				
15	パーソナリティ障害に対する作業療法					パーソナリティ障害の症状や生活障害について考え、作業療法の流れや関わり方を理解する				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版					上野武治編		医学書院		
	精神障害と作業療法 新版					山根 寛		三輪書店		
	精神障害作業療法					香山明美編		医歯薬出版株式会社		
参考 図書等										
成績評価 方法	筆記試験 100%					履修上の 注意	講義順序は、状況により一部変更する可能性がある			
						実務経験 紹介	各講師とも臨床での実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	発達過程作業治療学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	工棟 未希・鎌田大祐						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 発達障害の分野でも活躍できる作業療法士になるため、基礎となる定型発達と様々な発達障害について理解を深める。また、実際に遊びを通して子どもの発達に必要な物はなにかを考える。					【到達目標】 1. 正常発達について知り、説明できる。 2. 主たる対象疾患の病態像、臨床症状について説明できる。 3. 主たる対象疾患の作業療法評価を列挙できる。 4. 主たる対象疾患の作業療法評価を体験する。 5. 発達障害領域の作業療法過程の評価、作業療法立案、実施の一連の流れを理解する。 6. 作業療法の実践における治療過程を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション・発達障害分野のOTの役割					小児分野で働くOTをイメージできる。				
2	定型発達① 原始反射					月齢ごとの原始反射を理解する。				
3	定型発達② 上肢機能					上肢機能の発達段階を理解する。				
4	定型発達③ 感覚・知覚・認知・社会性の発達					年齢別の感覚・知覚・認知・社会性の発達を理解する。				
5	定型発達④ 理論					エリクソン・ピアジェ・フロイトの発達理論を理解する。				
6	発達障害について① 自閉症スペクトラム					特性の理解と必要な支援を考える事ができる。				
7	発達障害について② 注意欠如/多動性障害・学習障害・知的障害					特性の理解と必要な支援を考える事ができる。				
8	発達障害について③ 場面緘黙・ダウン症・吃音					特性の理解と必要な支援を考える事ができる。				
9	評価法について WISC-IVを中心に					検査内容を知り、検査結果の見方を理解する。				
10	感覚統合について①					感覚の種類について理解する。				
11	感覚統合について② 実践編					実際に感覚統合をふまえた遊びを体験し自分でも遊びを考える事ができる。				
12	姿勢・動作分析について					姿勢・動作分析の意義や目的を理解し、評価することができる。				
13	脳性麻痺について					脳性麻痺の病態を理解することができる。				
14	筋ジストロフィーについて					筋ジストロフィーの病態を理解することができる。				
15	学習障害・知的障害について					学習障害・知的障害の病態を理解することができる。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第2版 イラストでわかる 人間発達学					福田 恵美子 上杉 雅之		医学書院 医歯薬出版株式会社		
参考 図書等										
成績評価 方法	1. 筆記試験(80%) 2. 課題レポート(20%)					履修上の 注意	・授業開講日時が変則的になることがあるので、 日程確認すること。 ・定期試験の合格基準は6割以上とする。			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関で15年間の実務経験あり。			

科目 区分	専門	履修形態	必修	科目名	日常生活活動学演習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	後期	授業形態	演習
担当	大田 茂臣・学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 各障害における生活機能とその障害の特徴を考え、各課題に対して実習を通じ、分析、援助の方法について実践力を養う。					【到達目標】 ・各障害における生活機能とその障害の特徴を説明できる。 ・運動機能と各動作を模倣し、介助できる。 ・各生活行為についての評価と練習を模擬的に行うことができる。 ・各生活行為における分析・援助について説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	ADLの概念、評価の視点について① FIM					ADL評価について列挙できる。				
2	ADLの概念、評価の視点について② FIM					FIMの目的や意義について理解する。				
3	基本動作の基礎について①					片麻痺や両下肢麻痺の寝返り、起き上がり、立ち上がりについて理解し、動作分析・模倣できる。				
4	基本動作の基礎について②					片麻痺や両下肢麻痺の寝返り、起き上がり、立ち上がりについて理解し、動作分析・模倣できる。				
5	基本動作の基礎について③					片麻痺や両下肢麻痺の寝返り、起き上がり、立ち上がりについて理解し、動作分析・模倣できる。				
6	歩行、杖歩行、段差昇降の基礎について					片麻痺や両下肢麻痺の歩行、杖歩行、段差昇降について理解し、動作分析・模倣できる。				
7	移乗動作の基礎について					片麻痺や両下肢麻痺の移乗動作について理解し、動作分析・模倣できる。				
8	脳卒中のADLについて①					脳卒中のADLについて理解し、動作分析(評価)・模倣ができる。				
9	脳卒中のADLについて②					脳卒中のADLについて理解し、動作分析(評価)・模倣ができる。				
10	脊髄損傷のADLについて①					脊髄損傷のADLについて理解し、動作分析(評価)・模倣ができる。				
11	脊髄損傷のADLについて②					脊髄損傷のADLについて理解し、動作分析(評価)・模倣ができる。				
12	関節リウマチのADLについて①					関節リウマチのADLについて理解し、動作分析(評価)・模倣ができる。				
13	関節リウマチのADLについて②					関節リウマチのADLについて理解し、動作分析(評価)・模倣ができる。				
14	内部障害のADLについて①					内部障害のADLについて理解し、動作分析(評価)・模倣ができる。				
15	内部障害のADLについて②					内部障害のADLについて理解し、動作分析(評価)・模倣ができる。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学 姿勢と動作 ADLその基礎から応用 第3版					濱口豊太編 斎藤宏 他		医学書院 メジカルフレンド社		
参考 図書等										
成績評価 方法	1. 筆記試験(100%)					履修上の 注意	動きやすい服装で参加すること。 講堂での演習もあるので、必ず場所を確認すること。			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関で15年間の実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	高次神経機能障害学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	大田 茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・高次神経機能障害(高次脳機能障害)の症状を理解し、それらが日常の活動や参加にどのように影響するのかを理解する。 ・それぞれの障害に対する評価法を学び、実際の評価バッテリーを使用し体験する。					【到達目標】 ・脳の機能解剖と働きを理解する ・高次神経機能障害(高次脳機能障害)に対する評価法等を説明できる。 ・実際の評価バッテリーを使用し体験し、評価できるようになる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	高次脳機能障害の概要について					高次脳機能障害の病態が説明できる。				
2	神経心理学検査について					神経心理学検査について目的や意義を説明できる。				
3	脳の機能解剖と画像所見について(CT・MRI)①					脳の機能と症状について理解できる。				
4	脳の機能解剖と画像所見について(CT・MRI)①					脳の機能と症状について説明できる。				
5	失語症について					失語症の病態や症状について説明できる。				
6	注意障害について①講義					注意障害の病態や症状について説明できる。				
7	注意障害について②演習					注意障害の作業療法評価について説明できる。				
8	記憶障害について①講義					記憶障害の病態や症状について説明できる。				
9	記憶障害について②演習					記憶障害の作業療法評価について説明できる。				
10	失行について					失行の病態や症状について説明できる。				
11	失認について					失認の病態や症状について説明できる。				
12	半側空間無視について①講義					半側空間無視の病態や症状について説明できる。				
13	半側空間無視について②演習					半側空間無視の作業療法評価について説明できる。				
14	遂行機能障害について					遂行機能の病態や症状について説明できる。				
15	社会的行動障害について					社会的行動障害の病態や症状について説明できる。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	標準作業療法学 高次脳機能障害作業療法学 高次脳機能障害のリハビリテーションVer.3					能登 真一 武田 克彦 編		医学書院 医歯薬出版株式会社		
参考 図書等										
成績評価 方法	1. 筆記試験(100%)					履修上の 注意	特になし。			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関で15年間の実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	義肢装具学総論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	大坪誠、他						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 リハビリテーション医学における義肢装具（療法）は、機能代償を目的で処方されることもあるが、治療の過程で用いられる頻度も高い。本講では、義肢装具の位置づけ・役割及び基本的事項を解説する。また、義肢装具士の社会的役割についても述べる。					【到達目標】 1.義肢装具の構成、義肢装具の基本的な用語を理解する。 2.医学的リハビリテーション医療における義肢装具の役割を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	義肢装具士という専門職について					義肢装具士の役割や業務内容について理解する。				
2	装具学総論					装具の定義、基本構造、基本原則について理解する。				
3	装具療法総論①					装具の分類、装具の処方について理解する。				
4	装具療法総論②					装具の適合判定、装具療法における効果判定について理解する。				
5	体幹装具①					体幹装具の種類と適応（疾患と装具）に理解する。				
6	体幹装具②					体幹装具の種類と適応（疾患と装具）に理解する。				
7	上肢装具① （肩～手指の装具について）					上肢装具の種類と適応（疾患と装具）に理解する。				
8	上肢装具② （スプリントについて）					スプリントの種類と適応（疾患と装具）に理解する。				
9	下肢装具①					下肢装具の種類と適応（疾患と装具）に理解する。				
10	下肢装具②					下肢装具の種類と適応（疾患と装具）に理解する。				
11	補装具の給付と法律					補装具支給に関わる法制度について理解する。				
12	採型実習① 上肢または下肢の外形の型取り					石膏によるギブス採型の方法について理解する。				
13	採型実習② 上肢または下肢の外形の型取り					石膏によるギブス採型の方法について理解する。				
14	採型実習③ 上肢または下肢の外形の型取り					石膏によるギブス採型の方法について理解する。				
15	装具学まとめ									
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	義肢装具のチェックポイント					日本整形外科学会		医学書院		
成績評価 方法	1.定期試験 100% ※定期試験の合格点は60点以上とする。					履修上の 注意	1.義肢装具処方の対象となる疾患・障害への理解が大前提である。 2.機能障害と能力低下の関連について熟知すること。 3.物理学、運動学の基礎的用語（モーメント、力点、作用点）を想起しながら講義を聴くこと。			
						実務経験 紹介	義肢装具士として長年に渡り義肢、装具の作製に携わっている。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	地域作業療法学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	濱本 尊博、大田茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 地域における作業療法士の役割について理解し、多様なニーズをもつ現場での作業療法の展開方法についての理解を深める。					【到達目標】 ・地域リハビリテーションの概念、作業療法の役割について説明できる。 ・健康増進・障害予防とリハビリテーションの関連性について説明できる。 ・地域作業療法を支える制度、社会生活支援、連携方法や地域包括ケアシステムについて説明できる。 ・地域作業療法の評価から援助目標の設定、支援計画までの枠組みを説明できる。 ・地域における実践事例を通し、作業療法の役割を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 地域とは・・・講義					地域リハビリテーションの概念、作業療法の役割について説明できる。				
2	地域を知る 講義・演習					健康増進・障害予防とリハビリテーションの関連性について説明できる。				
3	地域リハビリテーションの流れ、地域作業療法とは・・・講義・演					地域作業療法のリハビリテーションの流れや制度、社会生活支援、多職種連携の方法について説明できる。				
4	地域作業療法を支える制度と職種間連携・・・講義									
5	地域作業療法の枠組み・・・講義					地域作業療法の評価から援助目的の設定、支援計画までの枠組みを説明できる。				
6	支援のためのニーズ把握、評価の視点・・・演習									
7	地域における作業療法実践事例					地域における実践事例を通し、作業療法の役割、活動内容を理解できる。				
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15	認知症に関する地域支援					認知症に関する地域支援を説明できる。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第4版					小川恵子		医学書院		
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	1. 課題レポート(20%) 2. 筆記試験(80%)					履修上の 注意	提出物の提出期限は厳守すること。			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関での実務経験あり。			

科目 区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床実習Ⅰ					
単位数	1	時間数	40	学年/学科	2年	作業	学期	前期	授業形態	実習
担当	学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・リハビリテーションの現場において、作業療法士が対象者にどのような目的で、どのようなリハビリテーションを行っているかについて見学実習を通して理解する。 ・実際のリハビリテーション実施場面にスタッフの補助的な役割として関わらせていただき、対象者とコミュニケーションをとる体験を積み、対象者の生活とリハビリテーションについて理解を深める。 ・見学実習の前後においてOSCE(客観的臨床能力試験)を実施し、知識・技術の確認を行う。					【到達目標】 ・将来作業療法士を目指す学生として、見学実習を通して職業人として望ましい態度や行動をとることを心掛け、職業人としての意識を養う。 ・リハビリテーションを提供する施設の役割を理解する。 ・作業療法士の業務を理解する。 ・許容される臨床技能を実践できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	地域の通所リハビリテーションや老人保健施設等の臨地実習					各実習地において実習指導者のもと到達目標を達成することができる。				
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	臨床実習の手引き									
成績評価 方法	1. 臨床実習報告書(出席状況、基本的態度、基本的臨床技能等含む) 2. 提出物 3. 臨床実習報告会 4. 実習前後OCSE					履修上の 注意	・臨床実習の手引を熟読すること ・臨床実習に望むにあたり個人情報保護 ・事前オリエンテーションおよび事前学習、実習後発表会に出席すること。			
						実務経験 紹介	臨床実習指導者講習会を終了した指導者にあたる。また、学科教員も同講習会を終了した者が担当。			

専門科目 3 年次

- ◇作業療法セミナーⅤ
- ◇作業療法セミナーⅥ
- ◇作業療法研究法
- ◇作業療法管理学Ⅰ
- ◇臨床作業学
- ◇身体機能作業治療学Ⅲ（筋・骨格系）
- ◇精神機能作業治療学Ⅲ（応用Ⅱ）
- ◇義肢装具学各論
- ◇作業治療学演習Ⅰ
- ◇作業治療学演習Ⅱ
- ◇作業治療学演習Ⅲ
- ◇作業療法治療学特論Ⅰ
- ◇社会福祉援助技術論
- ◇地域作業療法学演習
- ◇生活環境論
- ◇臨床実習Ⅱ

作業療法学科

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法セミナーⅤ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】					【到達目標】					
・ 主体的な学習態度やその方法を身に付け、臨床実習に向けての準備性を高める。 ・ 作業療法や作業療法士について理解を深め、知識・技術・コミュニケーションなど基礎的な技術の確認と応用的な思考・技術を身に付けることの重要性について理解を深める。					・ 他者と連携しながら主体的に物事を考え、行動することができる ・ 自身の振り返りを行いながら、自主的な知識と技術の研鑽に励むことができる ・ 臨床実習Ⅱの概要を理解し、それに向けた個々の継続的取り組みや準備を行うことができる ・ 他学年との地域セミナープログラム活動を経験し、発表することができる					
回数	授業内容				学習目標					
1	地域セミナー①				他学年との地域セミナープログラム活動を経験し、発表することができる					
2	地域セミナー②									
3	地域セミナー③									
4	地域セミナー④									
5	国際生活機能分類について① 概論				国際生活機能分類について理解する					
6	国際生活機能分類について② ICFシート活用法・目標設定				ICFシートを活用し、目標設定が行える					
7	感染対策				感染対策について理解し、実施できる					
8	臨床実習にむけて ～実習の手引き～				臨床実習の概要および到達目標、学生の心得を理解する					
9	臨床実習にむけて ～実習の手引き～				学生の役割と責任、成績表、デイリーノート、ケースノート、サブノート、健康管理について理解する					
10	臨床実習にむけて ～実習の手引き～				事例報告書の作成、総合評価について理解する					
11	臨床実習にむけて ～実習の手引き～				個人情報保護について理解する					
12	臨床実習にむけて ～実習の手引き～				リスク管理について理解し実施できる インシデント、アクシデント発生時の対応について理解する					
13	臨床実習にむけて ～施設調べ～				実習でお世話になる施設について調べ、施設のことを知る					
14	臨床実習にむけて ～作業療法評価の確認と実施～				実習場面を想定して、作業療法評価が正しく円滑におこなえる					
15	臨床実習にむけて ～作業療法評価の確認と実施～				実習場面を想定して、作業療法評価が正しく円滑におこなえる					
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	特に定めない									
	臨床自習の手引き 適宜配布									
成績評価 方法	レポート課題 100%				履修上の 注意	・課題提出は、提出期限および提出場所を厳守すること ・地域交流授業ならびに地域セミナーについては日程を確認し参加すること				
					実務経験 紹介	作業療法士として医療機関に10年以上勤務した経験あり				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法セミナーⅥ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 主体的な学習態度やその方法を身に付け、次年度の臨床実習に向けての準備性を高める 作業療法や作業療法士について理解を深め、知識・技術・コミュニケーションなど基礎的な技術の確認と応用的な思考・技術を身に付けることの重要性について理解を深める					【到達目標】 ・ 他者と連携しながら主体的に物事を考え、行動することができる ・ 自身の振り返りを行いながら、自主的な知識と技術の研鑽に励むことができる ・ 臨床実習Ⅲ・Ⅳの概要を理解し、それに向けた個々の継続的取り組みや準備を行うことができる					
回数	授業内容					学習目標				
1	地域セミナー①					他学年との地域セミナープログラム活動を経験し、発表することができる				
2	地域セミナー②									
3	地域セミナー③									
4	臨床実習Ⅱ 振り返り					臨床実習Ⅱを振り返り、自身の課題について理解し、次の臨床実習Ⅲ・Ⅳへの準備性を高める				
5	臨床実習Ⅱ 振り返り									
6	臨床実習Ⅱ 振り返り									
7	臨床実習Ⅱ 振り返り									
8	臨床実習Ⅱ 振り返り									
9	臨床実習Ⅱ 振り返り									
10	学習支援プログラム①					主体的に学習に取り組むことができる 主体的に物事を考え、行動することができる 臨床実習Ⅲ・Ⅳに向けた個々の継続的な取り組みや準備をおこなうことができる				
11	学習支援プログラム②									
12	学習支援プログラム③									
13	学習支援プログラム④									
14	学習支援プログラム⑤									
15	全国模試					自身の現時点での知識理解度を知り、復習することができる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	「PT・OTのための臨床技能とOSCE」 コミュニケーションと介助・検査測定編					監修:才藤 栄一		金原出版株式会社		
	「PT・OTのための臨床技能とOSCE」 機能障害・能力低下への介入編					監修:才藤 栄一		金原出版株式会社		
	適宜紹介									
成績評価 方法	筆記試験 100%					履修上の 注意	講義順序は状況により変更する可能性がある			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関にて10年以上の実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法研究法					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	学科教員、非常勤講師、吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 作業療法分野の中で興味のある事柄について、自身の研究課題を見つけ、研究実施をするために必要な基礎知識を学び、研究計画を立案する。					【到達目標】 ・ 作業療法における研究の意義について理解できる ・ 研究における倫理の必要性について理解できる ・ 研究の累計、手法について理解できる ・ 研究計画立案の手順について理解できる					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション				この講義の概要及び到達目標について理解できる この講義の流れについて理解できる					
2	研究とは①: 研究疑問、文献レビュー				湧き上がってきた疑問を明らかにし、それを研究疑問、仮設にして定義するという研究の流れを理解できる 研究の初期に行われる文献レビューの方法を学び、先行研究の知見から研究命題の立案へとつなげることができる					
3										
4	研究とは②: 研究デザイン、研究手段に関する演習				研究デザイン・研究手段に関する演習を行い、理解し説明ができるようになる					
5										
6	学科教員による専門領域、関心領域の研究について①				学科教員の作業療法に関わる研究の経験を聞き、どのように研究に取り組むのかイメージをふくらませることができる 学科教員の体験を聞くことで研究を身近に感じ、研究に興味を持つことができる					
7	学科教員による専門領域、関心領域の研究について②									
8	学科教員による専門領域、関心領域の研究について③									
9	ゼミ方式にて実施 ・文献抄読 ・研究テーマの決定 ・研究計画書の作成				教員の指導の下、自身の興味のある事柄について研究課題を見つけ、研究実施をするために必要な基礎知識を学び、研究計画を立案すること合できる					
10										
11										
12										
13										
14										
15										
教科書	書籍名				著者		出版社			
	作業療法マニュアル68 作業療法研究マニュアル改訂第3版				(一社)日本作業療法士協会		新津印刷株式会社			
参考 図書等	作業療法士のための研究法入門				鎌倉 矩子		三輪書店			
	標準作業療法学 専門分野 作業療法研究法 第2版				山田 孝		医学書院			
成績評価 方法	提出課題 100% ※課題の提出期限は厳守とし、遅れたものは受理しない。				履修上の 注意	指導教官決定後、ゼミ方式の授業となるため、授業開講日程を確認すること				
					実務経験 紹介	各講師とも各々の分野での臨床経験あり				

科目 区分		履修形態		科目名	作業療法管理学Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	大田 茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】					【到達目標】					
・作業療法士として求められる倫理、知っておくべき関連法規、諸制度、管理業務の基本について学ぶ。 ・保健医療における個人情報の適切な利用・管理について学ぶ。 ・医療上の感染対策、リスク管理について理解し、より安全な作業療法の提供方法を学ぶ。 ・チーム医療、多職種連携の重要性を学ぶ。 ・診療報酬・介護報酬について現状を学ぶ。					・作業療法士の倫理、職務に伴う責任や関連法規について理解する。 ・診療記録と情報管理、個人情報の取り扱い、医療上の感染対策について説明できる。 ・リスク管理および、インシデント・アクシデント発生時の対応について説明できる。 ・作業療法の実施における多職種との業務調整やカンファレンスについて説明できる。 ・作業療法の実施とその対価(診療報酬・介護報酬など)について説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	作業療法の仕事について					作業療法士の仕事について理解を深める。				
2	作業療法士の職業倫理について					作業療法士の職業倫理について理解する。				
3	個人情報とは					個人情報の種類や意味、リスクを理解し、個人情報を学生が取り扱うことができる。				
4	感染について					医療上の感染リスクを理解し、感染予防に努めた対応ができる。				
5	診療情報と記録の仕方					診療情報を適切に把握し、SOAP形式で作業療法記録が記載できる。				
6	機器の取り扱い、保守点検・安全管理について					安全管理の必要性を理解する。				
7	リスク管理について					臨床上、起こりうる危険についてKYTトレーニングを通して理解を深める。				
8	多職種連携とコミュニケーションについて					多職種の仕事を学び、円滑な連携ができるように理解を深める。				
9	作業療法のマネジメントについて					作業療法に必要なマネジメントを学び、理解を深める。				
10	診療報酬・介護報酬について①調べ学習					診療報酬・介護報酬について、グループで調べて理解する。				
11	診療報酬・介護報酬について②調べ学習					診療報酬・介護報酬について、グループで調べて理解する。				
12	診療報酬・介護報酬について③調べ学習					診療報酬・介護報酬について、グループで調べて理解する。				
13	診療報酬・介護報酬について④発表準備					診療報酬・介護報酬について、グループで調べて理解する。				
14	診療報酬・介護報酬について⑤発表					診療報酬・介護報酬について、グループで調べてたものを発表し、ディスカッションする。				
15	まとめ					筆記試験に向けてまとめる。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	作業療法管理学入門 第2版					大庭潤平		医歯薬出版株式会社		
	2022(令和4)年度改定対応版リハビリテーション 報酬&介護報酬マニュアル制度のしくみと算定のきほん					本橋隆子		医歯薬出版株式会社		
成績評価 方法	1. 筆記試験(100%)					履修上の 注意	特になし。			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関で15年間の実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床作業学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	徳若 雅之、大田茂臣、吉木 奈王子、非常勤講師						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 これまで学んだ作業を用いた評価や作業治療学をもとに、作業の臨床場面における応用に関する各種理論や知識・技術を学習し、活用できるようになる。					【到達目標】 ・対象者の疾患特性や生活を考慮し、その人にとって意味のある作業を理解する。 ・対象者に合った評価方法を選択し、実践できるようになる。 ・各種治療理論に基づき作業療法実践の流れを理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション COPM①					COPMについて理解し、説明できる				
2	COPM②					COPMを活用できる				
3	AMPS、ESI①					AMPSおよびESIについて理解し、説明できる				
4	AMPS、ESI②					AMPSおよびESIについて理解し、説明できる				
5	人間作業モデル(MOHO)の理論と関連評価①					人間作業モデル(MOHO)について理解し、説明できる 人間作業モデル(MOHO)を活用できる				
6	人間作業モデル(MOHO)の理論と関連評価②									
7	人間作業モデル(MOHO)の理論と関連評価③									
8	人間作業モデル(MOHO)の理論と関連評価④									
9	高次脳機能評価①					様々な高次脳機能評価法を知り、各評価法について理解し、説明できる 疾患や症状に合った評価法を選択できる 評価を正しく実践できる 評価結果を解釈することができる				
10	高次脳機能評価②									
11	高次脳機能評価③									
12	高次脳機能評価④									
13	高次脳機能評価⑤									
14	事例を通してのADL場面の動作分析①					動作分析ができるようになる またその結果から、対象者の生活への影響を考え、対象者に指導できるようになる				
15	事例を通してのADL場面の動作分析②									
教科書	書籍名					著者		出版社		
	適宜資料を配布する									
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	筆記試験 100%					履修上の 注意	講義順序について、一部変更する可能性あり			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関で10年以上の実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	身体機能作業治療学Ⅲ(筋・骨格系)					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	徳若 雅之						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.解剖学、運動学を基盤に上肢の機能解剖について理解を深める。 2.上肢における筋腱、骨、関節、末梢神経の障害について発生・損傷機序、外科的治療を知り、整形外科(手外科領域を中心に)の対象とする損傷に対する評価、リハビリテーションについて学習する。					【到達目標】 1.上肢の機能解剖について理解する。 2.骨、筋腱、神経、血管の修復過程を知る。 3.手外科における観血的治療、非観血的治療について知る。 4.手外科における作業療法士の関わりを知る。 5.損傷に合わせたリハビリテーションを知る。					
回数	授業内容					学習目標				
1	上肢の機能解剖 肩関節複合体の機能解剖					上肢における運動器疾患の治療に必要な肩関節複合体のバイオメカニクスについて理解を深める。				
2	上肢の機能解剖 肩関節複合体の機能解剖					上肢における運動器疾患の治療に必要な肩関節複合体のバイオメカニクスについて理解を深める。				
3	上肢の機能解剖 肘関節・前腕の機能解剖					上肢における運動器疾患の治療に必要な肘関節・前腕のバイオメカニクスについて理解を深める。				
4	上肢の機能解剖 手関節の機能解剖					上肢における運動器疾患の治療に必要な手関節のバイオメカニクスについて理解を深める。				
5	上肢の機能解剖 手指の機能解剖					上肢における運動器疾患の治療に必要な手指のバイオメカニクスについて理解を深める。				
6	拘縮概論 拘縮の種類、評価と治療					上肢における運動器疾患で対象とする拘縮について評価と治療を理解する。				
7	骨折概論 骨折の治癒過程、上肢に代表される骨折の評価と治					上肢骨折について評価と治療を理解する。(主に上腕骨近位端骨折)				
8	骨折概論 骨折の治癒過程、上肢に代表される骨折の評価と治					上肢骨折について評価と治療を理解する。(主に橈骨遠位端骨折)				
9	腱損傷概論 評価と治療(スプリンティング、固定法、早期運動療法)					上肢における腱損傷について評価と治療を理解する。				
10	腱損傷概論 評価と治療(スプリンティング、固定法、早期運動療法)					上肢における腱損傷について評価と治療を理解する。				
11	末梢神経損傷概論 神経再生のメカニズム、評価と治療					上肢における末梢神経損傷について評価と治療を理解する。				
12	末梢神経損傷概論 神経再生のメカニズム、評価と治療					上肢における末梢神経損傷について評価と治療を理解する。				
13	評価 関節可動域、筋力					上肢における関節可動域、筋力の評価について理解する。				
14	評価 知覚					上肢における知覚の評価について回復過程における段階的な知覚評価について理解する。				
15	知覚に対するアプローチ 知覚の再教育					上肢における知覚の再教育について理解する。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	作業療法マニュアル33 ハンドセラピー							日本作業療法士協会		
参考図書等	手 その機能と解剖					編著 上羽康夫		金芳堂		
	手 その損傷と治療					編著 上羽康夫		金芳堂		
	臨床ハンドセラピー Our Hand Therapy Protocol					編集 坪田貞子		文光堂		
成績評価方法	1.定期試験(授業計画1~8に対しての試験45%、9~15に対しての試験45%) 2.小テスト:加点対象 平均80点以上5点・70点以上4点・60点以上3点 50点以上2点・40点以上1点 3.事前課題:加点対象 提出ごとに1点					履修上の注意		・上肢について運動学、解剖学を復習して授業に臨むようにしてください。 ・定期試験(2回)の合格基準はそれぞれ6割以上とする。		
						実務経験紹介		作業療法士として整形外科領域で16年の実務経験。当学院入職後もクリニック、スポーツ現場で臨床継続。		

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	精神機能作業治療学Ⅲ(応用Ⅱ)					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師、吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 精神科領域での作業療法の関わりや、精神領域で実践されているさまざまな心理療法について学び、精神障害の作業療法において用いることのできる種々の治療技法について体験的に学習する。					【到達目標】 ・臨床で実践されている心理検査・心理療法・認知行動療法などについて知る ・作業療法士が用いる可能性の高い心理検査や治療技法について体験し学習する					
回数	授業内容				学習目標					
1	認知症の生活障害について①				認知症の方の生活について知り、関わり方を理解する 認知症に対する作業療法について理解し、考えることができる					
2	認知症の生活障害について②									
3	認知症の生活障害について③									
4	精神科臨床で用いられるさまざまな心理療法				カウンセリングについて理解する					
5	防衛機制とこころのしくみ①				ひとのこころの仕組みについて知り、適切な関わり方を理解する					
6	防衛機制とこころのしくみ②									
7	防衛機制とこころのしくみ③									
8	インテーク面接、作業面接、集団オリエンテーション①				インテーク面接、作業面接、集団オリエンテーションについて理解し、適切に行えるようになる					
9	インテーク面接、作業面接、集団オリエンテーション②									
10	インテーク面接、作業面接、集団オリエンテーション③									
11	インテーク面接、作業面接、集団オリエンテーション④									
12	精神科医療における作業療法の実際①				精神科領域における作業療法の実践について理解する 精神科領域における患者の状況や患者との関わり方、リスク管理、作業療法士の役割等を理解する					
13	精神科医療における作業療法の実際②									
14	精神科医療における作業療法の実際③									
15	精神科医療における作業療法の実際④									
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	適宜資料を配布する									
	適宜紹介									
成績評価 方法	筆記試験 100%				履修上の 注意	講義順序は状況により変更する可能性がある				
					実務経験 紹介	各講師とも臨床にてそれぞれの分野で実務経験あり				

科目 区分	専門	履修形態	必修	科目名	義肢装具学各論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	大坪誠、他						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 リハビリテーション医学における義肢装具(療法)は、機能代償を目的で処方されることもあるが、治療の過程で用いられる頻度も高い。本講では、臨床に即した内容で講義する。					【到達目標】 1.疾患装具の種類と疾患・障害を結びつけられるようになる。 2.義肢装具の分類(種類)と評価方法を理解する。					
回数	授業内容				学習目標					
1	上肢装具				上肢におけるスプリントの適応、作製手順、注意点について理解する。					
2	スプリント作製実習①				熱可塑性プラスチックを使用し、手関節の安静位保持を目的とするスプリントの作製を経験する。					
3	スプリント作製実習②				熱可塑性プラスチックを使用し、手関節の安静位保持を目的とするスプリントの作製を経験する。					
4	スプリント作製実習③				熱可塑性プラスチックを使用し、手指の変形予防を目的とするスプリントの作製を経験する。					
5	スプリント作製実習④				熱可塑性プラスチックを使用し、手指の変形予防を目的とするスプリントの作製を経験する。					
6	義手①				義手の種類、構造、部品について理解する。					
7	義手②				肩義手、上腕義手、前腕義手、手部義手の適応について理解する。					
8	筋電義手				筋電義手の構造、制御システム、手先具の種類について理解する。					
9	大腿義足① (大腿切断原因と断端管理)				大腿義足について、大腿切断原因と断端管理について理解する。					
10	大腿義足② (ソケットデザインとアライメント)				大腿義足について、ソケットデザインとアライメントについて理解する。					
11	大腿義足③ (異常歩行とその調整)				大腿義足について、異常歩行時の調整について理解する。					
12	下腿義足① (下腿切断原因と断端管理)				下腿義足について、下腿切断原因と断端管理について理解する。					
13	下腿義足② (ソケットデザインとアライメント)				下腿義足について、ソケットデザインとアライメントについて理解する。					
14	下腿義足③ (異常歩行とその調整)				下腿義足について、異常歩行時の調整について理解する。					
15	トピックス				世界に義肢装具の活用(動向)について知る。					
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	義肢装具のチェックポイント				日本整形外科学会		医学書院			
	装具学				編 加倉井周一		医歯薬出版			
	義肢学				編 沢村誠志		医歯薬出版			
成績評価 方法	1.定期試験 100% ※定期試験の合格点は60点以上とする。				履修上の 注意		1.整形外科疾患、中枢神経系疾患の病態障害を理解して授業に臨むこと。 2.実習では、フットワークよく動くこと。			
					実務経験 紹介		義肢装具士として長年に渡り義肢、装具の作製に携わっている。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業治療学演習Ⅰ							
単位数	2	時間数	60	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	演習		
担当	徳若 雅之、吉木 奈王子						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無		
【授業の概要】 臨床実習Ⅱに向けて、当事者の方への模擬評価体験などを通して、作業療法の一連の過程を学習する					【到達目標】 - 作業療法評価から実践までの流れを理解し説明できる - 作業療法評価実践に必要な基礎知識や技術面の精度を上げ、臨床実習に向けて準備性を高める - 模擬評価体験を通して、結果を記録できる - 模擬評価体験を通して、ICFを用いての情報整理、評価結果の統合と解釈、主目標・副目標立案、全体像の把握、プログラム立案までの作業療法評価過程について、経験し理解する - グループ活動を通して、多職種が協働することの意味について考えることができる							
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標				
1	オリエンテーション 事例提示、読み込み		講義の目的とルールを理解する 事例の情報を整理することができる		16	当事者に対する評価		当事者に対して、リスク管理と評価を行うことができる				
2	言葉調べ		わからないことに対し、教科書や文献を使い調べ、内容を理解する		17	・評価結果の情報共有・情報整理 ・評価結果の統合と解釈 ・介入の基本方針 ・主目標・副目標の設定		評価結果の情報をクラスメートにわかりやすく説明して共有できる 共有した情報を、整理できる				
3	当事者面接の準備		面接内容を考え、面接の準備をすることができる		18							
19												
5	当事者面接		当事者に面接を行い、必要な情報収集を行うことができる		20							
6	面接後の情報整理		面接から得られた情報を整理することができる		21							
22												
8	動作・ADL場面の動画視聴		動作分析を行い、対象者の状態について予測立てができる		23							
9	評価項目列挙		評価項目の列挙ができる		24							
10	評価計画立案 フィードバック		評価計画の立案ができる		25							
26												
12	当事者に対する評価の準備		自主的・積極的に評価の実技練習ができる グループで協力して、評価準備と役割決めができる		27							
13					28							
14					29							
15	当事者に対する評価		当事者に対して、リスク管理と評価を行うことができる		30							
教科書	書籍名				著者				出版社			
	特に定めない(自分で必要な教科書を準備すること)											
参考 図書等	適宜紹介											
成績評価 方法	レポート課題 100% ※提出期限を厳守し、遅れたものは受理できない				履修上の 注意	・身だしなみについては臨床実習時と同等の基準で実施する ・グループ活動が中心となるため、協調性と責任をもって自分の役割を遂行すること						
					実務経験 紹介	各教員とも、作業療法士として医療機関での臨床経験あり						

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業治療学演習Ⅱ					
単位数	2	時間数	60	学年/学科	3年	作業	学期	後期	授業形態	演習
担当	吉木 奈王子、非常勤講師						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 作業療法の一連の過程を体験型、事例検討を通じて学習し、諸々の活動を治療手段として活用できるようになる。					【到達目標】 ・作業療法実践の流れを事例学習や特別講義を通じて理解する ・各領域における作業療法実践を理解する					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	吸引		吸引手技の体験を通して、吸引についての基礎知識を理解する		16	アートセラピー		精神科作業療法の治療手段の一つとして知る 自ら体験することで、対象者への効果を考える		
2	吸引				17	SST事前授業				
3	吸引				18	SST				
4	運動器の画像診断		運動器疾患の画像の診かたを説明できる		19	SST				
5	運動器の画像診断				20	SST				
6	運動器の物理療法		治療の手段である物理療法の原理を理解することができる 自ら物理療法を体験し、対象者への効果を考える		21	SST		精神科作業療法の治療手段の一つとして知る 自ら体験することで、対象者への効果を考える		
7	運動器の物理療法				22	精神作業療法とヨガ(マインドフルネス)				
8	発達障害の作業療法		発達障害に対する作業療法について自ら体験することで理解する		23	精神作業療法とヨガ(マインドフルネス)		精神科作業療法の治療手段の一つとして知る 自ら体験することで、対象者への効果を考える		
9	発達障害の作業療法				24	作業活動の実践と地域とのつながり				
10	WRAP事前授業		精神科作業療法の治療手段の一つとして知る 自ら体験することで、対象者への効果を考える		25	作業活動の実践と地域とのつながり		手工芸などの作業活動を通して対象者を社会参加につなげる作業療法士の活躍を知る		
11	WRAP				26	高齢者疑似体験サポート				
12	WRAP				27	高齢者疑似体験サポート		作業療法の治療手段であるレクリエーションについて考える 自分で考えたレクリエーションを発表し、クラスメートに体験してもらい、効果を検証する		
13	アートセラピー		精神科作業療法の治療手段の一つとして知る 自ら体験することで、対象者への効果を考える		28	レクリエーションを考える				
14	アートセラピー				29	レクリエーションを考える				
15	アートセラピー				30	レクリエーションの発表				
教科書	書籍名				著者				出版社	
	適宜資料を配布する									
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	それぞれの授業項目のレポート課題 総合で60% レクリエーション発表 40%				履修上の注意	授業開講日時が変則的になることがあるので、日程を確認すること				
					実務経験紹介	作業療法士としてそれぞれの分野で実務経験あり				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業治療学演習Ⅲ					
単位数	2	時間数	60	学年/学科	3年	作業	学期	後期	授業形態	演習
担当	徳若 雅之、濱本 尊博、吉木 奈王子、大田 茂臣、非常勤講師						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・臨床実習Ⅱの経験を踏まえ、各領域の模擬事例を用い、評価～全体像の把握、治療計画の立案の思考過程を学習する ・各領域の作業療法プログラムについて、基本的思考や応用を学び、臨床実習Ⅲ・Ⅳに向けての準備性を高める。					【到達目標】 ・模擬事例を通して、全体像の把握、治療計画立案について考えることができる ・各領域における治療手技・治療援助について理解できる					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	実習の振り返り①		実習の症例について再考し、整理する 症例に対する思考過程についてアウトプットできる		16	整形外科疾患の事例検討⑥		神経難病の模擬事例を通して、評価～全体像の把握、治療計画の立案の思考過程および作業療法プログラムについて理解する		
2	実習の振り返り②				17	神経難病の事例検討①				
3	実習の振り返り③				18	神経難病の事例検討②				
4	実習の振り返り④				19	神経難病の事例検討③				
5	中枢疾患の事例検討①		中枢疾患の模擬事例を通して、評価～全体像の把握、治療計画の立案の思考過程および作業療法プログラムについて理解する		20	神経難病の事例検討④		神経難病の模擬事例を通して、評価～全体像の把握、治療計画の立案の思考過程および作業療法プログラムについて理解する		
6	中枢疾患の事例検討②				21	内部障害の事例検討①				
7	中枢疾患の事例検討③				22	内部障害の事例検討②		内部障害の模擬事例を通して、評価～全体像の把握、治療計画の立案の思考過程および作業療法プログラムについて理解する		
8	中枢疾患の事例検討④				23	認知症の事例検討①				
9	中枢疾患の事例検討⑤				24	認知症の事例検討②				
10	中枢疾患の事例検討⑥				25	認知症の事例検討③				
11	整形外科疾患の事例検討①		整形外科疾患の模擬事例を通して、評価～全体像の把握、治療計画の立案の思考過程および作業療法プログラムについてする		26	認知症の事例検討④		精神疾患の模擬事例を通して、評価～全体像の把握、治療計画の立案の思考過程および作業療法プログラムについて理解する		
12	整形外科疾患の事例検討②				27	精神疾患の事例検討①				
13	整形外科疾患の事例検討③				28	精神疾患の事例検討②				
14	整形外科疾患の事例検討④				29	精神疾患の事例検討③				
15	整形外科疾患の事例検討⑤				30	精神疾患の事例検討④				
教科書	書籍名				著者				出版社	
	特に定めない									
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	それぞれの授業項目のレポート課題 総合で100%				履修上の 注意	提出物は期限厳守とする。遅れたものは0点とする				
					実務経験 紹介	作業療法士としてそれぞれの分野で実務経験あり				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法治療学特論Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	吉木 奈王子、学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 身体機能作業療法で行う治療方法を知り、治療・援助 を実践するまでの過程や治療法を学習する。					【到達目標】 ・身体機能作業療法で行う治療手段の種類を知る ・身体機能障害の原因や発生機序について説明できる ・身体機能作業療法で行う治療法をクラスメイトに安全 に実施できる					
回数	授業内容				学習目標					
1	関節可動域運動①				各身体機能障害の原因や発生機序について説明できる 各身体機能障害で行う治療手段の種類を知る 各身体機能障害に対する治療の目的と適応、リスク管理に ついて説明できる 各身体機能障害に対するアプローチをクラスメイトに安全に 実施できる					
2	関節可動域運動②									
3	筋力・筋持久力運動①									
4	筋力・筋持久力運動②									
5	筋緊張異常に対するアプローチ①									
6	筋緊張異常に対するアプローチ②									
7	不随意運動に対するアプローチ①									
8	不随意運動に対するアプローチ②									
9	協調運動障害に対するアプローチ①									
10	協調運動障害に対するアプローチ②									
11	知覚再教育①									
12	知覚再教育②									
13	廃用症候群に対するアプローチ①									
14	廃用症候群に対するアプローチ②									
15	まとめ、復習									
教科書	書籍名				著者		出版社			
	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版				山口 昇、玉垣 努		医学書院			
参考 図書等	適宜配布									
成績評価 方法	筆記試験 100%				履修上の 注意		作業療法士として医療機関に10年以上勤務した経験あり			
					実務経験 紹介					

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	社会福祉援助技術論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	大田 茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 障害者総合支援法を中心に社会資源についての理解を深め、それらを有効に活用し、対象者の地域生活を支援するために必要なケアマネジメントの理論と基本的な方法を学ぶ。就労支援を中心に働くことの意味や障害がもたらす職業生活上の支障、雇用の現状、就労支援制度について幅広く学習し、作業療法士の取り組みを考える。					【到達目標】 ・対象者の生活支援に活用する障害者福祉サービスについて制度の概要およびサービスの内容について理解する。 ・事例を通して、ニーズアセスメント～ケアプラン作成の過程を体験する。 ・ケアマネジメント機能を備えた専門職として、チームの中での果たす役割について理解する。 ・自分にとって働くことの意味について理解する。 ・障害の特性と職業生活上の問題を理解する。 ・就労支援制度、支援機関について理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	当事者・支援者のお話を伺う① 準備					統合失調症の病態を理解し、当事者への質問事項をまとめる。				
2	当事者・支援者のお話を伺う② 準備					面接のレイアウトや当日の役割決め、当事者への質問内容を再度まとめる。				
3	当事者・支援者のお話を伺う③ 講義					相談支援専門員の役割を理解し、当事者への関わり方を深く理解する。				
4	当事者・支援者のお話を伺う④ 面接					当事者や支援者に対しての面接を行いながら、質問の意図や話を深堀することを体験する。				
5	施設見学・就労継続支援・障害者支援施設・生活介護事業所①					施設見学を行いながら、その施設の役割を理解する。				
6	施設見学・就労継続支援・障害者支援施設・生活介護事業所②					施設見学を行いながら、その施設の役割を理解する。				
7	障害を持つ人への就労支援の実際、就労支援と生活支援①					就労支援について学び、作業療法士として何ができるのか考えることができる。				
8	障害を持つ人への就労支援の実際、就労支援と生活支援②					就労支援について学び、作業療法士として何ができるのか考えることができる。				
9	ケアマネジメントについて①					ケアマネジメントの意義や目的を理解する。				
10	ケアマネジメントについて②					ケアマネジメントの意義や目的を理解する。				
11	発達・精神障害領域：事例をもとにケアプラン作成①					症例をもとにケアマネジメントができる。				
12	発達・精神障害領域：事例をもとにケアプラン作成②					症例をもとにケアマネジメントができる。				
13	発達・精神障害領域：事例をもとにケアプラン作成③					症例をもとにケアマネジメントができる。				
14	資源開発について①					症例をもとに目標を達成するための社会資源が想起できる。				
15	資源開発について②					症例をもとに目標を達成するための社会資源が提案できる。				
教科書	書籍名					著者				
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	課題レポート(100%)					履修上の注意	見学実習の注意点や準備物について、配した資料を確認しておくこと。			
						実務経験紹介	作業療法士経験15年以上あり。また各領域の講師も就労支援施設の在籍経験が15年以上あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	地域作業療法学演習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤、濱本 尊博						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 介護保険を中心に社会資源についての理解を深め、それらを有効に活用し対象者の地域生活を支援するために必要なケアマネジメントの理論と基本的な方法を学ぶ。事例をもとにケアプラン作成の思考過程を体験し、その体験を通して、ケアマネジメント機能を備えた専門職としてチームの中で作業療法士が果たす役割について考える。					【到達目標】 ・ケアマネジメントの理論と基本的な方法について理解する。 ・対象者の生活支援に活用する社会保障制度の概要及びサービスの内容について理解することができる。 ・事例を通して、ニーズアセスメント～ケアプラン作成の過程を体験することができる。 ・生活行為向上マネジメントの基本的な考え、プロセス、マネジメントシートを理解し、説明できる。 ・地域における実践事例を通して、作業療法の役割や活動内容を理解できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	介護保険制度の仕組みとサービス・・・講義					介護保険制度の仕組みとサービスを説明できる。				
2	ケアマネジメントとは、ケアマネジメントのプロセス・・・講義					事例を通して、ニーズアセスメント～ケアプラン作成の過程を体験することができる。				
3	ケアプラン作成(高齢期)①・・・グループワーク									
4	ケアプラン作成(高齢期)②・・・グループワーク									
5	ケアプラン作成(高齢期)③・・・グループワーク									
6	ケアプラン発表(高齢期)									
7	生活行為向上マネジメントとは、大切な作業の聞き取り演習・・・講義・演習					生活行為向上マネジメントの基本的な考え、プロセス、マネジメントシートを理解し、説明できる。				
8	生活行為向上マネジメント演習①・・・グループワーク									
9	生活行為向上マネジメント演習②・・・グループワーク									
10	生活行為向上マネジメント演習③・・・グループワーク									
11	生活行為向上マネジメント演習④・・・グループワーク									
12	生活行為向上マネジメント演習⑤・・・グループワーク									
13	生活行為向上マネジメント演習⑥・・・グループワーク									
14	生活行為向上マネジメント演習⑦・・・グループワーク									
15	地域における作業療法実践事例の紹介					地域における実践事例を通して、作業療法の役割や活動内容を理解できる。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第4版					小川恵子		医学書院		
	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント					(一社) 日本作業療法士協会		医歯薬出版株式会社		
	作業療法マニュアル66 生活行為マネジメント					(一社) 日本作業療法士協会				
参考図書等										
成績評価方法	1. 筆記試験(100%)					履修上の注意	授業開講日時が変則的になることがあるので、日程確認をすること。			
						実務経験紹介	作業療法士として医療機関での実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	生活環境論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	濱本 尊博						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 対象者が住み慣れた環境で生活を継続するために、必要な生活環境支援について学び、より対象者の生活を理解できるようになる。					【到達目標】 ・福祉用具の基本的な事柄(目的、部分名称、使用方法)について理解する。 ・住環境整備の考え方を理解する。 ・ADL・IADLを支援するための福祉用具・住環境整備の流れに沿って作業療法士の役割および多職種との連携について理解する。					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション、生活環境論の特徴と課題・制度・・・講義				生活環境論の特徴と課題・制度について説明できる。					
2	生活環境整備の基本①・・・講義・演習				生活環境整備の基本について説明できる。					
3	生活環境整備の基本②・・・演習									
4	生活環境整備の基本③・・・演習									
5	生活環境整備の基本④・・・講義									
6	基本的な建築図面の読み方・書き方①・・・演習				基本的な建築図面の読み方・書き方について説明できる。					
7	基本的な建築図面の読み方・書き方②・・・演習									
8	福祉用具の選び方・使い方①リフト・・・講義・演習				福祉用具の選び方・使い方について説明できる。					
9	福祉用具の選び方・使い方①リフト・・・講義・演習									
10	福祉用具の選び方・使い方②座位移乗用具ト・・・講義・演習									
11	福祉用具の選び方・使い方③入浴関連用具・手すり・・・講義・演習									
12	福祉用具の選び方・使い方④車椅子・・・講義・演習									
13	福祉用具の選び方・使い方⑤電動車椅子・・・講義・演習									
14	福祉用具の選び方・使い方⑥車椅子シーティングとその評価・・・講義・演習									
15	福祉用具の選び方・使い方⑦ベッドおよびベッド関連用具・・・講義・演習									
教科書	書籍名				著者		出版社			
	改訂6版 福祉住環境コーディネーター検定2級テキスト 適宜資料配布				東京商工会議所					
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	筆記試験(100%)				履修上の 注意	課題提出の形式・日時を厳守すること				
					実務経験 紹介	作業療法士として医療機関での実務経験あり。市介護給付適正委員会の委員。				

科目 区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床実習Ⅱ					
単位数	8	時間数	320	学年/学科	3年	作業	学期	後期	授業形態	実習
担当	学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 臨床実習指導者のもと、対象者に関わる中で作業療法の一連過程を経験し、作業療法や作業療法士への理解を深める。 臨床実習を通じて、職業人としての態度、知識や技術を習得する。					【到達目標】 ・「作業療法」を職業とする志を確固たるものにする ・「作業療法士」としての倫理観や基本的態度を身に付けることができる ・対象者や障害に対する理解を深めることができる ・作業療法の一連の過程(評価・目標設定・プログラム立案)を理解できる ・許容された臨床技能を実践できる ・記録・報告ができる ・場面や状況に応じた連絡・相談ができる ・作業療法の管理・運営について理解することができる					
回数	授業内容				学習目標					
1	身体・高齢期・発達・精神領域のうち1つの領域の病院・施設における臨地実習				各実習地において実習指導者のもと到達度目標を達成することができる					
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	臨床実習の手引き									
成績評価 方法	1. 臨床実習における提出物 2. 症例報告会(レジメ、報告会の基本的態度) 3. 到達度試験 OSCE(実習前、実習後)、模擬事例試験 ※上記3項目より基本的態度50%、臨床思考過程30% 臨床技能20%の割合で成績判定する				履修上の 注意	・臨床実習の手引きを熟読し理解しておくこと ・成績評価は左記に示す1～3において行う。合格基準はそれぞれ6割以上とする				
					実務経験 紹介	臨床実習指導者講習会を終了した指導者が指導にあたる。また学科教員も同講習会を終了したものが担当する				

専門科目 4 年次

- ◇作業療法セミナーⅦ
- ◇臨床作業療法実践研究
- ◇作業療法管理学Ⅱ
- ◇作業療法治療学特論Ⅱ
- ◇臨床実習Ⅲ
- ◇臨床実習Ⅳ

作業療法学科

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法セミナーⅦ					
単位数	1	時間数	60	学年/学科	4年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	徳若 雅之、学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.作業療法士国家試験に向け、必要な知識の整理や強化・定着に努め、専門職としての認識を深める。					【到達目標】 1.作業療法に関する基本的な知識や技術を身につける。 2.国家試験に向けて総合的な力を身につける。 3.臨床実習で得られた知識と経験をもとに、職業人としての自己課題を明確にし、意識を高める。					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	オリエンテーション 国家試験の問題構成		国家試験の問題構成を知り、取り組む準備をする。		16	業者模試④		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
2	業者模試①		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		17	業者模試④		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
3	業者模試①		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		18	業者模試④		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
4	業者模試①		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		19	業者模試⑤		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
5	業者模試①		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		20	業者模試⑤		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
6	業者模試の振り返り		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		21	業者模試⑤		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
7	業者模試②		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		22	業者模試⑤		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
8	業者模試②		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		23	業者模試⑥		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
9	業者模試②		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		24	業者模試⑥		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
10	業者模試②		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		25	業者模試⑥		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
11	業者模試③		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		26	業者模試⑥		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
12	業者模試③		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		27	業者模試⑦		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
13	業者模試③		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		28	業者模試⑦		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
14	業者模試③		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		29	業者模試⑦		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
15	業者模試④		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		30	業者模試⑦		自身の課題について理解し、次の試験への準備性を高める。		
教科書 参考 図書等	書籍名				著者				出版社	
	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学								医歯薬出版株式会社	
	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学								医歯薬出版株式会社	
	PT/OT国家試験必修ポイント 専門分野 基礎OT学								医歯薬出版株式会社	
	PT/OT国家試験必修ポイント 専門分野 障害別医学								医歯薬出版株式会社	
成績評価 方法	クエスチョン・バンク PO・OT 国家試験問題解説2024 共通問題・専門問題								メディックメディア	
	PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング基礎医学編・臨床医学編								南江堂	
	・筆記試験:100%				履修上の 注意	1.個人及びグループでの取り組みとなるため、各自が目標を持ち取り組むこと。 2.定期的に行う模試の成績が一定水準に達しない場合、別途課題を課す。				
					実務経験 紹介	各領域の臨床経験を有する教員である。				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床作業療法実践研究					
単位数	2	時間数	60	学年/学科	4年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.臨地実習を通じて出会った事例、様々な疾患、評価法、治療法などについて、テーマを設定し、調査・分析したものを体系的にまとめ発表する。					【到達目標】 1.臨床実習での体験から、自身にとって興味関心のあるテーマを探し、研究疑問を設定できる。 2.文献レビューができる。 3.担当教員の指導を仰ぎながら、研究をすることができる。 4.得られた知見を執筆要綱にそってまとめることができる。 5.得られた知見を他者に伝え、意見交換することができる。					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	執筆要綱、提出締め切りについて		論文の執筆要綱、提出締め切りについて理解する。		16	テーマ学習⑮ 研究実施		研究疑問について学びを深める。		
2	テーマ学習① テーマ探し		臨地実習を振り返る中で研究テーマを探す。		17	テーマ学習⑯ 研究実施		研究疑問について学びを深める。		
3	テーマ学習② テーマ探し		臨地実習を振り返る中で研究テーマを探す。		18	テーマ学習⑰ 研究実施		研究疑問について学びを深める。		
4	テーマ学習③ 研究疑問の設定		グループディスカッションを通じて研究疑問を設定する。		19	テーマ学習⑱ 論文作成		執筆要綱に沿って論文作成を進める。		
5	テーマ学習④ 研究疑問の設定		グループディスカッションを通じて研究疑問を設定する。		20	テーマ学習⑲ 論文作成		執筆要綱に沿って論文作成を進める。		
6	テーマ学習⑤ 文献レビュー		研究疑問に関連する文献レビューを実施する。		21	テーマ学習⑳ 論文作成		執筆要綱に沿って論文作成を進める。		
7	テーマ学習⑥ 文献レビュー		研究疑問に関連する文献レビューを実施する。		22	テーマ学習㉑ 論文作成		執筆要綱に沿って論文作成を進める。		
8	テーマ学習⑦ 文献レビュー		研究疑問に関連する文献レビューを実施する。		23	テーマ学習㉒ 論文作成		執筆要綱に沿って論文作成を進める。		
9	テーマ学習⑧ 研究実施		研究疑問について学びを深める。		24	テーマ学習㉓ 論文作成		執筆要綱に沿って論文作成を進める。		
10	テーマ学習⑨ 研究実施		研究疑問について学びを深める。		25	テーマ学習㉔ 論文作成		執筆要綱に沿って論文作成を進める。		
11	テーマ学習⑩ 研究実施		研究疑問について学びを深める。		26	テーマ学習㉕ 論文作成		執筆要綱に沿って論文作成を進める。		
12	テーマ学習⑪ 研究実施		研究疑問について学びを深める。		27	テーマ学習㉖ 論文作成		執筆要綱に沿って論文作成を進める。		
13	テーマ学習⑫ 研究実施		研究疑問について学びを深める。		28	テーマ学習㉗ 論文作成		執筆要綱に沿って論文作成を進める。		
14	テーマ学習⑬ 研究実施		研究疑問について学びを深める。		29	研究発表会		自身の行った研究について他者に伝えることができる。		
15	テーマ学習⑭ 研究実施		研究疑問について学びを深める。		30	研究発表会		自身の行った研究について他者に伝えることができる。		
教科書	書籍名				著者			出版社		
	作業療法マニュアル68 作業療法研究法マニュアル 改訂第3版							一般社団法人日本作業療法士協会		
参考図書等	それぞれの研究テーマに沿って担当教員と相談、決定									
成績評価方法	課題:論文100%				履修上の注意	1.ゼミ形式での実施とする。担当教員との連絡調整を行い、スケジュール管理を行うこと。				
						実務経験紹介 ゼミを担当する各教員については学術集会での発表を多く経験する。				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法管理学Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	4年	作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	大田 茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 作業療法士として求められる倫理、知っておくべき関連法規、諸制度、管理業務の基本について学び、作業療法士として働く意識を確立する。					【到達目標】 ・作業療法の実施とその対価(診療報酬・介護報酬など)について説明できる。 ・作業療法の実施における他職種との業務管理やカンファレンスについて説明できる。 ・人事考課、労務管理について説明できる。 ・作業療法士として働く自分の意識を明確にする。					
回数	授業内容					学習目標				
1	作業療法士のキャリアデザインについて①					現在の作業療法士の働き方を理解し、知識を深める。				
2	作業療法士のキャリアデザインについて②					新しい作業療法士の領域について考え、発表できるようになる。				
3	レセプト請求体験					保険診療等で働く医療事務について学び、理解を深める。				
4	作業療法士として働くための基礎知識① 病院の作業療法部門における管理・運営					病院における作業療法士の管理・運営や協会の組織運営について学び、知識を深める。				
5	作業療法士として働くための基礎知識② 施設の作業療法部門における管理・運営					施設における作業療法士の管理・運営や協会の組織運営について学び、知識を深める。				
6	作業療法士として働くための基礎知識③ 地域における管理運営の基礎					地域で働く作業療法士の意義や目的を学び、理解する。				
7	作業療法士として働くための基礎知識④ 自由診療における作業療法士の働き方					地域で働く作業療法士の意義や目的を学び、理解する。				
8	作業療法士として働くための基礎知識⑤ 発達分野で地域に根差した作業療法の実際					地域で働く作業療法士の意義や目的を学び、理解する。				
9	作業療法士として働くための基礎知識⑥ 地域での放課後デイサービスについて					地域で働く作業療法士の意義や目的を学び、理解する。				
10	作業療法(士)に求められるもの 当事者の視点から					当事者からみえる作業療法を学び、作業療法士として大切なものについて学び、理解を深める。				
11	会社経営からみた作業療法マネジメント					会社経営からみえる作業療法に必要なマネジメントについて学び、知識を深める。				
12	地域作業療法					日本のみならず、世界の作業療法を学び、文化に合わせたリハビリテーションを理解する。				
13	キャリア開発					作業療法士の今後の働き方を考え、様々な視点から将来を見据えていくことができる。				
14	私の目指す作業療法士像① 演習・発表準備					自身が目指す作業療法士像をまとめる。				
15	私の目指す作業療法士像② 発表					自身が目指す作業療法士像を発表し、他者と共有する。				
教科書	書籍名					著者				
	作業療法管理学入門 第2版					大庭 潤平				
参考図書等						出版社				
						医歯薬出版株式会社				
成績評価方法	1. レポート課題(100%)					履修上の注意	特になし。			
						実務経験紹介	作業療法士歴15年以上の経験あり。また当事者も講師経験が15年以上あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	作業療法治療学特論Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	4年	作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤、学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.作業療法士が臨床で関わる機会のある疾患を中心に事例検討などを通じて治療・援助を実践するまでの過程や治療法を理解する。					【到達目標】 1.基本的知識、評価手技を理解する。 2.事例を通じて必要な作業療法の一連の流れを理解する。 3.作業療法プログラムの立案、実施、リスク管理について理解する。 4.作業療法の臨床実践事例を通じ、作業療法士に必要な視点についての理解を深める。 5.得られた知見を他者に伝え、意見交換することができる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	事例検討 (中枢疾患の事例)				中枢疾患の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
2	事例検討 (中枢疾患の事例)				中枢疾患の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
3	事例検討 (中枢疾患の事例)				中枢疾患の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
4	事例検討 (運動器疾患の事例)				運動器疾患の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
5	事例検討 (運動器疾患の事例)				運動器疾患の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
6	事例検討 (運動器疾患の事例)				運動器疾患の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
7	事例検討 (精神疾患の事例)				精神疾患の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
8	事例検討 (精神疾患の事例)				精神疾患の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
9	事例検討 (精神疾患の事例)				精神疾患の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
10	事例検討 (認知症の事例)				認知症の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
11	事例検討 (認知症の事例)				認知症の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
12	事例検討 (認知症の事例)				認知症の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
13	事例検討 (発達障害の事例)				発達障害の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
14	事例検討 (発達障害の事例)				発達障害の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
15	事例検討 (発達障害の事例)				発達障害の事例に対する作業療法評価、評価の統合と解釈、介入方針より、治療プログラムの立案、治療実践について学び、理解を深める。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	標準作業療法学 専門分野 身体障害作業治療学 第4版				岩崎テル子		医学書院			
	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版				能美真一		医学書院			
参考 図書等										
成績評価 方法	1.課題レポート:100% (課題は5課題:1課題100点で平均点を最終点とする。)				履修上の 注意		1.変則的な授業開講日程となるため、日程確認をすること。			
					実務経験 紹介		各領域を担当する講師は各領域での豊富な経験を有す。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床実習Ⅲ					
単位数	8	時間数	320	学年/学科	4年	作業	学期	前期	授業形態	実習
担当	学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.臨床実習指導者のもと、対象者に関わる中で作業療法の一連の過程を経験し、作業療法・作業療法士への理解を深める。 2.臨床実習を通じて、職業人としての態度、知識や技術を習得する。					【到達目標】 1.『作業療法士』を職業とする志を確固たるものにする。 2.『作業療法士』としての倫理観や基本的態度を身につけることができる。 3.対象者や障害に対する理解を深めることができる。 4.作業療法の一連の過程(評価・目標設定・プログラム立案)を理解できる。 5.許容された臨床技能を実践できる。 6.記録・報告ができる。 7.作業療法の管理・運営について理解することができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	身体・高齢期・発達・精神領域のうち1つの領域の病院・施設における臨地実習					各実習地において実習指導者のもと到達度目標を達成することができる。				
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	臨床実習の手引き									
成績評価 方法	1.臨床実習における提出物 2.症例報告会(レジメ、報告会の基本的態度) 3.到達度試験 OSCE(実習前、実習後) 模擬事例試験 ※上記3項目より基本的態度50%、臨床思考過程30%、臨床技能20%の割合で成績判定する。					履修上の 注意	1.臨床実習の手引きを熟読すること。 2.成績評価は左記に示す1～3において行う。合格基準はそれぞれ6割以上とする。			
						実務経験 紹介	臨床実習指導者講習会を終了した指導者が指導にあたる。また、学科教員も同講習会終了した者が担当。			

科目 区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床実習Ⅳ					
単位数	8	時間数	320	学年/学科	4年	作業	学期	前期	授業形態	実習
担当	学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.臨床実習指導者のもと、対象者に関わる中で作業療法の一連の過程を経験し、作業療法・作業療法士への理解を深める。 2.臨床実習を通じて、職業人としての態度、知識や技術を習得する。					【到達目標】 1.『作業療法士』を職業とする志を確固たるものにする。 2.『作業療法士』としての倫理観や基本的態度を身につけることができる。 3.対象者や障害に対する理解を深めることができる。 4.作業療法の一連の過程(評価・目標設定・プログラム立案)を理解できる。 5.許容された臨床技能を実践できる。 6.記録・報告ができる。 7.作業療法の管理・運営について理解することができる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	身体・高齢期・発達・精神領域のうち1つの領域の病院・施設における臨床実習				各実習地において実習指導者のもと到達度目標を達成することができる。					
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	臨床実習の手引き									
成績評価 方法	1.臨床実習における提出物 2.症例報告会(レジュメ、報告会の基本的態度) 3.到達度試験 OSCE(実習前、実習後) 模擬事例試験 ※上記3項目より基本的態度50%、臨床思考過程30%、臨床技能20%の割合で成績判定する。				履修上の 注意	1.臨床実習の手引きを熟読すること。 2.成績評価は左記に示す1～3において行う。合格基準はそれぞれ6割以上とする。				
					実務経験 紹介	臨床実習指導者講習会を終了した指導者が指導にあたる。また、学科教員も同講習会終了した者が担当。				